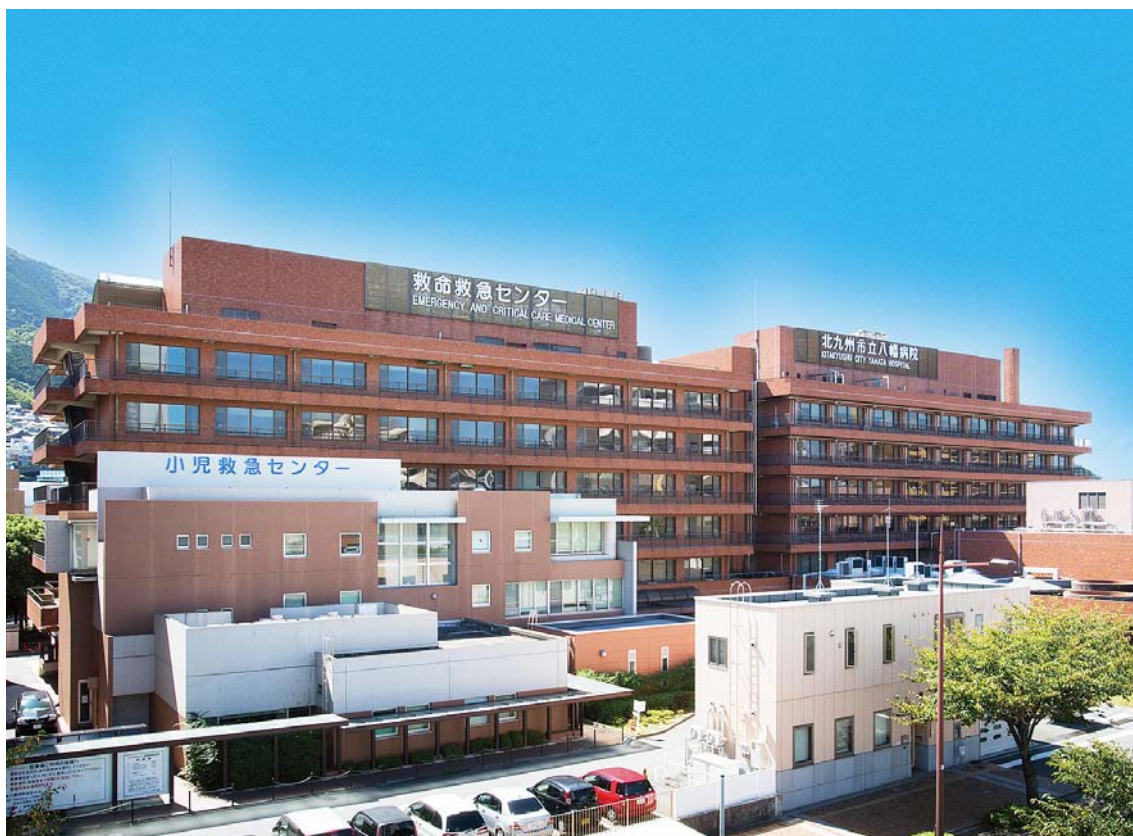


診療年報

第6号
(2016年)

北九州市立八幡病院



北九州市立八幡病院



2016年 市立八幡病院年報 発刊に寄せて

病院長 市川 光太郎

市立病院群の業績集から市立病院の減少とともに各病院の年報となり、既に第6刊目の発行となることを考えると早いものである。昨今の保険診療の改訂が最大の要因であるが、交通法の厳格化、日常的健康志向、生活習慣病への関心の高さ、予防接種の普及と周知など、病院のみならず医療環境は様変わりをしてきていると言えるであろう。そう言う意味では、新たに中小病院の存続には厳しい時代になっている。この点は、病院内においても専門診療科の発達により総合診療活動ができなくなる中小病院が多くなり、一定規模の病院では新たに総合診療を擁せざるを得ない状況である。専門診療として深化することも重要であるが、患者さんの幅広い不安要素を広く浅く汲み取ってあげるという総合診療化も一方では求められる時代でもあると言えよう。

このような医療環境の変化において、各診療医や医療者のモチベーションを高めるファクターは各医師、医療者で均一されたものではないことは自明の理である。そのファクターの1つに、日頃の診療の中から貴重な症例や診療の工夫や診療経験の総括などを論文化や学会発表することがある。その集大成が病院年報である。このような日頃の診療実績や診療姿勢を文字化したり、スライド化して口演することはとても重要な意味があり、当然ながら、若手の後輩達の成長にも欠かせない病院医療者の業績の形である。そう言う意味からは、毎年毎年の業績の担い手にどんどん若手の職員が入ってくることが望まれるし、そのような年報にしていかなければならないと考えているところです。

平成31年春から市立病院の独法化が決定されたが、それでも、やはり地域住民の健康と地域の医療提供体制を守ることが第一義の病院使命と考えられる。このためにはより良い効率のある医療提供を日頃から職員自ら創設していくことが重要である。このような工夫も見えてくる、読み止めることができる年報になっていくことが求められる。年報ありきの仕事ではないことは当然であり、日頃の医療奉仕の結果が年報になるという、真の姿を目指して、毎日の診療に汗して行くことを、年報刊行に関して想う日々であり、より住民のための診療提供が出来るようになるよう、職員みんなで努力していきたいものだと考えている。

平成29年7月吉日

院長あいさつ

1. 病院概要

基本理念・基本方針	1
組織図	2
施設基準一覧	3

2. 医療分析

全体的統計	5
-------	---

3. クローズアップ

熊本地震のDMAT出動	11
熊本地震 DMAT活動報告	12
震災時の熊本への薬剤師派遣について	14

4. 診療科部門紹介

内科	19
循環器内科	20
小児科	23
外科・呼吸器外科	24
整形外科	26
脳神経外科	27
形成外科	28
麻酔科	29
救急科	30
精神科	31
眼科	32
泌尿器科	34
放射線科	35
産婦人科	36
皮膚科	37

歯科	38
薬剤課	39
放射線技術課	40
臨床検査技術課	41
リハビリテーション技術課	43
臨床工学課	45
栄養管理課	46
看護部	47
事務局	48

5. 業績集

内科	49
循環器内科	50
小児科	53
外科・呼吸器外科	66
整形外科	76
脳神経外科	77
形成外科	77
放射線科	78
麻酔科	78
救急科	79
精神科	84
眼科	85
泌尿器科	85
薬剤課	85
放射線技術課	87
臨床検査技術課	88
リハビリテーション技術課	89
看護部門	89
院内研究会	96

6. 委員会報告

災害医療研修センター連絡協議会・災害医療チーム委員会	103
I C T委員会・感染制御室	105
臨床検査部門委員会	107
輸血療法委員会	109
放射線技術部門委員会	111
広報委員会	113
リスクマネジメント部会・医療安全管理室	115
医療連携室運営委員会	117
クリニカルパス委員会	119
褥瘡対策委員会	121
臨床研修管理委員会	122
電子カルテ委員会	123
内視鏡委員会	124
がん化学療法委員会	126
ソフトアップ委員会	128
コミュニティアクション・ヘルスサポート委員会	129
病床運営委員会	131
DPC委員会	132
新病院及び将来構想検討委員会	133
認知症対応力向上委員会	134
認定看護師会	135
NST運営委員会	136
家族と子ども支援委員会	137

7. 各種学会指導医・専門医・認定医一覧 139

8. 編集後記 143

1

病院概要



基本理念・基本方針

基本理念

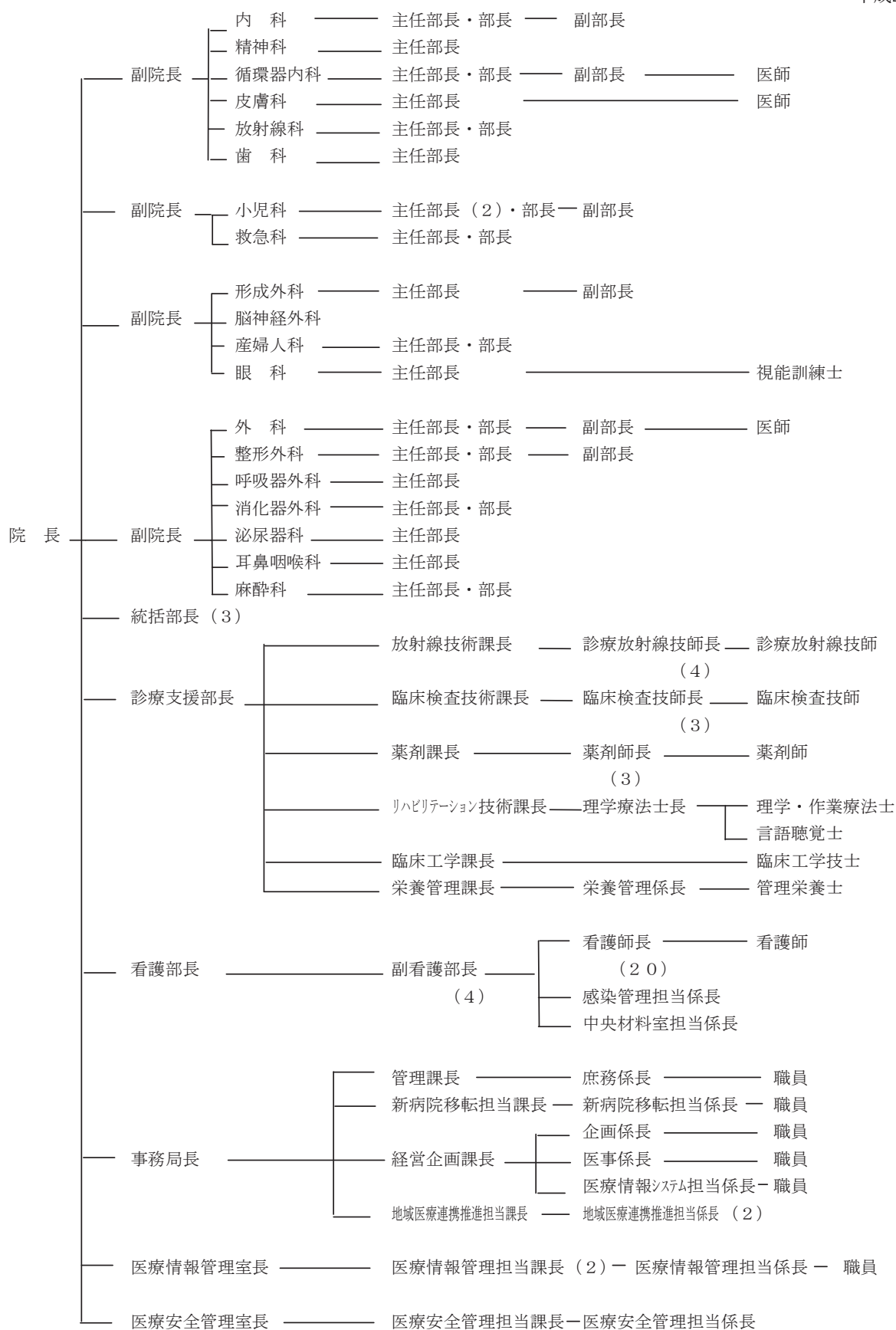
私たちは、24時間質の高い医療を提供し、
皆様に、安心・信頼・満足していただける病院をめざします。

基本方針

1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行います。
3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

組織図

平成29年4月



施設基準一覧

(平成29年4月1日現在)

分類	名 称	算定開始日	受理番号(略称)
基本	一般病棟入院基本料(10対1)	H24. 4. 1	(一般入院)第909号
基本	看護必要度加算1	H26. 2. 1	(一般入院)第909号
基本	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	H25. 7. 1	(臨床研修)第11号
基本	救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	H22. 4. 1	(救急加算)第108号
基本	超急性期脳卒中加算	H20. 4. 1	(超急性期)第32号
基本	診療録管理体制加算2	H12. 4. 1	(診療録2)第29号
基本	医師事務作業補助体制加算1(30対1)	H26. 2. 1	(事補1)第76号
基本	急性期看護補助体制加算1(25対1)	H25. 9. 1	(急性看護)第56号
基本	看護職員夜間配置加算(16対1)	H29. 1. 1	(看護夜配)第32号
基本	重症者等療養環境特別加算	H20. 8. 1	(重)第68号
基本	医療安全対策加算1	H23. 5. 1	(医療安全1)第208号
基本	感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	H24. 4. 1	(感染防止1)第22号
基本	患者サポート充実加算	H24. 4. 1	(患サポ)第102号
基本	退院支援加算2	H28. 4. 1	(退院)第104号
基本	精神疾患診療体制加算	H28. 4. 1	(精疾診)第26号
基本	総合評価加算	H28. 7. 1	(総合評価)第265号
基本	呼吸ケアチーム加算	H26. 2. 1	(呼吸チ)第25号
基本	データ提出加算2	H26. 9. 1	(データ提)第108号
基本	救命救急入院料1	H22. 4. 1	(救1)第5号
基本	特定集中治療室管理料3	H28.10. 1	(集3)第102号
基本	小児入院医療管理料1	H22. 4. 1	(小入1)第4号
基本	プレイルーム加算(西4)	H18. 4. 1	
基本	小児入院医療管理料4(東5)	H29. 4. 1	(小入4)第 号
基本	入院時食事療養(I)	H 5. 2. 1	(食)第90号
特掲	がん性疼痛緩和指導管理料	H27. 4. 1	(がん疼)第315号
特掲	がん患者指導管理料1	H26. 4. 1	(がん指1)第57号
特掲	がん患者指導管理料2	H26. 4. 1	(がん指2)第39号
特掲	がん患者指導管理料3	H26. 4. 1	(がん指3)第13号
特掲	地域連携小児夜間・休日診療料2	H22. 4. 1	(小夜2)第5号
特掲	地域連携夜間・休日診療料	H22. 4. 1	(夜)第2号
特掲	院内トリージ実施料	H24. 4. 1	(トリ)第23号
特掲	外来リハビリテーション診療料	H24. 4. 1	(リハ診)第101号
特掲	ニコチン依存症管理料	H22.10. 1	(ニコ)第593号
特掲	がん治療連携指導料	H23. 9. 1	(がん指)第673号
特掲	外来がん患者在宅連携指導料	H28. 4. 1	届出不要
特掲	薬剤管理指導料	H11. 2. 1	(薬)第232号
特掲	医療機器安全管理料1	H20. 4. 1	(機安1)第66号
特掲	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	H29. 4. 1	(持血測)第43号
特掲	在宅療養後方支援病院	H26.10. 1	(在後病)第17号
特掲	検体検査管理加算(Ⅱ)	H22.10. 1	(検Ⅱ)第116号
特掲	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	H28. 4. 1	(HPV)第215号
特掲	埋込型心電図検査	H22. 4. 1	(植心電)第8号
特掲	時間内歩行試験	H24. 4. 1	(歩行)第41号
特掲	シャトルウォーキングテスト	H28. 4. 1	届出不要
特掲	ヘッドアップティルト試験	H24. 4. 1	(ヘッド)第27号

施設基準一覧

(平成29年4月1日現在)

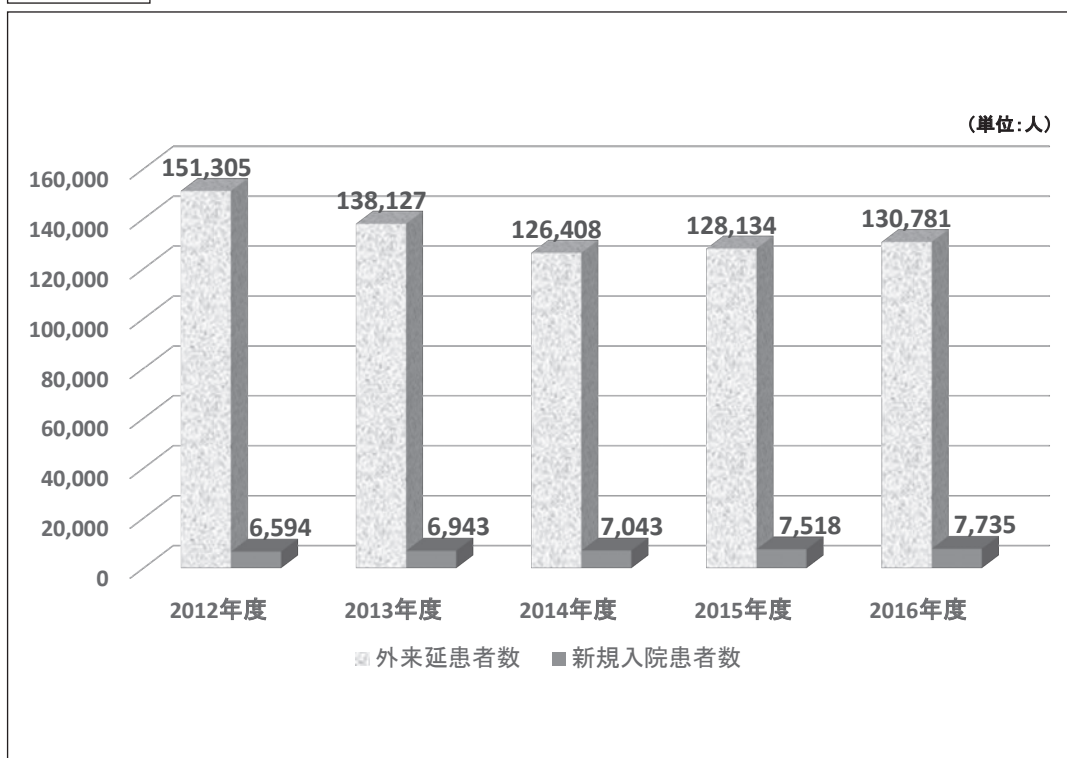
分類	名 称	算定開始日	受理番号(略称)
特掲	小児食物アレルギー負荷検査	H27. 5. 1	(小検)第62号
特掲	内服・点滴誘発試験	H22. 4. 1	(誘発)第6号
特掲	CT透視下気管支鏡検査加算	H24. 5. 1	(C気鏡)第14号
特掲	画像診断管理加算2	H20. 4. 1	(画2)第134号
特掲	CT撮影及び単純MRI撮影	H18. 4. 1	(C・M)第570号
特掲	心臓MRI撮影加算	H20. 4. 1	(心臓M)第23号
特掲	冠動脈CT撮影加算	H24. 4. 1	(冠動C)第64号
特掲	外傷全身CT加算	H24. 4. 1	(外傷C)第6号
特掲	大腸CT撮影加算	H26. 9. 1	(大腸C)第95号
特掲	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	H26. 1. 1	(抗悪処方)第58号
特掲	外来化学療法加算2	H25. 7. 1	(外化2)第72号
特掲	無菌製剤処理料	H23. 8. 1	(菌)第183号
特掲	心大血管疾患リハビリテーション料(I)	H23. 4. 1	(心I)第59号
特掲	初期加算(心大血管疾患リハビリテーション料(I))	H25. 8. 1	
特掲	脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	H28. 7. 1	(脳II)第126135号
特掲	廃用症候群リハビリテーション料(II)	H28. 7. 1	届出不要
特掲	運動器リハビリテーション料(I)	H22. 4. 1	(運I)第103号
特掲	呼吸器リハビリテーション料(I)	H27.11. 1	(呼I)第219号
特掲	初期加算(呼吸器リハビリテーション料(I))	H27.11. 1	
特掲	がん患者リハビリテーション料	H27.12. 1	(がんリハ)第112号
特掲	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術	H20. 4. 1	(通手)第365号
特掲	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む) 又は脳刺激装置交換術	H12. 4. 1	(脳刺)第13号
特掲	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	H27. 1. 1	(顎移)第6号
特掲	経皮的冠動脈形成術	H26. 4. 1	(経冠形)第47号
特掲	経皮的冠動脈ステント留置術	H26. 4. 1	(経冠ス)第47号
特掲	経皮的中隔心筋焼灼術	H16. 4. 1	(経中)第2号
特掲	ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術(電池交換含む)	H10. 4. 1	(ペ)第87号
特掲	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	H22. 4. 1	(植心)第12号
特掲	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	H10. 4. 1	(大)第36号
特掲	経皮的大動脈遮断術	H22. 4. 1	(大遮)第6号
特掲	ダメージコントロール手術	H22. 4. 1	(ダメ)第5号
特掲	胆管悪性腫瘍手術 (臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	H28. 5. 1	(胆腫)第16号
特掲	腹腔鏡下肝切除術	H28. 4. 1	(腹肝)第37号
特掲	腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術	H27. 4. 1	(腹臍)第22号
特掲	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	H28. 5. 1	(早大腸)第44号
特掲	胃瘻造設術	H26. 4. 1	(胃瘻造)第80号
特掲	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	H26. 4. 1	(胃瘻造嚥)第43号
特掲	輸血管理料II	H27. 4. 1	(輸血II)第98号
特掲	人工肛門・人工膀胱造設前処置加算	H27.12. 1	(造設前)第70号
特掲	麻酔管理料(I)	H 8. 4. 1	(麻管I)第61号
特掲	酸素の購入単価	H24. 4. 1	(酸素)第125138号
特掲	CAD/CAM冠	H28. 5. 1	(歯CAD)第2218号
特掲	クラウン・ブリッジ維持管理料	H 9. 7. 1	(補管)第2683号

2

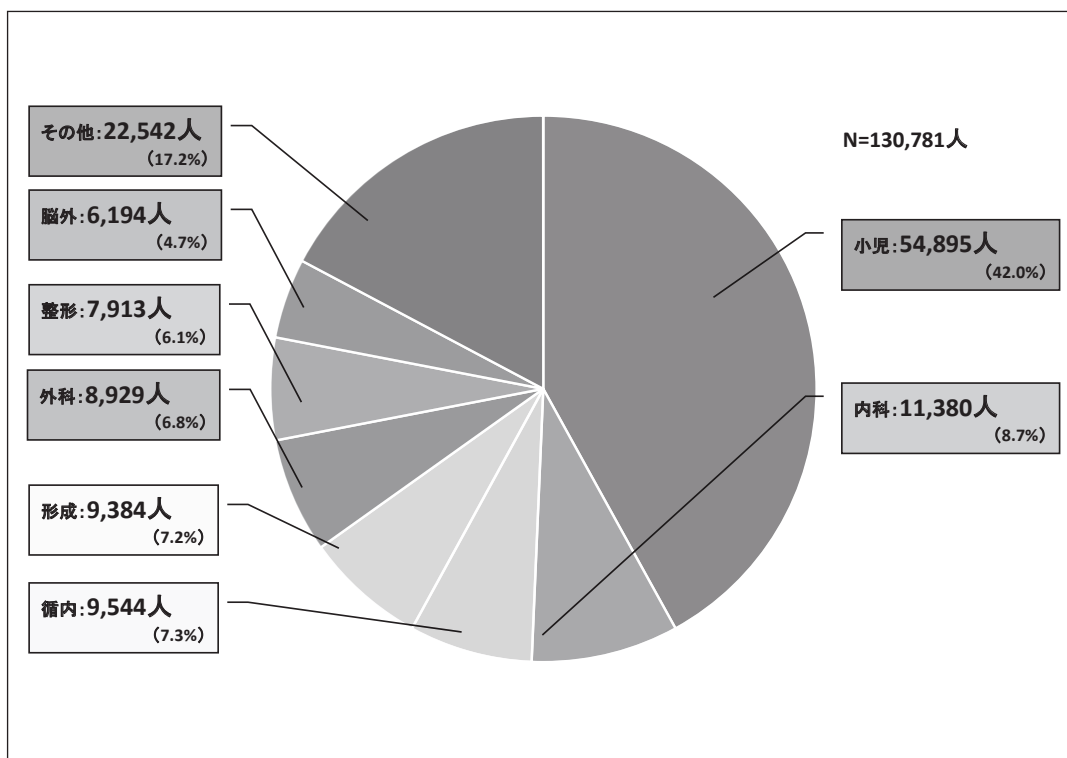
医療分析

全体的統計

全体統計 ●外来延患者 新規入院患者の年度別推移



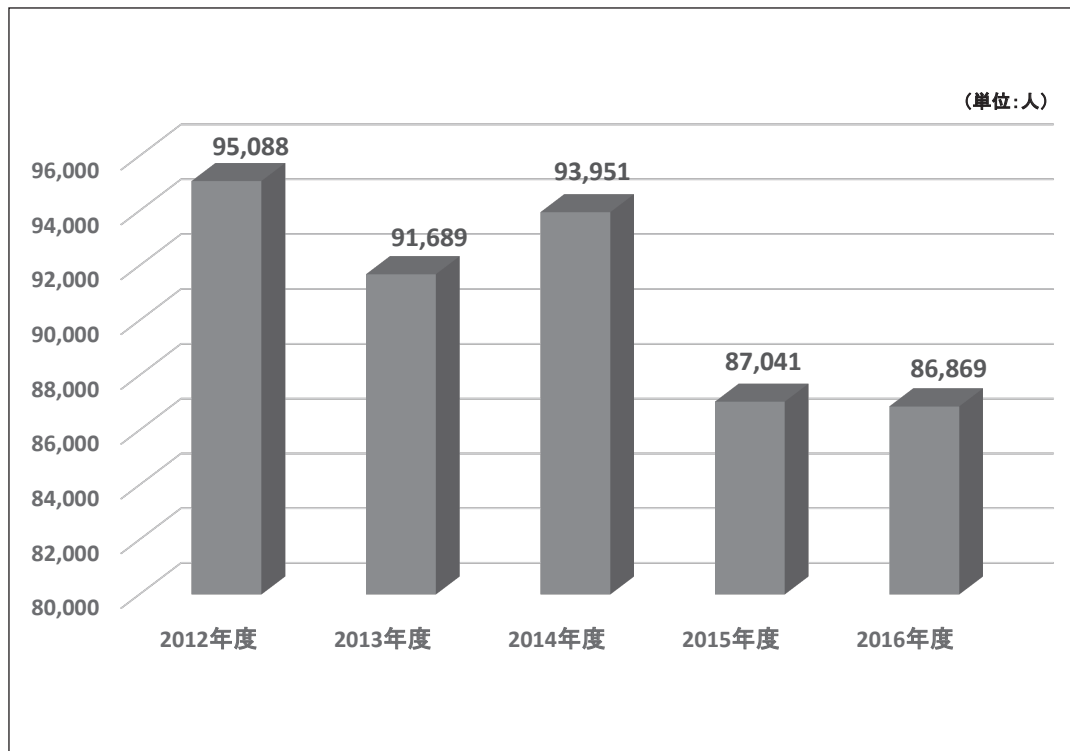
●2016年度 外来延患者の診療科別内訳



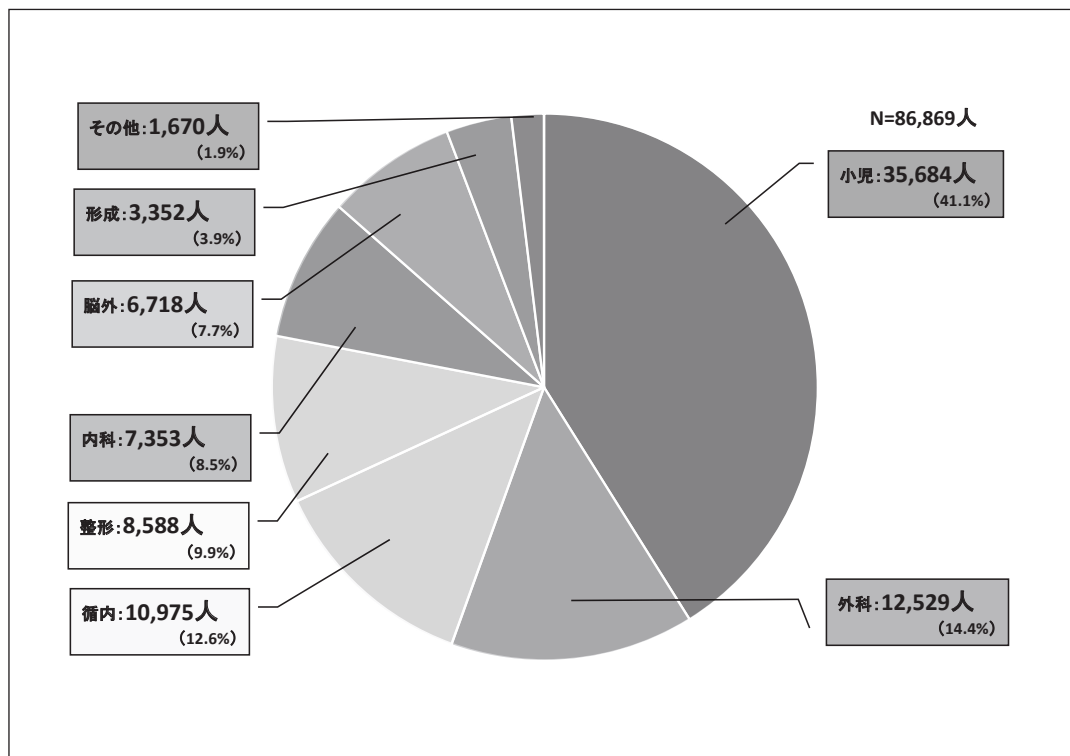


全体的統計

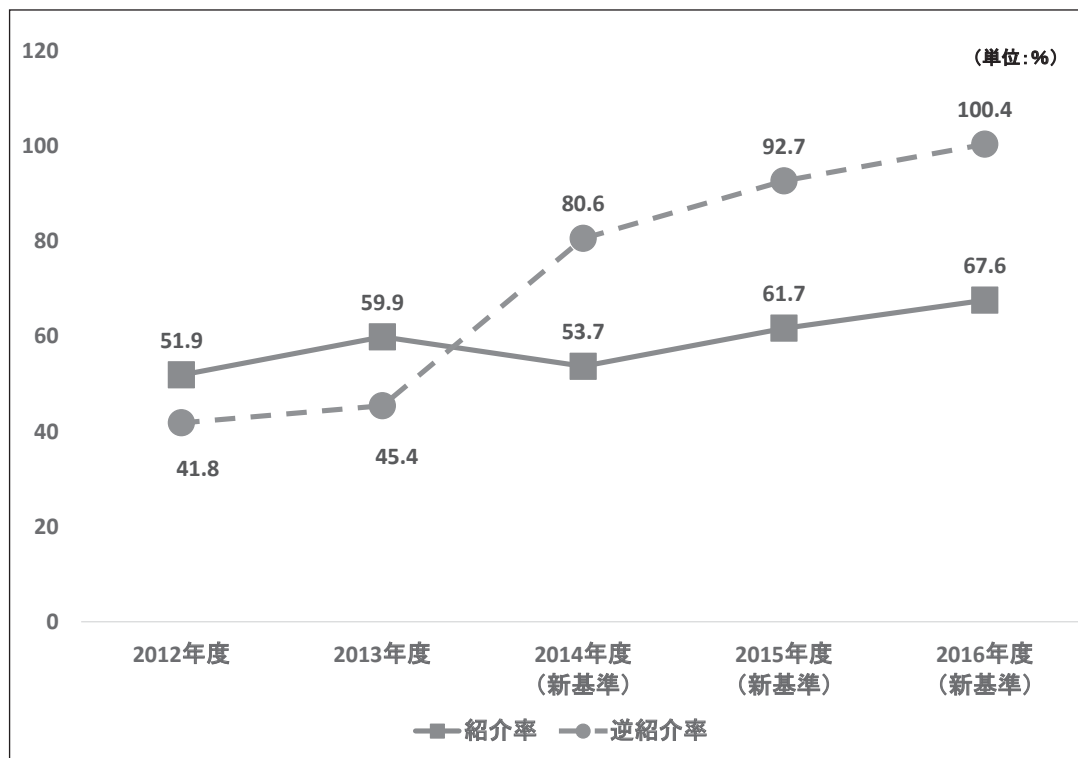
●入院延患者の年度別推移



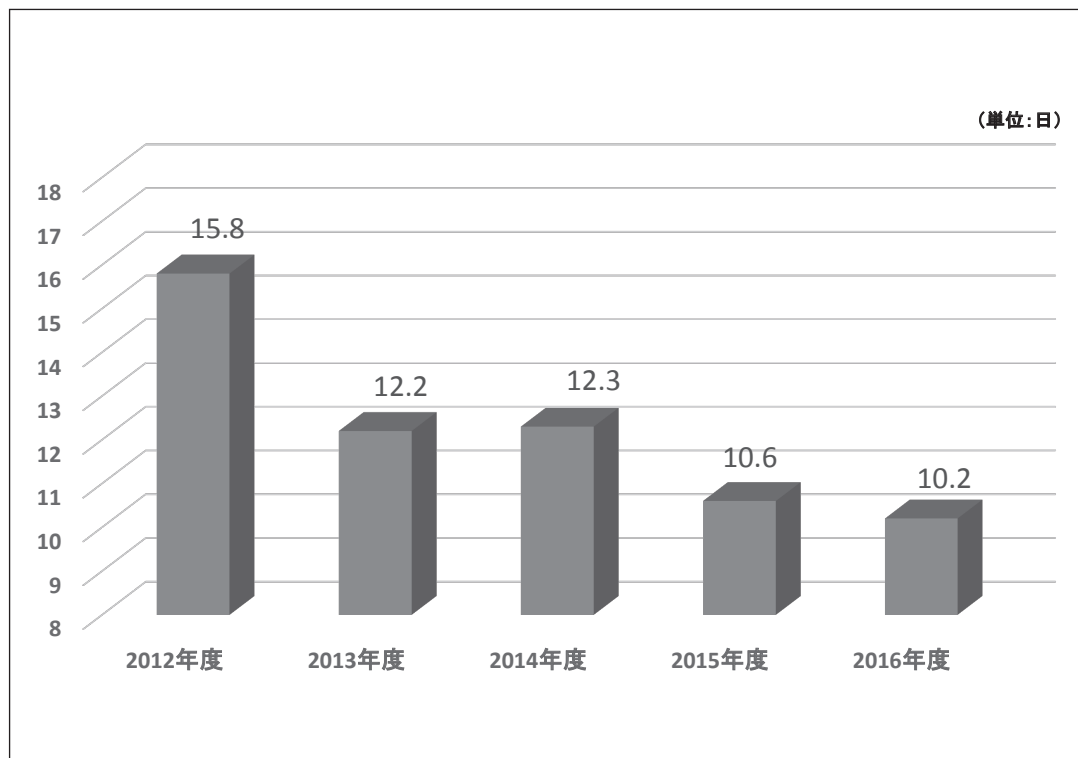
●2016年度 入院延患者の診療科別内訳



●紹介率・逆紹介率の年度推別移



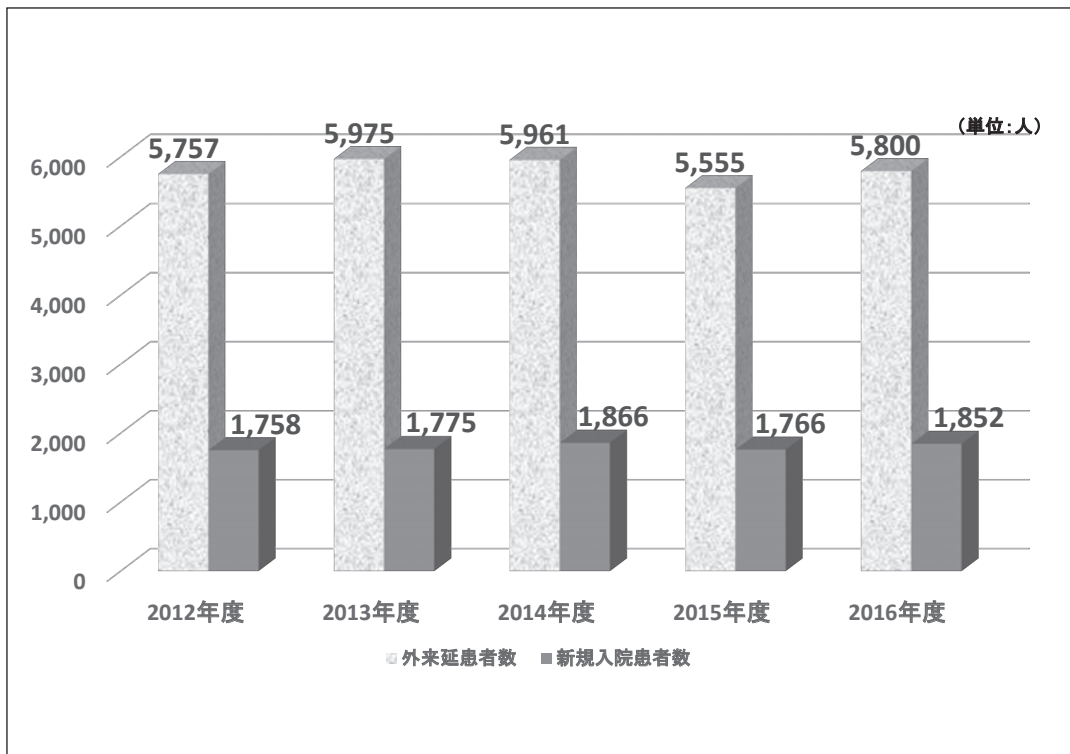
●平均在院日数の年度別推移



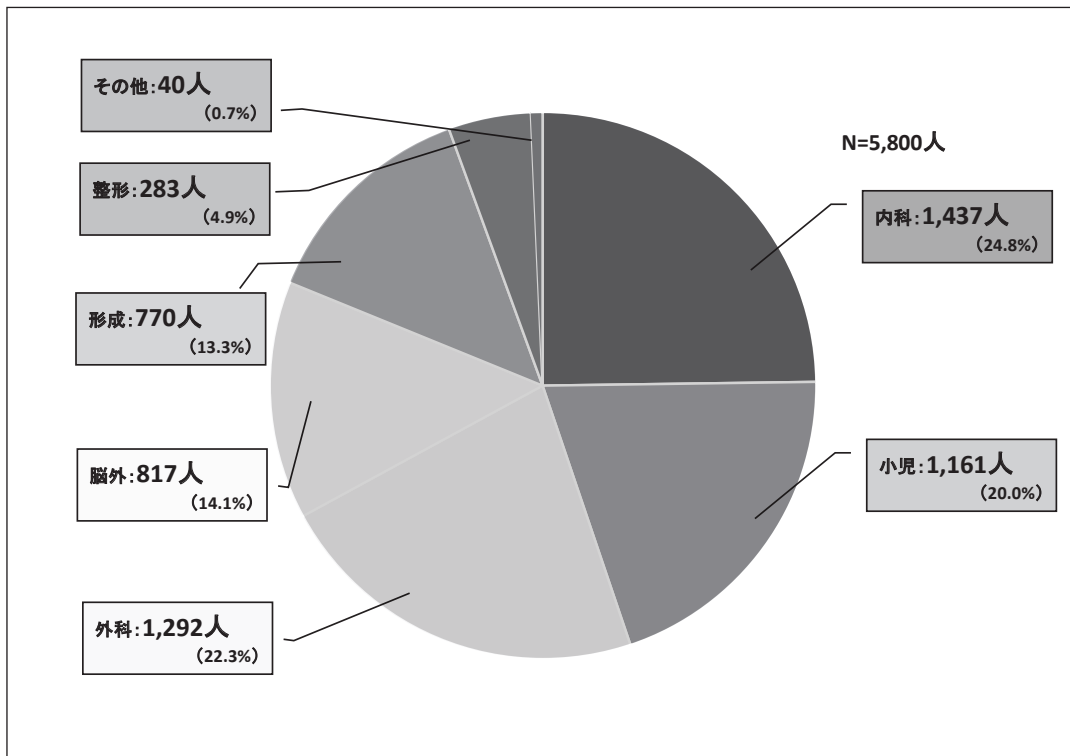
全体的統計

救急統計

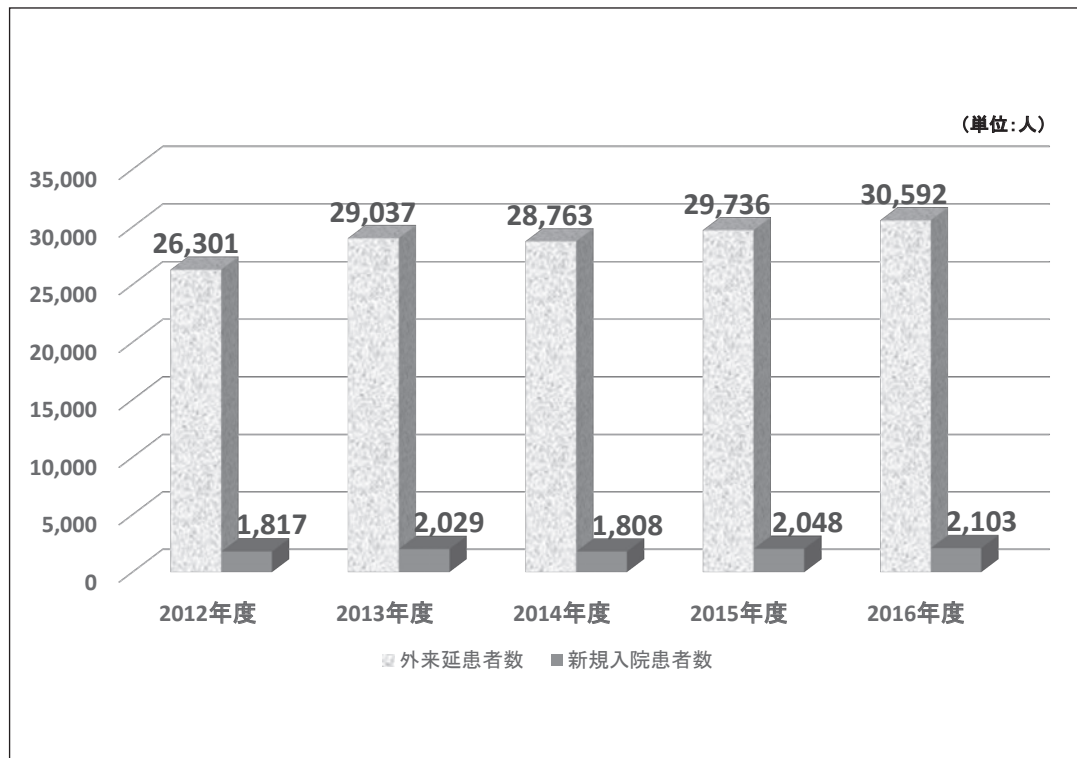
●救命救急センター 外来延患者 新規入院患者の年度別推移



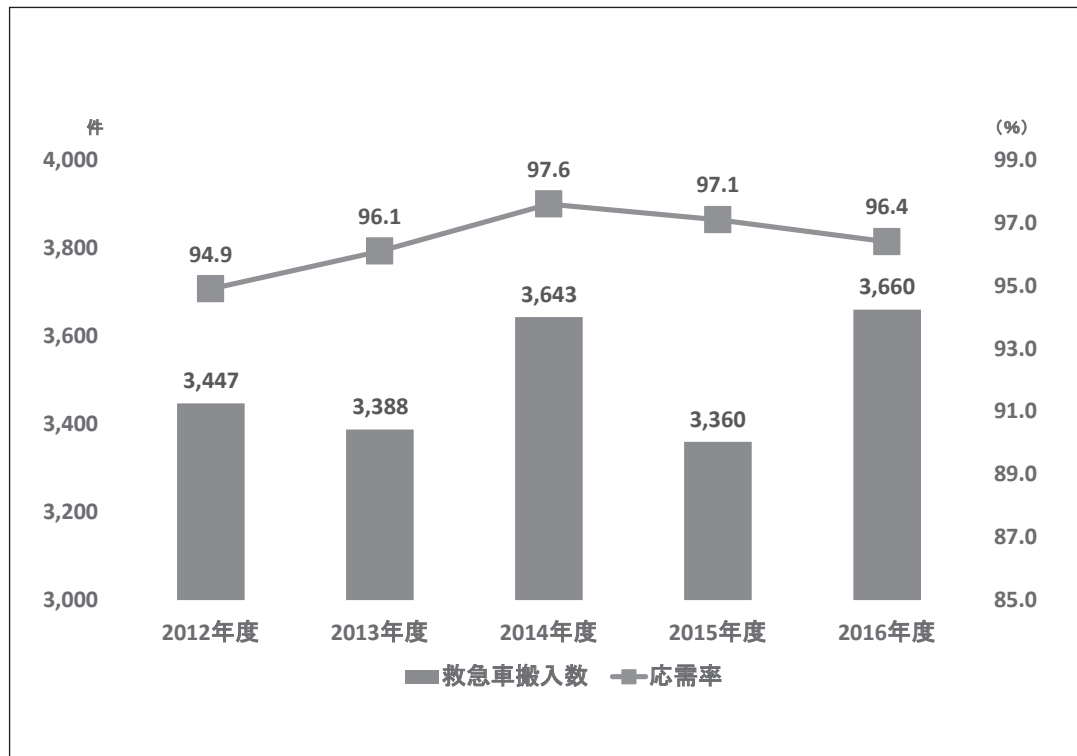
●2016年度 救命救急センター 外来延患者の年度別推移



●小児救急センター 外来延患者 新規入院患者の年度別推移



●救急車搬入数・応需率



3

クローズアップ

熊本地震のDMAT出動

救急科 井上 征雄、田口 健蔵

災害派遣医療チーム（DMAT）とは、医師、看護師、業務調整員で構成され、大規模災害において、急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。東日本大震災のDMAT出動に続いて、2回目の災害医療活動を行いました。

2016年4月14日、1回目の地震発生後、派遣要請があり、当院ドクターカーを運転し、陸路出動しました。真夜中で現地の状況はわかりにくく、高速道路も段差があり、運転にはとても気を遣いました。参集拠点となった熊本赤十字病院で本部業務の補助にあたり、参集チームの受入などロジスティック業務を行いました。また避難所などの状況把握のため、益城町にドクターカーで向かいましたが、家屋の倒壊や道路の陥没など想像以上の被害でありました。初日の任務を終え、一旦帰路につきました。

八幡に戻ってすぐ、16日未明に2回目の地震が発生し、再度DMAT参集し早朝に出動となりました。2回目の出動では、被害状況の調査のため、本部から熊本セントラル病院へ派遣されました。ライフラインの途絶で外来診療、入院診療の継続困難で、全入院患者の避難任務に移行しました。当初、九州労災と2チームだけで活動し、マンパワー不足から活動は困難を極めました。夕方から中四国のDMATの応援もあり、当日夜中、活動開始して14時間でようやく活動を終了できました。老朽化した八幡病院でも同じような状況になったらと考え、不安になりました。

熊本セントラル病院の医療関係者や応援いただいた他の災害医療チーム、また搬送に尽力いただいた消防関係者、自衛隊など多数の方々にこの場を借りて御礼を申し上げます。最後に、今回の熊本大震災により被災された皆様にはお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。



熊本地震 DMAT活動報告

看護部 井筒 隆博

熊本地震において被災された皆様の早期復興を心よりお祈り申し上げます。

4月14日21時26分、小児救急センターで勤務中に患者さんの携帯から一斉に緊急地震速報が流れました。私は、はじめ「大きな音の着信音だな」と思い、まさか九州で地震が起こるとは、想像もしていませんでした。

地震が治まった後、どこからか「熊本で震度7」という声が聞こえました。DMAT出動要請基準であるとすぐに認識し、出動準備に入るため患者さんの申し送りと、看護師長に勤務調整を依頼し準備を開始しました。DMAT出動物品リストは作成してありましたが、災害の規模や種類により多少変化します。情報が少ない中で不足なく準備するための焦りと不安が強かったことや、他のDMATメンバーが参集したときの安堵感を強く覚えています。

4月15日1時59分、八幡病院DMATは医師2名・看護師1名・業務調整員2名の計5名で熊本にDR車で出動しました。5時05分、災害拠点本部である熊本赤十字病院に到着しました。熊本の町は多少の被害がある程度で、免震構造である熊本赤十字病院のライフラインは全て支障がない状況でした。九州各県からDMAT隊が続々と到着し災害支援体制が強化されていきました。八幡病院DMATは本部業務補助と益城町の避難所状況の確認を行いました。被災状況から災害支援ニーズは満たされていると判断し、17時30分に活動を終了し22時20分八幡病院に帰還しました。

4月16日1時25分頃、本震が起きました。八幡病院に暫定災害対策本部設置されたため自主登院し、3時30分頃に帰宅、4時50分にDMAT派遣要請があり病院に向かいました。6時15分、八幡病院DMATは医師3名・看護師2名の合計5名で熊本にDR車で出動しました。9時22分に災害拠点本部である熊本赤十字病院に到着しました。熊本の町は、建物が多数倒壊し、駐車場やグランドには車中での避難者が

目立ち、コンビニエンス・ストアの外には人が列をつくり、4月15日とは全く違う状況でした。免震構造である熊本赤十字病院の建物も一部破損しており、またライフラインにも影響が出ていました。

八幡病院DMATは九州労災病院DMATと共に被災した病院の状況調査するミッションを受け、熊本セントラル病院に向かう途中に停電のため信号がつかない道路を運転することが怖かったことを覚えています。熊本セントラル病院は全てのライフラインが停止しており、スプリンクラーの誤作動で病室や電子カルテが使用できない状態ではありましたが、被災した状況下でも救急対応として負傷者を受け入れました。入院患者数は約120名で、地震による負傷者はいませんでした。酸素や吸引が必要な入院患者さんは近隣のホテルロビーに移動し、その他の患者さんはリハビリルームやデイルームの床にマットレスを敷いて寝ている状況でした。状況調査後、県災害本部からの指示を待つ間は後方支援としてDMAT看護師は病棟や外来看護業務を手伝いました。外来でCPA患者対応などを行い、被災した状況下での医療活動の難しさを痛感しました。

熊本セントラル病院の全患者転院搬送が決定し、転院先の選定や搬送手段確保を開始しました。地震により混乱した中での転移先や搬送手段の確保、時間などの連絡調整は困難を極めました。ミッションリーダーである田口医師が各機関との連絡や調整を的確に行い全患者の転院搬送を可能にしました。熊本セントラル病院は、療養目的の入院患者さんが多く、3～4階に入院していたため、まず1階まで患者を車いすに乗せたまま移送することを繰り返しました。階段で降ろす作業も体力を使いましたが、床にマットレスで寝ている患者を起こして車いすに移乗することが予想以上に体力を使いました。転院先の病院に搬送するため観光バスや救急車、自衛隊車両や自衛隊飛行機に全ての患者を乗せ終わったのは21時を過ぎていました。23時40分に全ての活動が終了し、3時に八幡病院に帰還しました。

当然のことではありますが、熊本地震でのDMAT活動は非日常の経験ばかりであり、災害支援の難し

さを痛感しました。今回の活動で多くの学びと課題があり、今後は災害拠点病院のDMAT隊員として課題を1つ1つ改善していきたいと思います。



震災時の熊本への薬剤師派遣について

「①避難所7か所での処方支援、

調剤・服薬指導と避難所アセスメント調査」

診療支援部薬剤課 末吉 宏成

チーム 構成員	伊藤 重彦 (市立八幡病院 外科医師) 八坂 龍広 (市立八幡病院 小児科医師) 福地 靖範 (福地内科循環器科医院 医師) 角田 直也 (市立八幡病院 看護師) 末吉 宏成 (市立八幡病院 薬剤師) 松本 健一 (北九州市医師会 事務)
災害種別	地震
派遣期間	平成28年4月20日～平成28年4月22日
移動手段	レンタカー (自動車)
参集場所	熊本市役所
《経路》 4/20 7:00 日本医師会災害医療チームJMAT1 班は市立八幡病院を出発。植木は渋滞のため、南 関で高速を降りて山鹿方面443号線、次に325号線 に乗り換え菊陽町方面57号線から市内へ。(11:50 熊本市役所到着)	

【派遣目的】

避難所支援

(診療と避難所アセスメント調査含む)。

【活動内容】

- ・7個所の避難所支援
- ・避難所の衛生環境 (トイレ環境・一般的手洗い・流行性ウイルス感染症) について

※持参した「避難所アセスメントシート」の確認項目

- ☐ 避難所の概況：避難者人数 (男女比)・施設の広さ・プライバシー
- ☐ 環境状況とライフライン：通信・水道・食事・電気・ガス・毛布・冷暖房・トイレ・衛生状態
- ☐ 医療ニーズ：小児科・精神科・心のケア・産婦人科・歯科
- ☐ 感染症：発熱 (38℃以上)・咳・嘔吐・下痢
- ☐ 薬事関連：医療用医薬品・一般医薬品 など

【支援内容報告】

<避難所の衛生環境>

(トイレ環境)

- ・衛生管理はしっかり対応できているところとで

きていないところがあった。行政職員が管理介入している施設では、清潔な管理が進んでいた。

- ・アルコール消毒剤が設置されており、手洗いボスターを貼って注意喚起している施設が多かった。マスクの配給は少なかった。

(流行性ウイルス感染症)

- ・小児の感冒が散発していたが、流行性呼吸器感染症流行の兆しは感じなかった。

(合併症対策)

- ・避難所生活の長期化や梅雨に入ることを考慮すると感染対策チームの定期的なラウンドを行うニーズは高い。
- ・ノロウイルス発症も確認されており、衛生面の管理・指導と継続が必要。

<医療ニーズ>

- ・近隣の医療施設の復旧によりかかりつけ医への受診が可能となっており、疾病悪化などの懸念は減少。避難所における診療のニーズは低下傾向。
- ・外出に対して不安を訴え受診できていないケースもあり、そのフォローが必要。
- ・入眠・不安軽減の支援や心理面への介入が必要。DPAT等との連携が重要。
- ・(合併症対策として) 夜間の車中生活が多いため、深部静脈血栓症をはじめとする、活動不足による2次の合併症予防への介入。

<薬事関連>

- ・避難所1～7で処方・処置 (診察) が必要だった避難者数は合計53人 (うち小児14人) だった。

表1※)

携行したJMAT携行医薬品リストA (成人基本セット) から処方された薬剤と使用量

薬品名	携行量	使用量	使用率
カロナール 200mg	200	39	19.50%
モーラス テープ 20mg 7枚入り	80	29	36.25%
PA錠	200	42	21%
セフゾン 100mg	200	18	9%
クラビット錠 500mg	60	4	6.70%
タケプロン OD15mg	30	2	6.70%
センノサイド (プルゼニド)	40	24	60%
ムコダイン 250mg	100	24	24%
トランサミン 250mg	100	9	9%

メジコン	120	15	12.50%
アレロック OD5	120	21	17.50%
AZ 点眼液 0.02%	10	2	20%
ゲンタシン軟膏 10g	10	1	10%
イソジンガーグル液 7%	20	4	20%

表2※)

携行したJMAT携行医薬品リストD（小児科セット）から処方された薬剤と使用量

薬品名	携行量	使用量	使用率
ナウゼリン坐剤10mg	50	6	12%
ホクナリンテープ 1mg（1枚）	50	9	18%
カロナール細粒20% 0.5g（100mg）	100	6	6%
カロナール細粒20% 1g（200mg）	100	3	3%
ムコダインドライシロップ （カルボシステイン） 50% 1g（500mg）	50	27	54%
トランサミン散50% 1g（500mg）	50	16	32%
ビオスリー（1g）	100	15	15%
生食20mlアンプル	100	2	2%

- ・不整脈用薬
- ・ジギタリス製剤
- ・テオフィリン製剤
- ・気管支喘息治療剤
- ・糖尿病用薬（飲み薬、インスリン）
- ・抗てんかん薬
- ・免疫抑制薬
- ・抗神経用薬
- ・抗悪性腫瘍薬類（オピオイド含む） など

表1※）はJMAT1～3、表2※）はJMAT1・2での使用量

【薬剤師の視点から】

薬剤の供給は、特に災害による服用中断により、危険性が高くなる薬剤を被災者（患者）が服用していないかを意識して活動していましたが、薬剤を調剤、払い出すことで精一杯だった。

反省点としては睡眠導入剤や抗不安薬などの持参がなく、ニーズにお応えできないことがあり、JMAT携行医薬品リストB（精神科セット）からの抜粋と携行も必要であった。

避難所アセスメントシートは、情報収集と共有のために大変有用なツールであった。地震の影響による断水を考慮すると携行薬剤の剤型選択にOD錠が望まれると思われた。

【災害による服用中断により、危険性が高くなる薬剤】

- ・血液凝固阻止薬
- ・降圧薬

「②臨床検査技師と合流して、
避難所でのDVTスクリーニングを実施」

診療支援部薬剤課 山本 朗子

JMAT2活動報告	
メンバー	高嶋雅樹（医師） 村上修一（医師） 篠原吉宏（看護師） 松本健一（業務調整員） 山本朗子（薬剤師、業務調整員）
派遣期間	平成28年4月29日～平成28年5月1日
移動手段	自動車
参集場所	熊本市役所
《経路》 4/29午前9時より九州自動車道路全面開通の情報にて、大谷ICより都市高速を利用、九州自動車道路を通り、熊本ICで降り、市内へ入る。	

《活動内容》

避難所でのDVTスクリーニングの指示を受け、宮崎県・鹿児島県の臨床検査技師と合流して実施。

3日間の活動で、避難所5か所を巡回し、3か所でDVTセンターを設営。アルゴリズムに沿って問診（チェックリスト作成）後、エコー検査で血栓があれば、採血（Dダイマー等）をし、検査結果より医師が必要とすれば病院紹介を行った。血栓がなければ、弾性ストッキングの配付と指導を行った。

ライフラインの状況、排泄・居住環境を確認し、水道が完備されていない所もあったが、ノロウイルスやインフルエンザの流行なし。

診察数	88
車中泊	51
弾性ストッキング配付	58
血栓あり	12
病院紹介	11
処方件数	11

《反省・課題》

近隣の病院・診療所が再開されており、薬のニーズは低下している。

震災後2週間以上過ぎても依然として車中泊が多く、血栓ができやすい状況にあった。まずは車中泊を減らすことが肝心だが、ペットや子供やプライバシーの関係上困難な状況にあった。今後もDVTスクリーニングを行い、ストッキングの配付と指導で予防し、血栓があれば速やかに病院を紹介し、最悪の事態を防いでいくことは必要と思える。ストッキング配付時も、片足をこちらで履

かせた後自分でもう片方をはいて頂き、今後の継続につなげる必要あり。避難所でDVTセンターを設営することで、各自任務分担ができ、短時間で多数の診察が可能となった。また、場所が固定されることで、避難者が来やすい状況となった。今後の災害時にDVTスクリーニングの活動は必要と思われる。エコー機器、迅速検査キットの導入や、北九州JMATのメンバーに臨床検査技師の参加が期待される。

「③モバイルファーマシーにて

DMATや自衛隊発行の処方箋を調剤及び 服薬指導、処方提案、OTC薬手配等を 地元薬剤師会と協働して支援！」

診療支援部薬剤課 山内 健太郎

被災地支援ボランティア活動報告	
4/16（土）八幡薬剤師会より支援者募集要請	
4/17（日）	
8：30	八幡薬剤師会会館 出発
12：00	熊本県薬剤師会会館 到着
熊本県薬剤師会会館にて被災状況、現場（インフラ、診療状況など）の説明あり。 以下の避難所2カ所への割り当てあり。	
・益城町健康福祉センター ・益城町総合体育館	
13：00	八幡薬剤師会からの3名は 益城町総合体育館へ。
15：00	うち2名（自身を含む）は 益城町健康福祉センターへ。
4/18（月）	
16：30	益城町健康福祉センター 出発
23：30	八幡薬剤師会会館 到着
(益城町健康福祉センターの様子) 建物内の仮設診療ブースにDMATが2チーム 常駐。 敷地内駐車場に自衛隊の救護所。 薬剤師は同駐車場にモバイルファーマシーを構 え、処方調剤、鑑別、処方提案や投薬時に建物 内へと頻繁に行き来して活動。	

処方内容

1日目（4/17）は怪我や睡眠障害、急病への処方が多数。解熱鎮痛剤、抗生物質、睡眠導入剤、制吐剤など。

2日目（4/18）は常用薬の処方が増えた。

お薬手帳があれば、特に必要な薬に医師がチェックを入れる。

手に入る医薬品にて代替を提案。

原則、病院が稼働し始めたあとは、病院に受診を勧めた。

モバイルファーマシー外での活動

- ・4/17 DMATによる回診に帯同。必要とされているOTC医薬品の調査も行う。
- ・4/18 OTC医薬品を配置し、モバイルファーマシー側にお薬相談窓口を開設（現場医師からぜひやって欲しいという意見もあり、ブースを開設しセルフメディケーションを推進）。
- ・アルコール消毒の擦式剤の補充。

考察

- ・現地薬剤師は被災している中でも、避難所等で活動していた。
- ・支援薬剤師が避難所での活動を現地の薬剤師と代わることで、現地薬剤師の疲労を溜めさせないように努めた。また現地薬剤師の負担を減らすことで、日常業務の復旧を早める手助けにもつながった。
- ・早期から常用薬の処方が増えることで、DMATは多忙になってきている。薬剤師による医薬品の確保、処方提案や相談窓口開設などを行うことでサポートができた。
- ・被災者の心理的ストレス除去に努め、水の使えない状況下での感染対策、車中泊が続く中でのエコノミークラス症候群対策など薬剤師の活動の場はまだ多くあった。



4

診療科部門紹介

一年間の概要

[スタッフ]

内科は常勤医4名、非常勤応援医7名です。

[外来]

外来は3～5名/日の外来担当医により各種専門外来（呼吸器、消化器、糖尿病、神経、膠原病、禁煙）および一般内科外来をおこなっています。救急患者さんに対しては、救急対応当番医（循環器内科と合わせ当番制）が、救急患者受け入れをおこなっています。

[入院]

常勤医4名により受け持ち分担をしています。一般外来からの入院のほか、救急で入院になった患者さんについては、速やかにそれぞれの専門分野医師にコンサルト・引き継ぎがおこなわれています。現在は内科医だけではカバーできないところは循環器内科を含めたスタッフ一同で協力して受け持ちしています。総回診やカンファランスなども内科・循環器内科合同でおこなっており協力しながら診療にあたっています。他科との垣根も低く相談しやすい環境です。

今後の方向性

現在の内科常勤医は呼吸器内科1名、消化器内科1名、糖尿病内科1名、神経内科1名の4人です。2017年4月より新たに呼吸器内科医が1名赴任することが決まり、呼吸器内科2名体制となります。今まで以上に近隣の先生方からの紹介にも対応ができるようになると思います。今後も病診連携を大切に、地域の皆様の要望に応えるべく、内科スタッフ一同努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（文責 末永 章人）

■2016年度の診療実績

治療実績	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
冠動脈カテーテル検査（診断のみ）	212	249	221	261
冠動脈カテーテル治療（ ）は緊急症例	118 (40)	107 (16)	129 (47)	105 (26)
ペースメーカー植込み（ ）は新規	25 (17)	27 (17)	20 (10)	22 (15)
カテーテルアブレーション	1	1	3	10
末梢動脈カテーテル治療	52	39	40	33
腎動脈ステント治療	17	9	7	9
静脈系カテーテル治療	16	2	0	1
心筋生検	4	7	2	2
心臓リハビリテーション（単位数）	2,609	2,181	2,759	6,491

循環器内科は現在常勤医7名体制で、急性冠症候群を始めとする緊急症例には24時間対応できる体制を採っております。しかしながらここ数年は緊急症例の激減に伴いカテーテル治療症例が減少しています。昨年度は、少し盛り返したのですが、今年度は奮いませんでした。他の実績において特筆すべきは、心臓リハビリテーションの実績の劇的増加です。外来回復期リハビリの充実、近年増加している高齢者心不全に対して再入院の予防効果が期待できるものであり、その成果も散見されています。

来年度の新病院への移転も控えており、2017年度の業績は移転後を占う試金石になると考えています。最良の治療を数多く提供できるように努力していく所存です。

■各疾患の傾向
1) 心不全/心臓リハビリテーション

北九州、特に我が八幡東区を中心とした地域は全国的にも最も高齢化が進んでいるといわれています。我々が最も高齢化社会において危機感を抱いている課題は心不全リピーターの増加です。原因は、多岐に渡ります。HFrEF（心機能が保持された心不全）といわれる治療に難渋する病態が隠れていることに加え、高齢者の於かれた社会的背景にも問題が潜んでいます。

昨年度の解析した結果から当院では、心不全患者の半数が高齢者のリピーターでその多くが独居もし

くは高齢者二人世帯でした。この社会的不利を是正すべく構築しようとしているのが地域連携を基礎にした多職種による管理システムです。その中核として当院に心不全センターを設立していく所存です。

数年来強化している外来心臓リハビリテーションに関しては、長期継続参加者も増えています。また入院リハビリテーションにおいては、早期離床を目的に急性心不全入院直後からベッドサイドリハを開始するように努めてきたことが、入院長期化を緩和し画期的なりハビリの業績増に繋がっています。

高齢化とともに世界中で心不全パンデミックと呼ばれる事態が進行しています。高齢者心不全の管理が当科の最優先事項と考えています。

2) 冠動脈疾患

冠動脈疾患に対するステント治療は、年々治療成績が向上しており血管形成術用バルーン拡張術を第1世代とするとベアメタルステント、薬剤溶出性ステントに続き第4世代のデバイスとして生体吸収性薬剤溶出性ステントが使用できる日も近づいています。それとともに血管形成術の適応は拡大しており、少し前であればバイパス術施行が望まれた症例もカテーテル治療で治療を完結できる時代になっています。

カテーテル治療の進歩はめざましいものがありますが、カテーテルを挿入するという侵襲は避けられませんが、当科は循環器科として旗揚げした当初から九州で最初に橈骨動脈からのカテーテル治療を始めた

施設で低侵襲なカテーテル治療を心掛けています。これまでも色んな工夫をこらし多くの治療経験を報告しています。

しかし、2016年度の業績として最も頭を痛めているのはカテーテル治療件数の減少です。急性冠動脈症候群は全国的にも減少しているようですが、待機的症例数が少ない当科としては救急症例の減少がそのまま業績に影響しています。是非とも冠動脈疾患を疑われる症例のご紹介をお願いいたします。

3) 不整脈疾患

2016年度の徐脈性不整脈に対するペースメーカー植えこみ術数は、例年通りでした。昨年来、MRI対応ペースメーカーは増えており、新規植え込み15例中9例がそれでした。この装置は、従来品に比べて少し大きいのが難点ですが、頭部、胸部、腹部、下肢など、ほとんどのMRI検査が可能です。そして当院はこのペースメーカーでMRI検査を行なうための認可を受けており、メドトロニック社とセントジュード社の使用患者でMRI検査が可能です。

カテーテルアブレーションは、水光会宗像総合病院循環器科の竹本 真生先生にご依頼して、症例数を増やしております。近年この分野で特筆すべきは、心房細動に対するアブレーション治療です。本邦には慢性心房細動患者が100万人、発作性心房細動患者が50万人以上いるといわれ、重症の脳梗塞を合併することから生命予後に大きく関わってくる疾病です。このアブレーション治療は心房細動を根治することができ、1回の治療で70～80%、心房細動が再発してしまっても2回目までの治療を行うことで80～90%近い成功率で行えるようになります。

4) 末梢動脈疾患

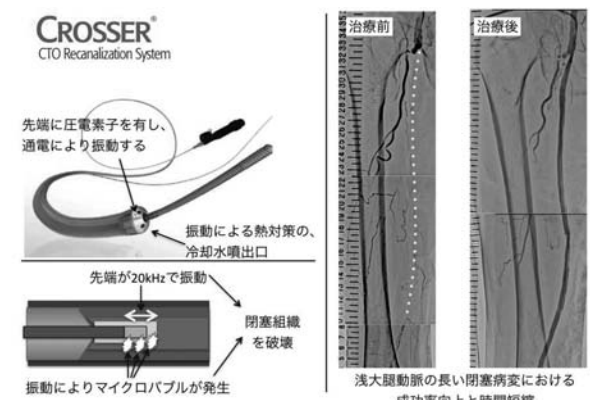
この疾病も高齢化とともに今後増加していくと思われます。この疾患の治療は、薬物治療や運動療法が基本となりますが、一定期間でも間欠性跛行が改善しない場合や、すでに皮膚潰瘍や壊死を呈している症例では、外科的治療も考慮した上で積極的にカテーテル治療を行なっています。この疾患を有する患者さんは、冠動脈疾患や頸動脈にも同様の病変を合併することが多いので、スクリーニングも重要になっ

てきます。

高齢者の救急症例には重症下肢虚血を合併している確率は高く、形成外科や整形外科との連携から見つかるケースが少なくありません。当然膝下血管の慢性閉塞状態の重症例が多くなるのですが、超音波検査を駆使しながら非常に高い成功率を挙げています。

石灰化の強い病変は血管内治療の成功を妨げる要因になるのですが、昨年度から導入したCROSSERという閉塞部貫通用カテーテルのお陰で成功率向上と治療時間の短縮をみています。図の様に閉塞部位や石灰化病変を毎秒2万回の振動で除去するシステムなのですが、このカテーテルを使用後のバルーン拡張は非常に良好でステント留置が不要であるケースも少なくありません。

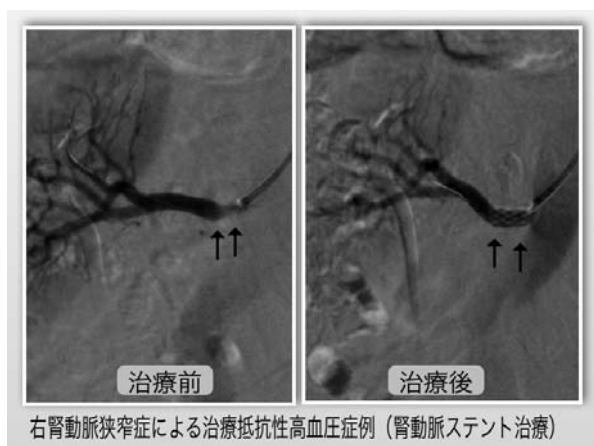
今後もこの領域は症例が増えると予想されよい治療成績に繋がる様に頑張っていく所存です。



図：閉塞部貫通用カテーテルCROSSERの有用性

5) 腎動脈狭窄症

腎動脈狭窄症は、治療に難渋する高血圧、難治性心不全などの原因になる病態です。当科の原田 敬部長はこの疾患に早くから注目し、対象となりそうな症例に積極的に腎動脈エコーでスクリーニングを行ない、200例近くの治療成績を積み上げてきました。全国的にも当科の治療成績は知られており、多くの学会や研究会で報告してきました。ステント治療後の経過は良好で、再狭窄は5%前後でした。外来への紹介症例は後を断ちません。特に薬剤抵抗性の心不全に対しては、今後も積極的にスクリーニングすることが必要であると実感しています。



■血管エコー普及活動 「北Qエコー塾」

血管エコー検査は、心エコーや腹部エコーに比べ、まだまだ普及が遅れている分野です。臨床的意義が大きいものの、学ぶ機会が少ないのもその要因となっています。そこでインターネット配信を利用した血管エコーに関する講習会を企画しました。2ヶ月に1回のペースで、腎動脈、下肢動脈、下肢静脈に関する講習を、レクチャーとハンズオンの二部構成で配信しています。2016年も、予定通り6回の配信を行うことができました。2017年も、このインターネット講習会を通じたいろんな企画を考えています。

■学会・研究会・講演会

2016年度も多く学会や研究会で当院の経験を報告しました。また心不全、心臓リハビリ、末梢血管治療、腎動脈治療など各地での講演会活動も行ないました。今後も学術活動、啓蒙活動に力を入れたいと思います。

内容	件数
論文	0件
講演	39件
学会・研究会	23件
著書	2件
座長・司会	40件以上

■循環器スタッフ（2016年度）

役 職	氏 名	卒 業	得意分野
副院長	太崎 博美	S56年 九州大学	高血圧、脂質異常症、肺高血圧、心不全
統括部長	原田 敬	S61年 長崎大学	高血圧、心不全、冠動脈インターベンション、末梢動脈インターベンション、不整脈治療、心血管エコー検査
主任部長	田中 正哉	H 2 年 産業医大	心不全、肺高血圧、冠動脈インターベンション、心臓リハビリテーション
部長	小住 清志	H 8 年 産業医大	心不全、冠動脈インターベンション、不整脈治療、心臓リハビリテーション
部長	佐貫 仁宣	H14年 長崎大学	冠動脈インターベンション、心不全、不整脈治療、末梢動脈インターベンション
	三浦 俊哉	H24年 産業医大	循環器全般
	北野 哲司	H25年 産業医大	循環器全般

日本小児科学会は、Generalistとしての小児科医は「子どもの総合医である」と掲げ、少子高齢化社会での効果的な効率的な小児医療を、病院小児科の集約化・重点化の推進と集学的な教育を柱とし、将来の小児科医の育成を目指しています。子どもに関わる医師、すなわち地域の家庭医・総合診療医・救急ER医と協調し、子どもの専門医としての指導的な社会的ニーズは益々大きくなる時を迎えた。

2016年、時間外受診を含む外来年間患者受診者数は54700名・年間入院者数は4610名であった。当小児救急センターの特徴は、日本小児科学会臨床研修指定病院として豊富な小児内科領域の臨床症例を経験していることのみならず、全ての子どもの外傷の初期治療に対応してきた点である。子どもたちを取り巻く環境因子・心理的背景の変化を捉え、全ての子どもの安全と安心を診療からも目指している点である。

受診者数・入院者数の増加は、必然的により効率的・効果的な医療サービスが求められるようになった。2006年より全国でいち早く小児救急トリアージ制度の導入し、2011年からは本邦初の小児早期警告スコアリング・システムを病棟に導入した。医療安全の側面から院内急変対応システムとして現在活用している。2014年には救急外来および一般外来に来院する全ての患者のフィジカルアセスメントの評価を標準化する目的にこのシステムを利用している。電子カルテとの連携されたダッシュボードシステムとしても子どもの安全を第一に考えた可視化共有システムとして全国的に注目を浴びている。

豊富な臨床症例からエビデンスを見いだす作業として臨床研究も活発である。リサーチマインドを持ち続ける医師は日常の素朴な疑問を大切にしており、新しいエビデンスを作り出す機運をチームとして尊重している。毎日の早朝カンファレンスと毎日の総合回診・症例検討会により繰り返し伝えられ、発展的な地道な作業を可能にしている。日本小児科学会・小児科学会福岡地方会・日本小児救急医学会・日本救急医学会を中心に年間約60の臨床研究を発表し、学会奨励賞や優秀論文賞の受賞も獲得した。教育面で

は小児救急医学を目指した全国の小児科初期・後期研修医は10年目以降専門医15名が指導にあたっている。特にケース・プレゼンテーションには十分時間を割いており、小児救急診療の基本となる外観や呼吸・循環の評価とバイタルサインに基づいた病態生理の迅速な評価と簡潔に伝える能力の修得を目標としている。

2014年7月には児童虐待防止医療ネットワーク事業推進として福岡県の児童虐待防止拠点病院の施設に認定された。当院チームとして家庭機能不全や育児不安などの複雑な患児を取り巻く背景を瞬時に察知し配慮することができる能力や瞬時に冷静な判断を下すトリアージ能力の担う側面は地域社会への影響を鑑みるとその責任は大きい。定期開催されている「家族と子ども支援チームFamily& Children Support Team」として丁寧な振り返りを多領域職種間で実践している。特に2016年はこれまでの北九州市子ども総合センターや北九州市保健福祉局子育て支援課のメンバーに加え、福岡地方裁判所小倉支部検事や地域警察の協力も得られ、益々多領域職種間での機能向上の準備を可能とした。

平成30年開院に向けた新八幡病院の基本方針の柱が、小児救急医療の充実である。小児集中治療分野や搬送医療の充実と専門分野として小児血液腫瘍医療・小児神経疾患医療の充実、さらに児童虐待防止拠点病院として地域医療に貢献していく所存である。平成31年度の独法化を見据え「小児総合医療センター」としての発展の礎を築いている。

外科・呼吸器外科

外科主任部長 木戸川 秀生

外科・呼吸器外科の2016年度スタッフは伊藤重彦副院長、岡本好司副院長、木戸川秀生外科・消化器外科主任部長、井上征雄救急部主任部長兼任、山吉隆友外科部長、野口純也外科部長、新山 新外科部長、上原智仁外科部長、野々村 遼、丸山圭三郎、新田拳助（4月～6月）満吉将大（7月～9月）の10.5名であった。

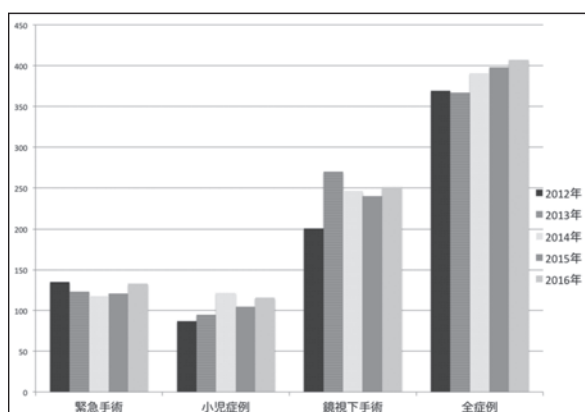
【人事異動】

3月末で澤田貴裕が高木病院へ、榊原優香が嬉野医療センターへそれぞれ異動となった。4月から産業医科大学より新田拳助が、長崎大学病院より丸山圭三郎が赴任した。7月から新田拳助が産業医科大学病院へ戻り満吉将大が3ヶ月間赴任した。

【手術件数】

2016年の手術件数は407件（全身麻酔365件、腰椎麻酔0件、局所麻酔42件）で前年より約2.3%の増加となった。緊急手術は133件で全症例の32.7%を占めていた。また15歳以下の小児症例は116例で全症例の28.5%であった。

鏡視下手術（胸腔鏡または腹腔鏡）は251例で全体の61.7%であった。



診療科	主な臓器	主な疾患	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
消化器外科	食道・胃・十二指腸	食道癌	0	0	0	0	0
		潰瘍穿孔	2	5	2	2	4
		胃癌・腫瘍性疾患	15	15	13	18	16
		その他	1	0	3	0	1
	小腸・大腸・肛門	大腸癌・腫瘍性疾患	37	26	39	44	39
		イレウス	10	10	8	14	8
		小腸・大腸穿孔	8	5	1	11	8
		急性虫垂炎	39	46	28	31	30
		痔核・痔瘻・肛門疾患	5	4	4	7	12
		その他	3	1	8	5	10
	肝・胆・膵	胆石・総胆管結石	54	49	50	35	43
		肝癌・胆嚢癌・膵癌	32	20	27	38	43
		急性膵炎・その他	5	2	2	2	0
	腹壁疾患・ヘルニア		39	47	35	53	36
	腹部外傷		3	2	3	1	4
	その他		10	10	16	8	9
呼吸器外科	肺・縦隔	肺癌	2	3	6	7	2
		気胸・嚢胞性肺疾患	15	11	11	9	9
		膿胸・縦隔疾患	1	3	2	0	1
		多汗症	0	4	5	2	0
		その他	0	0	0	1	1
	乳腺・甲状腺	乳癌・甲状腺癌	0	6	3	4	9
	胸部外傷		0	0	0	0	1
	その他		1	3	3	1	5
14歳以下小児	ヘルニア	15	28	43	31	22	
	急性虫垂炎	50	47	62	57	69	
	新生児・外傷・その他	22	20	17	17	25	
計			369	367	391	398	407
消化器外科	腹腔鏡下手術	185	248	223	222	237	
呼吸器外科	胸腔鏡下手術	16	22	23	18	14	
計			201	270	246	240	251
緊急手術			135	123	118	121	133
消化器外科			263	242	239	269	263
呼吸器外科			19	30	30	24	28
小児外科			87	95	122	105	116

【論文・学科発表】

2016年1年間で論文発表14件、学会発表32件であった。

【一年を振り返って】

4月14日、16日には熊本地震が発生し伊藤重彦、井上征雄、山吉隆友の3名が当院からDMAT隊員として出動した。

手術例数は外科スタッフの増加とともに微増している。今後も手術症例数増加を目指したい。



整形外科は4名の医師が診療に当たっています。3名が日本整形外科学会専門医の資格を持っており、病院自体も日本整形外科学会の研修指定病院となっています。

骨折などの外傷に対する手術が主で、受傷後のなるべく早い時期からのリハビリテーションを実施しています。また、2016年は膝の骨切り術や上肢の関節鏡視下手術も行いました。

2016年は303例の手術を行い、上肢の骨折121例（鎖骨11例、肩6例、上腕11例、肘32例、前腕12例、手関節部42例、手指7例）、下肢の骨折182例（股62例、大腿7例、膝29例、下腿36例、足関節32例、足趾15例）、骨盤骨折1例でした。救命救急センターを併設していることから、重度の骨折症例が多く、また、小児救急センターを併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴と言えます。一次から三次救急までの整形外科患者の診療を担当しています。近年、手術方法、手術機器の進歩はめざましく、積極的に手術を行っています。開放骨折や脱臼など、緊急性の高い症例では、救急科、麻酔科、手術部の協力のもと、即日手術を行っています。

小児の骨折においても、開放骨折、転位の大きな骨折（上腕骨顆上骨折など）や10歳以上の自家矯正の望めない症例では、小児科の協力のもと、積極的に手術を行っています。最近では高齢者の骨折が増加してきており、認知症を合併する率も高く、東5病棟看護師・リハビリスタッフの協力を得ながら、入院加療を行っています。（尚、北九州近位部骨折地域連携パス協議会に所属する回復期病院のご協力には感謝しています。）

2016年は、昭和53年の救命救急センター開設より38年にわたって続けてきた、365日24時間病院内に脳神経外科医が常駐している診療体制の最後の年となりました。診療内容を以下に記載します。

医師数 3名（専門医3名）

所属医師名 越智 章、福田 修志、福田 雄高

病床数 25

血管内治療症例数	6
脳動脈瘤コイル塞栓術	
破裂	2
未破裂	1
頸動脈ステント留置術	1
PTA/PTR	2

剖検数 1例

救命救急センター受診患者数	836
救急搬送	620
ウォークイン	216
入院症例数	304

今後は、診療体制を縮小して行かざるを得ませんが、今までの満足な診療体制が失われたことに対する、郷愁、ホームシックにひたらず、全く他なる志向で望んで行きたいと考えています。

手術症例数	64
脳血管障害	
脳動脈瘤クリッピング	
破裂	4
未破裂	0
脳動静脈奇形	1
高血圧性脳内出血	
開頭血種除去	4
定位的	2
脳腫瘍	
摘出	2
外傷	
急性硬膜下血種	1
慢性硬膜下血種	18
脊髄脊椎	
前方固定	1
椎弓形成・椎弓切除	2
ヘルニアトミー	1
その他	
水頭症	
シャント	13
ドレナージ	7
その他	8

2016年の診療体制

常勤3名

うち日本形成外科学会専門医が、2016年4月より2名から1名となりました。

2016年の手術件数

I. 外傷	659
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	3
顔面軟部組織損傷	448
顔面骨折	28
頭部・頸部・体幹の外傷	8
上肢の外傷	149
下肢の外傷	23
II. 先天異常	126
唇裂・口蓋裂	65
頭蓋・顎・顔面の先天異常	20
四肢の先天異常	8
体幹（その他）の先天異常	11
III. 腫瘍	274
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	255
悪性腫瘍	19
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	19
V. 難治性潰瘍	12
褥瘡	2
その他の潰瘍	10
VI. 炎症・変性疾患	43
計	1111

2016年の概要

●外傷

頭から足先まで全身の皮膚軟部組織の他、顔面では眼瞼・耳介・外鼻などのパーツや顔面骨、手では指の骨・関節・腱・神経・血管の損傷などを対象に、24時間365日対応できる体制を取っています。

●先天異常

口唇口蓋裂は、生後3ヶ月から思春期までの各年齢に応じ、院内外の関連科や言語聴覚士とチームと

して診療を行い、県外からも多くの来院があります。

口唇裂は筋層から再建を行うことで、自然な動きを伴った対称的な形態が得られるようになってきており、口唇裂や口蓋裂の手術の要所では顕微鏡を用いて、より繊細な再建を行うようにしています。

その他、耳介の形態異常、手足の形態異常、臍ヘルニアなど、身体各所の先天性形態異常に対し手術を行っています。

●皮膚良性・悪性腫瘍

たとえ小さな腫瘍でもどのように切り取って、どのように閉じるか、個々の症例にあった方法を考えます。

大きなものでは、変形を生じにくいように皮弁形成術、植皮術を選択することになります。

様々な良性・悪性腫瘍を近隣の皮膚科等からご紹介いただくことが増えてきています。

●皮膚潰瘍

褥瘡や糖尿病性足潰瘍などの難治性皮膚潰瘍は、各種の薬剤や被覆剤を選択し、陰圧閉鎖療法により保存的に傷を整えた後に、場合によっては手術により治療を行います。

循環器内科や内科と連携したフットケアや、褥瘡ラウンドへの参加など、チーム医療にも務めるようにしています。

●レーザー治療、ラジオ波メス

レーザーは、炭酸ガスレーザーとQスイッチルビーレーザーを有しており、前者は小腫瘍や陥入爪の焼灼、後者は褐色～青色の色素性病変である扁平母斑や外傷性刺青の治療に用いています。ラジオ波メスも出血の少ない切開が外来小手術に有効に利用しています。

麻酔科は、常勤医2名で手術麻酔と週2回の外来診療を主に業務を行いました。

【手術麻酔】

2016年、当院における全手術件数は1449でした。

非常勤の麻酔科医、産業医科大学麻酔科医局の先生方にもご協力いただき、狭義の局所麻酔を除く938件の手術／908件の麻酔症例の全てを当科で担当させていただきました。

診療科	外科	整形外科	形成外科	脳外科	泌尿器科	耳鼻科	産婦人科
手術件数	365	245	188	39	38	31	2

外科系各科の先生方、手術室看護師はもとよりME、薬剤師、物品管理スタッフなど多くの方々の協力のもと、「より安全に。より快適に。」をモットーに麻酔を行っています。

患者安全への取り組み

残念ながら医療行為にヒヤリハットは付きもので、特に手術・麻酔などの行為はその性質上大きな医療事故にいたる危険性を含んでいますが、システム力と個人力をともに高めていくことにより医療事故を未然に防いでいます。

周術期の快適性への取り組み

・絶飲食時間の短縮：

栄養管理課の協力で、消化管手術を除く午後開始の手術の方には朝食を早く提供していただいています。また、朝食が食べられない方には経口補水液を提供しています。

・末梢神経ブロックの施行：

抗血小板薬や抗凝固薬の術前使用により硬膜外麻酔や脊髄クモ膜下麻酔ができなかったような症例にも全身麻酔に併用して超音波ガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行することにより良好な術後鎮痛をはかっています。

・声門上気道確保器具の多用：

ラリングマスクやi-Gelなどの声門上気道確保器具を多くの症例に使用し、気管挿管に伴う術後咽頭部不快感や抜管時の苦痛を軽減させています。

【外来診療】

月曜と木曜の午前中にペインクリニック（痛みの治療）と小児の鼠径ヘルニアなど手術当日入院症例の事前術前診察・麻酔説明を主に行っています。

2017年4月からは常勤医4名の体制となりましたので、より細かな周術期管理やマンパワー不足のため中断していた入院による急性期疼痛管理などもできるようになりました。

今後、さらに「質の高い医療」を提供して行けるよう努めてまいります。

救急科

救急科主任部長 井上 征雄、部長 田口 健蔵

救急科は、外科と兼任で担当しています。2016年は外科救急、外傷を中心とした救急外来での診療に加え、常設型ワークステーションの救急車同乗指導、救命士に対する病院実習での指導、ドクターカー出動などの病院前診療、DMAT、JMATなどの災害医療活動、JPTEC、MCLSなどさまざまな救急および災害研修会での講師参加など幅広く活動しました。また、救急医学会総会、地方会、臨床救急医学会、集団災害学会での発表や救急振興財団委託研究事業も積極的に行いました。また、専門医制度の改正により当院では研修基幹病院として、八幡病院独自の救急科専門医プログラムを作成し、新病院に向けて体制を作っていきます。

この一年を振り返って印象に残ったの活動は、昨年、4月におきた熊本地震です。余震発災直後の熊本入りし本部活動を行い、その後一旦帰院するも、本震後改めて熊本入りし、被災した熊本セントラル病院の病院避難を指揮しました。また、病院に残った災害対策チームメンバーにもさまざまな後方支援を行っていただき、大変助かりました。



1. 精神科診療内容について

当院精神科は外来とリエゾンを柱として診療を行っています。リエゾンとは精神症状を伴う患者さんを身体科主治医と協力して加療していくもので、入院患者さんが対象となります。

2. 外来診療について

2016年の外来延べ患者数は2,909人でそのうち新患は121人でした。新患患者の疾患分類をICD-10 分類に従ってしてみるとF4（神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害）が55人と一番多く、F3（気分障害）21人、F0（器質性精神障害、主に認知症）18人であり、この3群で全体の77%と大部分を占めています。

当科は紹介状も予約もなしで新患を受け付けています。

受診動機はさまざまですが、他院（精神科以外）からの紹介が30人、他院（精神科）からの紹介が10人、当院他科からの紹介が28人、検診依頼による受診が9名おられました。総合病院精神科ということで、単科精神科病院より受診の敷居が低く、紹介しやすいと思われます。

3. リエゾン診療について

当院入院患者で当科が併診した2016年の延べ患者数は383人、新患は109人でした。

紹介元科は整形外科34人、外科23人、循環器内科18人、脳外科13人、内科11人、形成外科6人、小児科2人、泌尿器科1人でした。

紹介理由としては、認知症、不穏、せん妄など治療が困難となる理由が多く、患者さんの年齢も75歳以上の高齢者が58人と57%を占めていました。

4. 今後の方向性について

従来通り最新の知見に基づいた薬物療法と精神療法で診療にあたり、患者さんのQOLの向上に努めます。とくに今後増えていくと思われる認知症患者さんに関しては放射線科の協力を得た最新の画像診断で早期発見、早期治療を目指していく所存です。

眼科は 2015年1月に再開して2年5カ月になります。

最近では頭部外傷、なかでも眼窩底骨折による眼球運動障害、ステロイド治療中の子供さん、全身疾患と関連ありそうな眼科疾患に加え、以前診ていたなつかしい患者さんがたずねてきてくれたり、「だれだれさんの知り合いです。」とってきてくださる方がふえてきました。近医の先生からの紹介も頂くようになりました。

外来には、OCT（光干渉断層計）に加え、画像ファイリングシステムがはいり、患者さんに、ご本人の眼の画像を取り込み、それをお見せすることで、即座に説明できるようになりました。特に白内障の濁り方や術後の状態をお見せすると、感激される方もいらっしゃいます。

外来のスタッフは視能訓練士；大西祥子、看護師；敷田信江、本田鶴子に新しく、伊村ときえが加わり3名、受付；松海幸子、医療クラークの松本はるか、私の7名です。

手術は火曜日です。

白内障手術は2泊3日、あるいは3泊4日のクリニカルパス、硝子体手術は7泊8日のクリニカルパスで行っています。

手術機器はコンステレーションが活躍中で、より安全な手術が継続中です。

2016年の件数は

白内障の手術 90眼

硝子体手術 9眼

内訳；増殖糖尿病網膜症手術 5眼、

糖尿病黄斑症 1眼

網膜前膜 1眼、その他 2眼

おかげさまで、術後の経過はみなさん、よいようです。

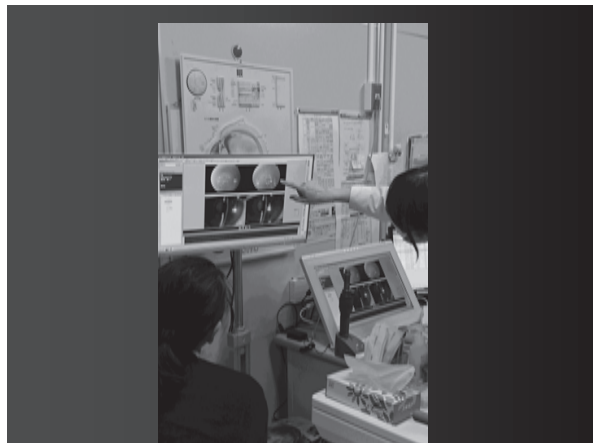
外来のスタッフ、西5病棟の看護師、手術室の看護師のおかげで、順調に施行できています。

今後は、今までどおり、他科の先生方と連携を大切に、お子さんから大人まで、幅広い年齢層の診療をおこなっていきます。とくに、糖尿病網膜症の患者さんは、増える一方です。一人でも多くの患者さんの失明を防ぐことができるようにとめてまいります。

眼科スタッフ



OCT





【概要】

2015年4月より、松本博臣が主任部長として赴任し、外来・入院診療および手術にあたっています。

泌尿器科悪性腫瘍（腎癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍など）、良性疾患（尿路感染症、尿管結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱など）に対する診療を行っています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行えるよう心がけております。

また、当院の特色である小児診療も積極的に行っており、小児泌尿器科領域での外科手術（停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎など）を施行しています。

泌尿器科救急疾患（尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉、膀胱タンポナーデ、精索捻転など）にも対応します。

常勤泌尿器科医は1名ですが、産業医科大学泌尿器科のバックアップのもと、長時間で人員を要する手術治療も行います。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

【外来診療】

2016年の外来患者数は3234人で、増加傾向にありました。（2015年2774人）

疾患としては、泌尿器科悪性腫瘍、前立腺肥大症や過活動膀胱などの下部尿路障害、尿管結石症、小児泌尿器科疾患が大部分を占めます。また、施行可能な患者様に対しては、外来癌化学療法を施行しております。

【入院診療】

2016年の入院患者総数は1112人で、1日平均入院患者は3.6人、平均在院日数は13.9日でした。手術患者や化学療法患者が徐々に増えてきており、入院患者数は増加傾向です。また、前立腺生検を2泊3日の短期入院で麻酔下に施行しており、「痛くない生検」を目指しています。

【手術】

2016年の泌尿器科手術件数は49件でした。膀胱癌に対する経尿道的切除（TUR-Bt）が最も多く、8例でした。（詳細は表1参照）小児関連の手術は10例で、例年より少ない傾向でしたが、膀胱全摘や前立腺全摘、鏡視下手術など、泌尿器科癌に対する手術件数は増加しております。また、結石などによる尿管閉塞に対するステント留置術が多い傾向にありました。

表1. 2016年手術件数（n=49）

TUR-Bt	8例
膀胱全摘術、尿路変向	1例
前立腺全摘術	1例
根治的腎摘除術	1例
後腹膜鏡下腎摘除術	1例
後腹膜鏡腎尿管全摘術	1例
経直腸的前立腺針生検	11例
腎盂形成術	1例
精索捻転手術	2例
停留精巣固定術	2例
包茎手術（背面切開・環状切開）	4例
膀胱尿管逆流防止術	1例
経尿的尿管ステント手術	11例
その他	4例

昨年末に今村医師が退職したため、2016年は主任部長神崎修一、部長今福の2名での診療体制となりました。2名とも日本医学放射線学会認定の放射線診断専門医です。主な業務内容はCT、MRI、RIの読影、肝動注塞栓療法を始めとしたIVR、超音波検査、消化管造影検査などです。

2016年の診療概要

1年間でCT 7244件、MRI 1706件、RI 211件の画像検査が施行されました。当科においてその検査の99.9%に画像診断報告書が作成されており、画像診断管理加算2（常勤の画像診断専門医がCT、MRI、RI検査についてその8割以上の読影結果を翌診療日までに主治医に報告することが条件、1検査月1回180点）の加算を頂いております。今年は病診連携医療機関からの画像検査診断依頼はCT 246件、MRI 372件、RI 60件、US 43件、計721件であり、昨年（723件）とほぼ同等の件数でした。

IVRについては当科単独で46件の手技を施行しました。内訳は悪性腫瘍（主に肝細胞癌）に対する動注化学塞栓療法（TACE）31件、外傷による内臓損傷や骨盤動脈出血に対する緊急止血術（TAE）2件、肺動静脈奇形に対するコイル塞栓術1件、主に乳腺腫瘍などに対する経皮的針生検7件、膿瘍ドレナージ4件でした。

2016年は減員の影響もあり、各臨床科外来からの至急読影依頼への対応が十分でなかったかもしれません。しかしながらあわてて読影した結果、ミスが増えるようでは本末転倒ですので臨床各科の先生方もその点ご理解頂ければ幸いです。

2017年の展望

2017年1月より副部長として隅野靖彬が赴任する予定で2017年は3名での診療体制に戻ります。また、常勤医が休む際には非常勤医（放射線科診断専門医）の診療応援もいただけるようになりました。マンパワー復活に伴い、二重読影件数を増やしてより精度の高い読影を目指す所存です。

今後の抱負について

現代医療において画像診断の重要度が非常に大きくなっている以上、当科の責務も重大であると考えています。当科のさらなる画像診断能向上が病院全体の診療レベル向上に貢献できると考えます。画像診断能の向上に近道はなく、文献・書籍や学会・研究会での知識吸収および情報収集、何よりも自分達の読影した症例について経過を追跡し、読影が妥当なものであったか検討し、間違っていれば反省して次の画像診断に生かすといった事を地道に継続して行っていくことが重要と考えます。また、診療各科との連携を密にして臨床科が画像診断に求めるニーズを把握し、臨床に役立つレポートを作成したいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

（文責 今福 義博）

2016年の産婦人科は、外来業務を主として行ってまいりました。月曜日から木曜日までは今福が、金曜日を中島が担当しておりました。

外来業務としては、がん検診をはじめ、婦人科疾患の診断や治療、月経に伴う症状（貧血や下腹部痛など）の病状評価ならびにそれらに対する症状緩和や治療、更年期に起こりうる症状の評価やそれに対するホルモン補充療法などの治療、老年期においては子宮脱等の骨盤臓器脱に伴う症状に対して姑息的な対応を行ってまいりました。

日常の診療では、患者様一人一人の症状に対して、疾病のみならずそれに伴う心的負担も含めてしっかりと問診を行い、必要な検査の提示を行ったうえで、検査ならびに治療の選択をして頂き、症状の改善や緩和を行っておりました。また、予約を積極的に行うことにより患者さんの待ち時間をできるだけ短縮し、診察時には十分な時間をかけて対応していくことができました。他科からの紹介や協力により、2016年は手術療法を選択肢に取り入れることができ、他院へ紹介していた症例をフォローする機会もありました。

2016年10月より母体保護法指定医師の資格を取得し、2016年度に1例の症例に対して手術施行いたしました。

今後の目標としては、2017年度から常勤医1名が増える予定になっており、外来業務の更なる拡充はもちろん、入院加療が必要な症例も今後は積極的に対応していくことができると考えております。また、「性暴力被害支援センター・ふくおか」支援専門機関として協力していく予定で、北九州市だけでなく福岡県の母性の生命健康を保護していけるよう考えております。

まずは、北九州市八幡地区で必要とされる産婦人科になれるよう、日常の診療を行ってまいります。

**【外来／診療内容】**

2016年度は、月～金の9時から11時まで一般皮膚科診療を、第1、3月曜日の14時から16時まで福岡大学の皮膚科専門医に来院頂きより専門的診療にあたりました。また、当科は紫外線治療機械を導入しており、白斑の患者さんを中心に、治療にいかしております。

【スタッフ】

2016年度は内藤が常勤として赴任させて頂きました。また、第1、3月曜日の午後は福岡大学からは古賀文二先生、伊藤宏太郎先生の2名の皮膚科専門医にご来院頂きより専門的な診療ができるように努めました。

【今後の方向性】

一般皮膚科を中心に地域の皆様にお役に立てるように精進して参ります。

なお、2017年度からは新たに皮膚科医の有隅由芽先生に赴任頂いております。より多くの患者さんの皮膚疾患治療のお手伝いができるように努めていきたいと存じます。

福岡大学からは、月に1回、第1月曜日の午後のみ古賀文二先生に引き続きご来院頂いております。専門的治療の充実も図っていく予定です。

新たな試みとして、自由診療を開始致しました。ニキビに悩む方などにケミカルピーリング、男性型脱毛の方に内服治療を提供できるようになっております。

歯科ではここ数年と大きく異なる点がふたつあります。

①診療台が更新されました。

歯科の診療台（診療ユニット）は2台ですが、いずれも設置後20数年経過し老朽化がかなり進んでいました。塗装の劣化、シートの破れが目立つ他、椅子自体の動きが悪く動作時の異音・振動で患者さんに不快感を与えていました。さらには1台の診療台が故障して修理の部品が調達できないので、片方の台から部品を外して修理するという始末でした。このため半年以上一台のみで診療を行っていました。ひとりの患者の診療が終わってから次の患者を呼び入れるのに、5分以上のロスタイムが生じていたわけです。新しい診療台を購入する予算はおりにていたのですが、購入が決まり外来に設置されるまで約1年半を要し、平成28年3月14日ようやく新しい診療台が使用できるようになりました。この診療ユニットは照明がLEDに変わり、術者にとっては明るく見やすくなりました。またシートの柔らかさが格段に向上したので、患者さんにとっても疲労度・ストレスが軽減されると思われます。

②歯科衛生士が交代しました。

歯科衛生士として長く勤務してくれた長松さんが退職し、代わりに卒後3年目の古賀葵衣（あおい）さんが着任しました。彼女はこれまで主に訪問歯科診療を2年間経験し、高齢者・有病者の診療に携わってきました。なかでも口腔ケアに関しては得意技を持っているようです。歯科では2015年半ばから入院患者さんの口腔ケアを重視し、依頼があれば週一回病棟での口腔ケアを行うようになりましたので、ちょうど適材・適所の人材を確保することができたと言えます。

医療安全と薬剤課業務

近年、薬剤師はチーム医療の一員として薬学的観点から医療安全に貢献することが求められています。八幡病院の薬剤課も入院患者様には、入院時の持参薬調査・薬歴管理に始まり患者様1人1人に合わせた薬剤に関する患者教育や指導・相互作用のチェック・副作用モニタリングをおこなっています。また退院時には退院時指導をおこないコンプライアンスの向上をはかるとともに、かかりつけ薬局や他院との情報共有のため、退院時の薬剤情報をお薬手帳に貼ってお渡ししています。電子カルテでは患者情報に容易にアクセスできるので患者様の状態に応じた処方提案もできるようになりました。2016年は集中治療室にも薬剤師が関与するようになりました。今後は薬剤師の人員増加をはかり、病棟薬剤業務を全病棟に広げて、より細かな患者サポートをおこない、さらなる医療安全への貢献をしていくことが目標です。

電子カルテを利用し、薬剤師が薬剤のマスター管理をすることでオーダー時にさまざまなアラートを出すことができ、薬剤の適正使用に役立っています。外来患者様にも、薬剤の説明をするだけでなく、全員にお薬手帳用の薬剤情報を発行し、お渡ししています。

増加傾向にある外来化学療法でもレジメン管理、抗がん剤ミキシング、副作用モニタリング、患者教育がかかせません。電子カルテのレジメン機能を使った管理・運用では紙カルテとは違った管理方法が求め

られますが、患者様に安全で良質な化学療法を提供するために日々取り組んでいます。がん患者管理指導料3も算定しています。

DPC病院になって、安価で安全なジェネリック薬品を確保していくことも薬剤師の責任となりました。ジェネリック採用率も70%台を堅持しています。医師や看護師へのさらなる情報提供をしていくつもりです。

また急速に進歩する医療に対応するため、薬剤師1人1人がさまざまな認定取得をめざし研鑽するとともに、情報共有の目的で院外の薬局に向けた勉強会も開催しています。これからも薬剤課全員でさまざまなニーズにこたえ、医療安全に貢献できる薬剤師を目指していこうと思います。



診療放射線技師22名、事務員3名で、高度化する画像検査に対し専門性を高め、迅速で質の高い診療支援を提供するため日々研鑽を重ねています。また患者さんのプライバシーを守るとともに、医療被曝をできるだけ少なくするため最善の方法を用いるよう取り組んでいます。今年新人として嶋田千愛さんが配属されました。

業務実績の推移（検査人数）

	2014年	2015年	2016年
一般撮影	28,767	28,497	26,081
造影透視	1,177	1,120	1,151
CT	7,772	7,423	7,254
MR	2,507	2,299	2,379
RI	198	221	212
血管造影	137	99	68
心カテ	456	425	351
骨塩	88	144	173
コピー	1,774	2,523	2,789

【概要】

2016年の検査数は前年比でCT、血管造影系で若干の減少、MRが僅かに増加しました。

コピーは医療連携に係る画像提供及び他院画像の取込みが激増し、もはや診療の合間に行う業務としては迅速な対応が困難となっています。昨今の医療環境の変化に伴い今後さらに増加すると思われます。近く画像取込作業の一部を医事係と協力し対応していく予定です。

一方、他院からの検査依頼は、MR、RIの件数が僅かながら増加しています。

放射線技術課では高額な画像診断装置が多く、年間保守費用も非常に高額です。

画像診断機器 共同利用実績（検査人数）

	2014年度	2015年度	2016年度
CT	307	290	260
MR	352	358	407
超音波	45	45	41
RI	22	50	67
総計	726	743	775

例えばMRの年間保守費は1,200万円。これはおよそ550件のMR検査収益に相当します。検査数にはまだ余裕がありますので医療連携室並びに放射線科医の皆様方と協力し、更なる装置の有効利用を推進し件数の増加に繋げたいと考えています。

また本年は泌尿器科の松本先生と223Raゾーフィゴによる治療がおこなえるよう準備を開始しました。小児科の高野先生はじめ関係諸氏の皆様とは小児Aiモデル事業の参加登録を行ない実施運用を開始しています。

【今後の展望】

課内保有装置の半数で老朽化が進んでいます。2018年移転時には医療機器等整備検討委員会の決定に従い、MRI、CT、RI、TV（骨密度測定含む）、一般撮影の更新を行う予定です。加えてハイブリッドOR-血管造影-CTシステム、MMG新規導入します。

これだけの最新機器が一挙に導入されますので、これらの機器設置検収後は、極めて短期間で装置の習熟を行わなければなりません。

細心な計画に基づき、遅滞なく診療支援が行えるよう今から機器の性能や先端技術による検査法の情報収集と予習を行っているところです。



1. 概況

2015 年 4 月より臨床検査科は臨床検査技術課となり診療支援部の中に位置づけられ 2 年が経過し、協力体制を取っている。

当課は臨床検査技師数 23 名で検査業務を行っている。変則 2 交代勤務体制で日勤・夜勤を行い通常業務から救急搬送患者対応まで 24 時間体制である。

2. 現状

2018 年度新病院開院に向け、設計は最終的な確認作業に入り、より良い新病院にするための打ち合わせを重ねている。

また、新病院開設時には、医療センターに集約している項目を院内検査に取り込めるよう準備も始めた。院内測定することにより、迅速に結果報告することで診療や患者サービスに寄与したいと考える。さらに、細菌検査室を設置することにより感染症にもより迅速な対応ができると考え、準備に力を入れている。

2016 年度各部署において、さらに病院運営に協力できるよう、努力をしてきた。

一般検査部門では、CD トキシンの試薬を毒素に加え抗原を検出できるキットに変更し CD トキシン検出の性能を上げた。

生理検査部門では、認定超音波検査士が 1 名増え現在 3 名、さらに腹部エコーの習得にも力を入れており認定の取得に向けても頑張っている。また、PSG（終夜睡眠ポリグラフ検査）を導入し睡眠障害や睡眠呼吸障害などの確定診断としている。

生化学検査部門では医療センターに集約していた免疫グロブリン（IgG, IgA, IgM）を院内測定することによって迅速な結果報告ができるようになった。

血液検査では、時間外にもフィブリノーゲン測定を開始し、凝固検査の情報をより多く提供できるようにした。

病理検査部門では全自動染色装置の更新と新たに免疫染色全自動システムを導入し、迅速で安定した染色が可能となり、病理診断に大きく役立っている。

る。

また、チーム医療にも積極的に参加している。

感染対策では、院内の ICT 活動のラウンド参加やデータ解析など中心的役割を果たす他八幡東部地区地域連携の中心的役割を担う病院として院外活動にも積極的に参加している。

NST 活動では、データの提出やラウンドなどに参加している。

医療安全でもリスクマネジメント部会、ワーキンググループのメンバーとして参加している。

3. 今後の方向性

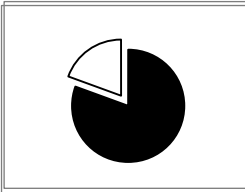
病院経営の厳しい中、臨床検査技術課としてやれることはないかを運営方法の立場からも考えていきたい。その上で新病院開院時での臨床検査技術課の体制を念頭に人材育成を行っていきたい。

新病院での臨床検査技術課の役割を十分に理解し病院の中でどうあるべきか、患者様のために何ができるかを考えつつ臨床検査技術課職員全員で一致団結して八幡病院を盛り上げていきたい。

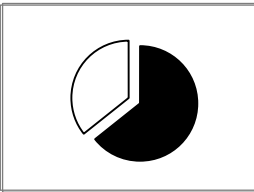
臨床検査技術課 平成28年度検査外来・入院比率

	一般検査		生化学検査		血液検査	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院
4月	11,118	2,875	27,680	14,955	9,180	7,185
5月	11,467	2,703	27,926	16,954	9,438	8,419
6月	12,430	3,423	30,275	16,546	10,147	8,181
7月	12,249	3,094	29,690	17,248	10,017	8,686
8月	13,033	3,470	33,091	17,752	11,058	8,603
9月	11,743	2,285	29,354	14,803	9,844	7,259
10月	11,449	2,145	28,218	14,368	9,468	7,067
11月	11,698	2,457	27,061	15,720	9,320	7,597
12月	11,025	2,316	26,823	14,789	9,049	7,239
1月	11,017	3,059	27,010	15,622	8,944	7,415
2月	10,942	2,999	26,142	15,654	8,679	7,507
3月	12,760	3,173	29,672	15,981	10,732	8,308
合計	140,931	33,999	313,270	190,392	115,876	93,466
月平均	11,744	2,833	28,579	15,866	9,656	7,789

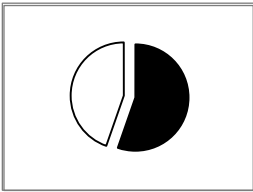
外来・入院比率



一般検査 外来：80%
入院：20%



生化学検査 外来：65%
入院：35%



血液検査 外来：56%
入院：44%

1979年、理学療法士1名が整形外科採用となり、当院のリハビリテーション業務が開始されました。ニーズの増大に伴い少しずつスタッフの増員がなされ、2010年より作業療法士も採用されました。2015年4月には『診療支援部リハビリテーション技術課』となり、2016年4月には、言語聴覚士が採用されました。これにより、摂食嚥下訓練や言語訓練への対応が可能となってきました。

現在、理学療法士6名、作業療法士2名、言語聴覚士1名で、患者さんの一日も早い社会復帰を目指し業務を行っています。

施設基準は、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）となっています。

2015年12月よりがん患者リハビリテーションも行われるようになりました。

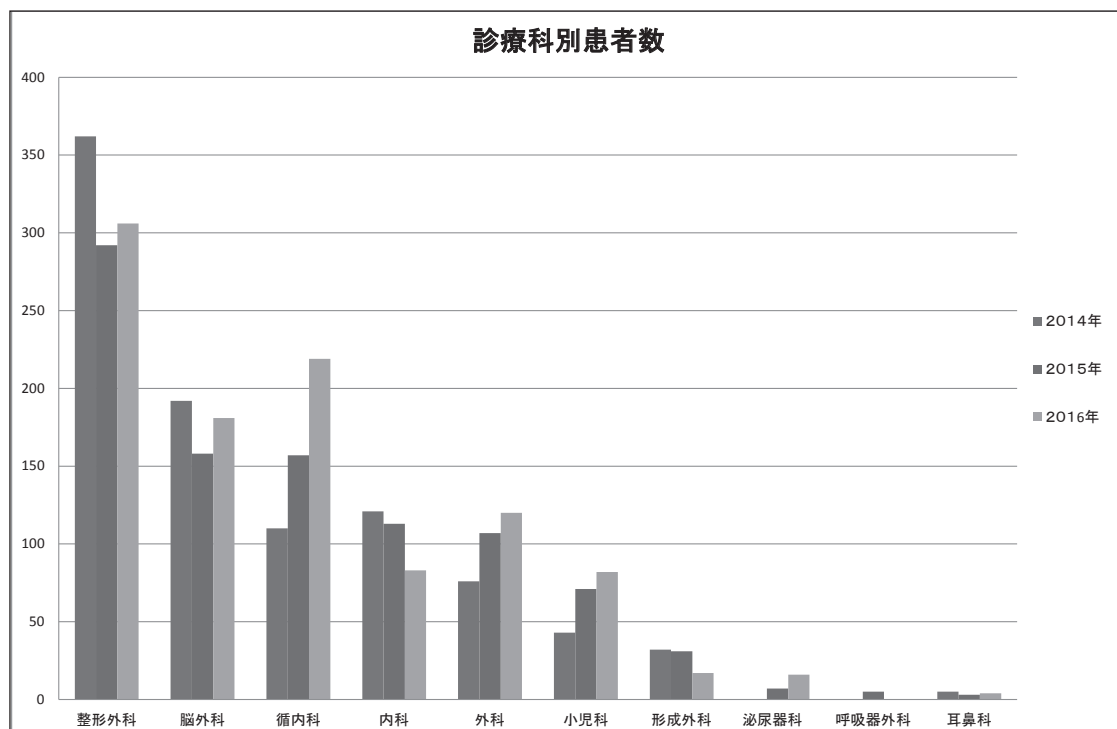
2016年5月には、これまで看護師により実施されてきた自転車エルゴメーターなどによる心臓リハビリテーションが、理学療法士により実施されるようになりました。

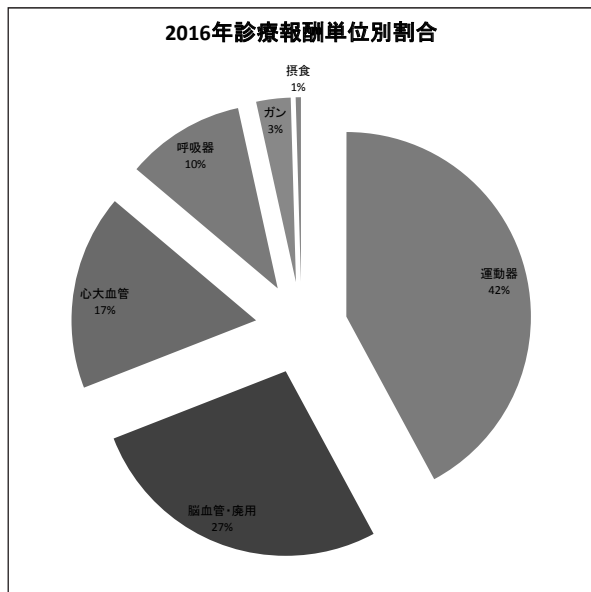
現状

整形外科、脳神経外科を中心に各科からの依頼となっていますが（図参照）、循環器内科、外科、小児科からの依頼が増え、対象疾患が多岐にわたる傾向にあります。

外来患者には月に一度のカンファレンスを、また入院患者には週に一度、整形外科カンファレンス・回診と、脳外科カンファレンス、内科回診、外科回診を行っています。月に一度循環器内科カンファレンスも実施されています。このように、連携をとって治療にあたるよう努力しています。

現在施設基準で脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）でないのは、スタッフが少ないためであり、取得には理学療法士5名以上、作業療法士3名以上、言語聴覚士も含め合計10名以上のスタッフ常勤が条件です。





今後の方向性

- ・現時点では各患者に十分な訓練時間を費やせているとは言えません。理学療法と作業療法の併用もわずかししかできていません。スタッフの増員を図り、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）を取得できるようにしていきたいと考えています。
- ・心大血管リハをはじめ、外科周術期や呼吸器、口唇口蓋裂のリハビリテーション、また急性期小児リハビリテーションなどに積極的に関わっていきたいので、一層の知識習得が必要だと考えます。

3学会呼吸療法認定士 砂山 明生
高橋 倍美

当院臨床工学課は臨床工学技士2名が在籍しており、チーム医療の一員として診療技術支援と医療機器管理業務を行っています。医療機器の安全運用と、呼吸・循環・代謝の代替療法が効果的に行われるように技術提供しています。

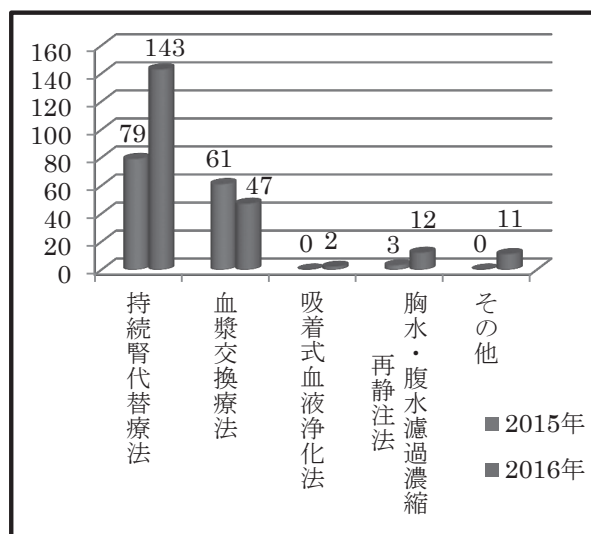
現状

【各種血液浄化療法】

成人・小児・急性期・慢性期を問わず様々な病態に対して各種血液浄化療法を施行しています。

持続緩除式血液濾過、単純血漿交換、LDL吸着、免疫吸着、C型肝炎ウイルス除去療法、エンドトキシン吸着、LCAP（白血球除去療法）、胸水・腹水濾過濃縮再静注法等の施行実績があります。診療科からの依頼に対して、患者に最も適切な治療形態で提供するように努めています。

治療種別施行件数



血液浄化療法の内訳としては、当院の特色である救急患者および小児患者に対する持続腎代替療法、血漿交換療法が大半を占めます。

【肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法】

肝臓の悪性腫瘍に対する治療法のひとつで、平成25年度より当課で治療時の技術サポートを行っています。

【医療機器管理業務】

各種医療機器の保守点検（使用後点検・定期点検）および修理を、当課で可能な範囲で行っています。院内で対応困難なケースは、医療機器メーカーへの窓口となり対処しています。

人工呼吸器・除細動器（AED含）・輸液ポンプ・シリンジポンプ・PCPS（経皮的心肺補助装置）・IABP（大動脈内バルーンポンプ）等の医療機器が安全に動作するように点検し、必要時は消耗部品の交換等も行っています。

【医療安全】

医療機器の取扱い研修の実施や、各種委員会および呼吸ケアサポートチームでの活動を通して、医療安全やチーム医療の充実に取り組んでいます。

今後の方向性

未だ院内の医療機器管理体制としては不十分な点も多く、安全な医療の提供のためにも業務範囲・密度の充実を図りたいと考えます。平成30年度の新病院移転を機に、老朽化した医療機器の整理も含め、当課を軸に医療機器管理体制を集約的に進めるよう努めて参ります。

医療機器の安全管理は直接的には収益に結びつくものではありませんが、病院としてその責務を有す旨が法に定められており、必要不可欠な業務です。医療機器使用環境をさらに安全で充実したものとなり、看護師が業務に専念できるようにするためにも、臨床工学技士の増員が必要と考えます。

栄養管理課

栄養管理係長 梅木 加寿子

医療の一環として、入院患者さんの栄養管理を行い、安全でおいしい食事の提供、および、入院外来患者さんへの栄養指導が主な業務です。

食事提供業務は一部委託しており、献立作成、全体的な栄養管理が病院、食材の発注、調理、盛り付け、配膳等は委託会社が担っています。

職員は、病院側が管理栄養士3名、委託会社側が管理栄養士2名、栄養士5名、調理師9名、調理員9名（パート含む）で構成されています。

28年は、嗜好調査内容を再検討し、よりよい食事の提供に組みました。

食事の提供

患者さん一人ひとりの病態や、年齢性別等に合わせた食事を提供する他、食欲のない患者さんには、個別に聞き取りを行い、主食の種類や量の変更、栄養補助食品を追加するなど、きめ細かな対応を心掛けています。また、食物アレルギーをもたれている患者さんも多く、細心の注意を払い、献立作成、調理、盛付を行っています。

行事食は、年間21回取り入れ、季節を感じる旬の食材もその時々メニューに織り込み提供しています。

一般食の、常食・全粥食等では、朝・夕に選択メニューを取り入れています。

28年は年2回の嗜好調査のうち1回は、小児科病棟を中心に夕食の全てのメニューの喫食状況を調査し、評価の低かった献立については、他の料理への変更や、食べやすい調味料に変更するなど、改善を行いました。また、全病棟的に行った嗜好調査では、食事の全体的な感想として、一般食の85%、特別治療食の89%の方が、「普通」から「良い」との回答をしていただいています。しかし、昨年同様、「副食が冷えている」「料理の味が薄い」などの意見もあり、一層の温度管理、おいしく食べていただけるよう工夫をしていきます。

栄養指導

入院・外来患者さん対象の個別栄養指導を随時

行っています。

28年も教室関係では、糖尿病教室（隔週）の集団栄養指導とアレルギー教室（年2回）の個別相談を行っています。

チーム医療

NST活動では、事務局の役割を果たし、毎週の勉強会、月1回の運営委員会、ラウンド等の準備、参加を行っています。

また、内科回診、褥瘡ラウンドにも参加し、チーム医療の中で、栄養に関する相談を受けたり、提案を行ったりしています。

医療安全やICT活動にも、積極的に参加しています。

糖尿病患者会（みどりの会）

八幡病院の患者会事務局として糖尿病患者さんと共に、毎月の機関誌「さかえ」の発送や、糖尿病栄養教室、食事会などの行事を企画し、実施しています。また、毎年、北九州市全体で行われるウォークラリーに参加しています。

28年の糖尿病栄養教室では「Dr.中村のちょっといい話」と題して、糖尿病専門医の中村寛内科部長の講演を行いました。高齢の患者さんが多い中、これからの糖尿病との付き合い方が実感できる講話でした。

今後も多職種との連携を図りながら、医療サービスの向上に努力していきたいと思っています。



1. 質の高い看護の提供

1) 研修報告

院内教育は教育委員会や各委員会が中心となり開催しています。28年度は小児看護の研修や認知症看護の研修を年間通して開催し好評でした。院内の教育体制を充実させるとともに看護協会や大学主催の研修などに参加できるよう調整し、各自の学習の機会を増やしスキルアップを行いました。

2) 認定看護師

現在7領域13名の認定看護師が在籍しています。今後は摂食・嚥下障害看護、認知症看護の取得を目指しています。認定看護師は院内のみならず院外へ講師として出務して院内外を通して活躍しています。

小児救急看護	3
感染管理	2
脳卒中リハビリテーション看護	1
救急看護	3
集中ケア	2
がん化学療法看護	1
皮膚・排泄ケア	1
合計	13

2. 笑顔で挨拶

『笑顔で挨拶!みんなで笑顔ナンバーワンを目指しましょう!』を合言葉に、接遇委員会が中心となり『スマイルナンバーワン投票』を行い3名の看護師を表彰しました。外来・病棟で、誰に対しても、おもてなしの気持ちを忘れない笑顔で挨拶出来る看護職員を増やし院内に笑顔の輪を広げています。

3. 看護の力で支える病院経営

平成28年はDPCが導入され、それに伴い在院日数の短縮が大きな課題でした。そのため、退院支援についての理解を深め、入院時から患者さんの情報を共有しその方らしい生活が出来る場所へ帰れるように退院調整を行ないました。病院経営は非常に厳しい状況にあります。

職員全員が経営意識を持ち病床の有効活用、業務の効率化、無駄の削減に取り組みました。

4. 働き続けられる職場づくり

現在約320名の看護職員が在籍しています。

看護職員が働き続けられる職場であるために職場環境の改善維持に努めています。「お互いさま」の気持ちで支えあう職場であり、組織内では部署間の格差が少しでも縮められるようリリーフ体制を行なっています。また、業務改善や人材確保に努め、時間外勤務削減や休暇取得が前年度より改善できるよう取り組みました。その結果、離職率は全国平均(10.9%)よりかなり低く、特に新卒新人離職率は3年連続0%でした。

		26年度	27年度	28年度
正規職員離職率	離職者数	17名	15名	11名
	離職者率	5.38%	6.18%	4.48%
入職1年目離職率	入職者数	17人	10名	14名
	離職者	1名	0名	0名
	離職率	5.88%	0%	0%
新卒看護職員離職率	入職者数	4名	5名	13名
	離職者	0名	0名	0名
	離職率	0%	0%	0%

看護部は新病院の開院に向け看護力のアップをはかり、地域の皆様に信頼される看護師の育成に力を入れています。

当院の事務局は、管理課と経営企画課の2課に3つの係が置かれています。

管理課には庶務係と新病院移転調整官が置かれています。庶務係は①病院全体の庶務・調整業務、②庁舎管理業務、③職員の労務管理・福利厚生業務、④予算決算・諸物品購入、などの多種多様な業務を担当しています。

現在の病院建物は建設後30数年が経過しており、大規模改修などは行ってきたものの経年劣化が目立っています。

平成30年度中に新病院への移転を予定していますが、それまでの間、地域の皆様から頼りにされる医療機関として十分な設備保全を行い、患者の皆様が安心して過ごしていただけるように努力していきます。

また、新病院移転調整官は2名配置され、建設が進む新八幡病院の移転に関する準備を行っています。業務内容については、各部門の施設、設備等の希望の実施設計への反映、総合図の最終チェックなどJV（共同企業体）と病院の調整業務を担当しています。現在、新病院建設は平成28年10月起工式を終え、本体建設工事を進めています。平成30年9月末には完成引渡し、平成30年度中の開院を目指しています。

経営企画課には、企画係と医事係が置かれています。

企画係では、①医療器械・医療備品、診療材料及び医薬品の購入、②施設基準、③経営改善、④医師の確保、⑤医療情報システム等に関する業務を担当しています。

今年は、新たな調達・物流管理システムであるSPDを導入し、調達コストの削減に努めました。また、新病院移転に向けて、PICUやハイブリッド手術室等に係る医療器械の選定に着手しました。

今後も引き続き、質の高い医療の提供に向けて、環境整備に努めていきます。

医事係では、①外来患者や入退院の受付事務、②

診療報酬計算、請求、未収対策などの業務を行っています。

病院に来院した方に最初に対応するのが医事係の職員です。病院の顔として親切で思いやりのある対応を心がけ、患者さんに安心・信頼・満足していただけるよう努めています。

5

業績集



2016年 八幡病院業績集

内科

学会・研究会

1. 重症筋無力症の一例
末永 章人
第5回 ほばしら内科カンファレンス 6月2日 北九州市
2. 小腸炎の一例
川口 浩太郎
第6回 ほばしら内科カンファレンス 11月15日 北九州市

座長・司会

1. 中村 寛
適正使用を踏まえたメトホルミン処方
第5回 八幡糖尿病よろづ相談所 2月8日 北九州市
2. 川口 浩太郎
一般演題
第5回 ほばしら内科カンファレンス 6月2日 北九州市
3. 中村 寛
2型糖尿病における強化インスリン療法からのBGTへのstep down治療
Diabetes Conference in Kitakyusyu 10月27日 北九州市
4. 中村 寛
高齢糖尿病患者の治療実態
第7回 八幡糖尿病よろづ相談所 11月14日 北九州市
5. 末永 章人
症例検討
第6回 ほばしら内科カンファレンス 11月15日 北九州市

講演

1. 心血管イベントの既往を有する2型糖尿病患者の臨床的特徴について
中村 寛
北九州糖尿病研究会 3月22日 北九州市
2. 市立八幡病院における呼吸器診療
星野 鉄兵
第5回 ほばしら内科カンファレンス 6月2日 北九州市
3. インスリン治療と経口薬
中村 寛
第6回 八幡糖尿病よろづ相談所 7月11日 北九州市

-
4. 注目の感染症－結核－
星野 鉄兵
院内感染対策研修会
8月16日 北九州市
 5. 高齢社会の糖尿病治療
中村 寛
生活習慣病薬剤治療勉強会
11月28日 北九州市
 6. 吸入指導の重要性
星野 鉄兵
第1回 吸入支援研究会
12月5日 北九州市

循環器内科

論文

1. Efficacy and Safety of Alirocumab in Japanese Patients With Heterozygous Familial Hypercholesterolemia or at High Cardiovascular Risk With Hypercholesterolemia Not Adequately Controlled With Statins - Odyssey Japan Randomized Controlled Trial.
Teramoto T, Kobayashi M, Tasaki H, Yagyu H, Higashitaka T, Uno K, Baccara - Diet MT, Nohara A.
Circ J. 80 : 1980 - 1987 : 2016

学会・研究会

1. プレシャーワイヤーによる圧較差判定をもとに経皮的腎動脈形成術（PT RA）を施行した腎血管性高血圧の1例
三浦 俊哉、北野 哲司、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
日本内科学会 九州地方会
5月28日 福岡市
 2. 下肢末梢動脈疾患に対する Crosser system の使用経験と有用性
北野 哲司、三浦 俊哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
日本循環器学会 九州地方会
6月25日 大分市
 3. プレシャーワイヤーによる圧較差判定をもとに経皮的腎動脈形成術（PT RA）を施行した腎血管性高血圧の1例
三浦 俊哉、北野 哲司、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
日本循環器学会 九州地方会
6月25日 大分市
 4. 肺高血圧症の1例
北野 哲司、三浦 俊哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
八幡循環器カンファレンス
7月28日 北九州市
 5. 低左心機能に僧帽弁逆流を合併した1例
三浦 俊哉、北野 哲司、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
八幡循環器カンファレンス
7月28日 北九州市
 6. 狭窄部 PSV<220 にもかかわらず PTRa が著効した ARAS の症例
三浦 俊哉、北野 哲司、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
北九州循環器懇談会
7月29日 北九州市
-

-
7. SFA - CTO 病変における体表エコーガイド EVT の初期成績と遠隔期成績の検討
三浦 俊哉、北野 哲司、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
CVIT 九州地方会 8月19日 福岡市
 8. LAD、RCA の分岐部病変に対して Modified Jailed Balloon Technique を用いてステント留置を行った1例
北野 哲司、三浦 俊哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
CVIT 九州地方会 8月20日 福岡市
 9. 治療に難渋した重症三尖弁閉鎖不全症の1例
北野 哲司
玄海心不全カンファレンス 8月26日 北九州市
 10. 当院での長期的な監視型運動療法の継続がもたらす効果
武田 良太、高橋 倍美、砂山 明生、田中 正哉、太崎 博美
日本心臓リハビリテーション学会 第2回 九州支部地方会 10月29日 福岡市
 11. 治療に難渋した重症三尖弁閉鎖不全症の1例
北野 哲司、三浦 俊哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
ひびき循環器症例検討会 11月9日 北九州市
 12. 苦労した下肢痛の1例
北野 哲司、三浦 俊哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
八幡循環器カンファレンス 12月1日 北九州市
 13. 治療に難渋した無症候性心筋虚血症例
三浦 俊哉、北野 哲司、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
八幡循環器カンファレンス 12月1日 北九州市
 14. 抗凝固療法により塞栓症の出現なく左室心尖部血栓が消失したたこつぼ型心筋症の1例
北野 哲司、三浦 俊哉、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
日本循環器学会 九州地方会 12月3日 鹿児島市
 15. 狭窄部 PSV<220 にもかかわらず PTR A が著効した ARAS の症例
三浦 俊哉、北野 哲司、佐貫 仁宣、小住 清志、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
日本循環器学会 九州地方会 12月3日 鹿児島市

座長・司会

1. 田中 正哉
症例報告
八幡循環器カンファレンス 3月10日 北九州市
 2. 田中 正哉
症例検討及び研究報告
北九州心臓リハビリテーションセミナー 5月19日 北九州市
 3. 田中 正哉
一般演題
北九州循環器・糖尿病ジョイントカンファレンス 7月27日 北九州市
 4. 田中 正哉
症例検討
八幡循環器カンファレンス 12月1日 北九州市
-

講演

1. 脂質異常症の治療
太崎 博美
小倉薬剤師会
3月22日 北九州市
2. 高コレステロール血症の新しい治療
太崎 博美
八幡臨床外科医会
4月20日 北九州市
3. 脂質異常症の診療 広範な疾患群とその対応
太崎 博美
特定健診登録医療機関研修会
5月17日 北九州市
4. 北九州の高齢化医療に HONEST Study をどう活かすか
太崎 博美
Premium Hypertension Meeting
5月24日 北九州市
5. モンスターペーシェントへの対応
原田 敬
第17回 北九州西部地区医療安全研修会
5月24日 北九州市
6. 最新の心不全治療の実態
田中 正哉
八幡薬剤師研修会
5月26日 北九州市
7. 家族性高コレステロール血症とその治療
太崎 博美
レパーサ 北九州講演会
5月26日 北九州市
8. 家族性高コレステロール血症 最新の知見と治療
太崎 博美
脂質異常症 Front meeting
7月14日 大阪市
9. 知っておきたい家族性高コレステロール血症とその治療
太崎 博美
飯塚医師会学術講演会
7月19日 飯塚市
10. 抗 PCSK9 抗体と家族性高コレステロール血症
太崎 博美
八幡循環器カンファレンス
7月28日 北九州市
11. ヘテロ FH と虚血性心疾患の関連性
太崎 博美
虚血性心疾患患者の脂質管理を考える
10月15日 北九州市
12. 肺高血圧の病態と治療
太崎 博美
大分東循環器カンファレンス
10月20日 大分市
13. 家族性高コレステロール血症の診断と治療
太崎 博美
ブラルエント記念講演会
10月22日 福岡市

-
14. 高齢者の安全な薬物療法
太崎 博美
ほぼしら内科カンファレンス 11月15日 北九州市
15. 家族性高コレステロール血症患者を見逃さないための診断と治療のポイント
太崎 博美
A New Era for Lipid Lowering Therapy 11月29日 秋田市
16. 高コレステロール血症の診断と新しい治療
太崎 博美
糖尿病症例検討会 12月16日 久留米市

小児科

論文

1. 小児救急疾患アトラス「魚骨によるメッケル憩室穿孔」
市川 光太郎
Emergency Care 29 ; 8 – 11 : 2016
2. 救急現場での多職種連携による虐待対応
市川 光太郎
小児科診療 UP - to - DATE 15 ; 35 – 40 : 2016
3. 小児救急疾患アトラス「虐待による頭部外傷 (Abusive Head Trauma : AHT)」
市川 光太郎
Emergency Care 29 ; 276 – 279 : 2016
4. 思春期の子ども達はなぜ事件を起こすのか?～親は子ども達にどう向き合えばよいのか～
市川 光太郎
聖マリア医学 40 ; 1 – 10 : 2016
5. 診療科でみる虐待の特徴～救命救急科－発見にいたる症状～
市川 光太郎
小児内科 48 ; 190 – 195 : 2016
6. 小児の検査施行とその基準値の理解と実践に向けて
市川 光太郎
小児看護 39 ; 265 – 265 : 2016
7. 骨折と虐待の発見
市川 光太郎
月刊母子保健 684 ; 9 – 9 : 2016
8. 小児救急疾患アトラス「お好み焼き粉によるアナフィラキシー」
市川 光太郎
Emergency Care 29 ; 454 – 456 : 2016
9. 小児初期救急診療におけるトリアージ (日本小児科医会 第1回 小児救急研修会)
市川 光太郎
日本小児科医会会報 51 ; 83 – 86 : 2016

-
10. 基調講演；トリアージによる家庭看護力アップ「Ambulatory triage から Parent (Home) triage へ～危急疾患をトリアージで見抜こう～」(日本小児科医会 第1回 家庭看護力醸成セミナー)
市川 光太郎
日本小児科医会会報 51 ; 97 – 100 : 2016
 11. 小児救急疾患アトラス「多発骨折(児童虐待)」
市川 光太郎
Emergency Care 29 ; 660 – 664 : 2016
 12. 小児救急疾患アトラス「首つり」
市川 光太郎
Emergency Care 29 ; 868 – 871 : 2016
 13. 救命救急でみる子ども虐待、特集「事故・虐待」8 診療現場で見る子どもの虐待
市川 光太郎
小児科臨床 69 ; 1467 – 1472 : 2016
 14. 小児肘内障に対する超音波診断と「滑膜ひだ陥入」所見の有用性
苔口 知樹、神蘭 淳司、竹井 寛和、小林 加奈、増井 美苗、富田 一郎、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
日本小児救急医学会雑誌 15 ; 14 – 17 : 2016
 15. 川崎病に4回罹患後に *Yersinia pseudosis* 感染症を起こした1男児例
苔口 知樹、志村 起彰、神蘭 淳司、村上 珠菜、山根 浩昌、今村 徳夫、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
小児内科 48 ; 116 – 121 : 2016
 16. 細菌性髄膜炎に4回罹患した経篩骨型頭蓋底脳瘤の男児例
苔口 知樹、小林 加奈、村上 珠菜、増井 美苗、富田 一郎、金 奉吉、石橋 紳作、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
小児内科 48 ; 638 – 642 : 2016

学会・研究会

1. 当院における川崎病治療プロトコルの成績検討
長嶺 伸治、神蘭 淳司、富田 芳江、西野 裕、天本 正乃、市川 光太郎
第36回 日本川崎病学会
 2. 抗菌薬ロック療法が奏功した *Klebsiella oxytoca* によるカテーテル関連感染症
松石 登志哉、神蘭 淳司、村上 珠菜、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、福田 信也、岡島 祥憲、小野 佳代、小野 友輔、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第488回 日本小児科学会福岡地方会例会 2月13日 久留米市
 3. 2015年秋季に地域散発性に発生した *Yersinia enterocolitica* 腸炎の臨床像
松永 遼、沖 剛、小野 友輔、神蘭 淳司、増井 美苗、長嶺 伸治、岡島 祥憲、小野 佳代、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第488回 日本小児科学会福岡地方会例会 2月13日 久留米市
-

-
4. 経皮的動脈血酸素飽和度 SpO₂=95 - 96% は「非緊急」ではない
小林 優、福田 信也、神蘭 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、岡島 祥憲、小野 佳代、小野 友輔、
八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、
市川 光太郎
第 488 回 日本小児科学会福岡地方会例会 2月13日 久留米市
5. 非監察医制度地域における「子どもの不詳死」対応の課題～警察・法医学機関との多機関連携システム構築の展望～
沖 剛、神蘭 淳司、市川 光太郎
第 22 回 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会 3月4日 横浜市
6. ノロウイルス性胃腸炎入院管理中に発症した劇症型溶連菌性連鎖球菌感染症の乳児例
平田 衣乃、神蘭 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、福田 信也、岡島 祥憲、小野 友輔、八坂 龍広、
富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 489 回 日本小児科学会福岡地方会例会 4月9日 福岡市
7. 高血糖緊急症との鑑別を要したロタウイルス感染性胃腸炎の 2 例
青砥 悠哉、神蘭 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、福田 信也、岡島 祥憲、小野 友輔、八坂 龍広、
富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 489 回 日本小児科学会福岡地方会例会 4月9日 福岡市
8. 乳児大腿骨骨折の特徴と受傷機転の解析
森吉 研輔、福田 信也、神蘭 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、岡島 祥憲、小野 友輔、八坂 龍広、
富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 489 回 日本小児科学会福岡地方会例会 4月9日 福岡市
9. 体温補正心拍数を用いた小児の比較的徐脈 定義とその臨床的意義
青砥 悠哉、神蘭 淳司、福田 信也、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、岡島 祥憲、小野 佳代、小野 友輔、
八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、
市川 光太郎
第 119 回 日本小児科学会学術集会 5月14日 札幌市
10. 潜在性 EB ウイルス初感染状態に投与されたペニシリン系抗菌剤による薬疹
松石 登志哉、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 119 回 日本小児科学会 5月14日 札幌市
11. 発熱のない児童期頻脈の発生頻度とその要因分析
中野 慎也、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 119 回 日本小児科学会 5月15日 札幌市
12. 乳幼児鉄欠乏性貧血がバイタルサイン評価に及ぼす影響
平田 衣乃
第 119 回 日本小児科学会 5月15日 札幌市
13. 小児急性硬膜下血腫における他の頭蓋内病変合併と予後
村上 珠菜、神蘭 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 119 回 日本小児科学会 5月15日 札幌市
14. 小児尿路感染症における診断遅延症例の臨床像と治療反応性への影響
松永 遼、神蘭 淳司、富田 一郎、天本 正乃、市川 光太郎
第 119 回 日本小児科学会 5月15日 札幌市
-

-
15. 小児急性硬膜下血腫におけるほかの頭蓋内病変合併と予後
中野 珠菜
第 119 回 日本小児科学会 5月15日 札幌市
16. 救急現場で児童虐待を見逃さないために！～その特徴と診断から対応まで～
市川 光太郎
第 53 回 日本小児外科学会学術集会・第 6 回 小児救急セミナー 5月25日 福岡市
17. 虫垂炎症状を呈した川崎病 4 歳 7 か月女児例
小林 優、富田 芳江、神薊 淳司、小野 友哉、天本 正乃、市川 光太郎
第 6 回 九州川崎病研究会 5月28日 福岡市 福岡大学
18. 血栓性微小血管血管障害症（TMA）を合併した EVANS 症候群の 14 歳女児例
井上 忠、生塩 加奈、神薊 淳司
北九州 aHUS 研究会 6月2日 北九州市
19. 外傷後頸動脈解離による脳梗塞の 2 歳男児：既報告例の集積と考察
沖 剛、天本 正乃、岡島 祥憲、小野 友輔、小野 佳代、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、村上 知恵、
松島 卓哉、山根 浩昌、今村 徳夫、石橋 紳作、神薊 淳司、市川 光太郎
第 58 回 日本小児神経学会学術集会 6月3日 東京都
20. 教育講演 4：子どもの事故外傷の特徴～事故予防指導は小児科医がすべき！～
市川 光太郎
第 27 回 日本小児科医会総合フォーラム in 米子 6月12日 米子市
21. 初めて経験した IgA 血管炎の症例の検討
中村 亮太
第 45 回 八幡臨床懇話会 6月15日 北九州市
22. 待機的手術を行った虫垂異物の一例
木下 正和
第 45 回 八幡臨床懇話会 6月15日 北九州市
23. 眼周囲蜂窩織炎と眼窩蜂巣炎について
早野 駿佑
第 45 回 八幡臨床懇話会 6月15日 北九州市
24. マイコプラズマ感染症の診断と治療の課題
中野 珠菜
第 44 回 北九州感染症懇話会 6月16日 北九州市
25. 学童の経皮的動脈血酸素飽和度 SpO₂=95 - 96% は非緊急ではない
小林 優、福田 信也、神薊 淳司、沖 剛、増井 美苗、長嶺 伸治、天本 正乃、市川 光太郎
第 30 回 日本小児救急医学会 7月1日 仙台市
26. 非監察医制度地域における子どもの異状死に対する死因究明の実態と課題
沖 剛、神薊 淳司、青砥 悠哉、小林 優、森吉 研輔、増井 美苗、福田 信也、天本 正乃、市川 光太郎
第 30 回 日本小児救急医学会学術集会 7月1日 仙台市
27. 第 6 回 脳死判定セミナー「脳死下臓器提供と児童虐待」
市川 光太郎
第 30 回 日本小児救急医学会総会 7月2日 仙台市
-

-
28. ステロイド全身投与が与える小児徐脈の経時的変化分析とその意義
青砥 悠哉、神菌 淳司、沖 剛、長嶺 伸治、小野 友輔、八坂 龍広、富田 一郎、松島 卓哉、
山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 30 回 日本小児救急医学会学術集会 7月2日 仙台市
29. 子ども虐待対応における小児医療の原点は?～求められる対応基本を考えよう～
市川 光太郎
第 8 回 日本子ども虐待医学会学術集会特別講演 7月24日 福岡市
30. みんなで見抜こう、小児救急疾患!～多職種での初期対応スキルアップを目指して～
市川 光太郎
第 5 回 日本小児診療多職種研究会・教育講演 7月30日 横浜市
31. 急激な経過で脳死とされうる状態に至った劇症型抗リン脂質抗体症候群 (CAPS) の 15 歳女性
井上 忠、神菌 淳司
第 16 回 九州・沖縄小児医学研究会 8月6日 福岡市
32. 診断まで年単位の経過を要した潰瘍性大腸炎の 13 歳男児例
井上 忠
第 46 回 八幡臨床懇話会 9月14日 北九州市
33. 当院における侵襲性肺炎球菌感染症 (IPD : invasive pneumococcal disease/infection) の推移
富田 一郎
第 46 回 八幡臨床懇話会 9月14日 北九州市
34. 嘔吐・顔色不良を主訴として受診した脳室内出血の 1 か月男児
中嶋 大介
第 46 回 八幡臨床懇話会 9月14日 北九州市
35. 深夜 2 時 23 生日児の繰り返す嘔吐
青砥 悠哉、木下 正和、小野 友輔、神菌 淳司、市川 光太郎
3 病院合同カンファ 9月26日 北九州市
36. 有熱時けいれんで搬送された侵襲性肺炎球菌菌血症の 1 女児
青砥 悠哉、神菌 淳司、市川 光太郎
西部地区 CPCR セミナー 9月29日 北九州市
37. 頸部リンパ節炎・咽後膿瘍の治癒後に血球貪食症候群を合併した川崎病の 1 症例
青砥 悠哉、神菌 淳司、長嶺 伸治、富田 芳江、天本 正乃、市川 光太郎
第 36 回 日本川崎病学会・学術集会 9月30日 横浜市
38. 川崎病 147 例における血小板平均面積と血小板分布幅の解析検討
富田 芳江、神菌 淳司、長嶺 伸治、西野 裕、小林 優、天本 正乃、市川 光太郎
第 36 回 日本川崎病学会・学術集会 9月30日 横浜市
39. 当科における川崎病治療 protocol の検討
長嶺 伸治、富田 芳江、神菌 淳司、西野 裕、小林 優、天本 正乃、市川 光太郎
第 36 回 日本川崎病学会・学術集会 9月30日 横浜市
40. 小児肘関節超音波の有用性 (young investigators award 最優秀賞)
小野 友輔、市川 光太郎、神菌 淳二
超音波医学会九州地方会 10月2日 長崎市
-

-
41. インフルエンザワクチン接種後に発症した Hemiconvulsion - Hemiplegia syndrome の 12 歳女児
生塩 加奈、富田 一郎、神薗 淳司、村上 珠菜、中野 慎也、沖 剛、長嶺 伸治、小野 友輔、八坂 龍広、
富田 芳江、川口 真澄、高野 健一、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 491 回 日本小児科学会福岡地方会例会 10 月 8 日 福岡市
42. 新生児・乳児期胃軸捻転の腹部超音波所見とその有用性
木下 正和、小野 友輔、沖 剛、生塩 加奈、富田 一郎、神薗 淳司、村上 珠菜、中野 慎也、長嶺 伸治、
八坂 龍広、富田 芳江、川口 真澄、高野 健一、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、
市川 光太郎
第 491 回 日本小児科学会福岡地方会例会 10 月 8 日 福岡市
43. 呼吸不全に対する急変対応と小児早期警告スコアリングの効果と課題
矢田 裕太郎、神薗 淳司、村上 珠菜、中野 慎也、生塩 加奈、沖 剛、長嶺 伸治、小野 友輔、
八坂 龍広、富田 芳江、富田 一郎、川口 真澄、高野 健一、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、
天本 正乃、市川 光太郎
第 491 回 日本小児科学会福岡地方会例会 10 月 8 日 福岡市
44. 保育看護力醸成セミナー～保育者のための看護力スキルアップ～
市川 光太郎
第 22 回 日本保育保健学会・教育講演 4 10 月 16 日 盛岡市
45. 小児肘関節超音波検査の有用性
小野 友輔、市川 光太郎、神薗 淳二
小児超音波研究会 10 月 22 日 さいたま市
46. インフルエンザワクチン接種後に HHE 症候群と診断した 12 歳女児の 1 例
生塩 加奈、天本 正乃、市川 光太郎
第 21 回 日本神経感染症学会 10 月 22 日 金沢市
47. Pulse Saturation Oxygen of 95 - 96% affects the recognition of Abdominal vital in school aged children
Masaru kobayashi, Shinya Fukuda, Junji Kamizono, Kotaro Ichikawa
Asian Society for Pediatric Research 2016 11 月 10 日 Thailand Bangkok
48. 脳死とされうる症例－過去 7 年間－
井上 忠
第 15 回 小児救急医療カンファランス 11 月 11 日 北九州市
49. 高血糖を呈したロタウイルス性胃腸炎
青砥 悠哉、高野 健一、沖 剛、長嶺 伸治、小野 友輔、八坂 龍広、富田 一郎、富田 芳江、石橋 紳作、
今村 徳夫、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 48 回 日本小児感染症学会総会・学術集会 11 月 19 日 岡山市
50. 急性糸球体腎炎様の病態を呈した侵襲性肺炎球菌感染症の一例
生塩 加奈、野 健一、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第 48 回 日本小児感染症学会 11 月 19 日 岡山市
51. 子どもの異状死に対する死因究明と警察・法医学機関連携
沖 剛、神薗 淳司、木下 正和、早野 駿佑、天本 正乃、市川 光太郎
第 44 回 日本救急医学会 総会・学術集会 11 月 19 日 港区
-

-
52. 閉鎖式輸液回路アセスポートへのストロー穿刺により発症した血流感染の姉弟例
浅見 紀之、川口 真澄、神薊 淳司、沖 剛、生塩 加奈、富田 一郎、村上 珠菜、中野 慎也、長嶺 伸治、
小野 友輔、八坂 龍広、富田 芳江、高野 健一、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、
市川 光太郎
第 492 回 日本小児科学会福岡地方会例会 12 月 10 日 福岡市
53. 虐待診療から見た乳児頭蓋内出血に対する血液凝固検査の実態と課題
中嶋 大介、沖 剛、神薊 淳司、生塩 加奈、富田 一郎、村上 珠菜、中野 慎也、長嶺 伸治、小野 友輔、
八坂 龍広、富田 芳江、高野 健一、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第 492 回 日本小児科学会福岡地方会例会 12 月 10 日 福岡市
54. 小児肝内臓における単純 X 撮影症例の解析と過剰診療への取り組み
早野 駿佑、小野 友輔、高野 健一、神薊 淳司、沖 剛、生塩 加奈、富田 一郎、村上 珠菜、中野 慎也、
長嶺 伸治、八坂 龍広、富田 芳江、高野 健一、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、
市川 光太郎
第 492 回 日本小児科学会福岡地方会例会 12 月 10 日 福岡市
55. 急激な経過で脳死とされうる状態に至った劇症型抗リン脂質抗体症候群 (CAPS) の 15 歳女性
井上 忠、神薊 淳司
第 54 回 日本小児血液がん学会 12 月 15 日 東京都

座長・司会

1. 市川 光太郎
シンポジウム「突然死原因究明について」
第 22 回 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会 3 月 5 日 横浜市
2. 市川 光太郎
「さいたまの小児救急医療」
日本小児科学会小児救急市民公開フォーラム 3 月 19 日 さいたま市
3. 市川 光太郎
総合シンポジウムー 7「総合小児救急医療」の実践を目指して
第 119 回 日本小児科学会学術集会 5 月 14 日 札幌市
4. 小野 友輔
肺・血管エコー
小児超音波研究会 10 月 22 日 さいたま市

講演

1. 子どもの生命と児童虐待
市川 光太郎
西南女学院大学看護学部 3 年生特別講義 1 月 8 日 北九州市
2. 日常診療における児童虐待対応～その特徴と診断から対応まで～
市川 光太郎
大分県医師会・平成 27 年度 第 1 回 医療従事者向け虐待対応研修会 1 月 16 日 大分市

-
- | | | | |
|-----|--|----------|------|
| 3. | 小児突然死・SIDS・児童虐待
市川 光太郎
産業医科大学医学部 3 年講義 | 1 月 19 日 | 北九州市 |
| 4. | 救命士国家試験対策～小児救急～
市川 光太郎
公務員ビジネス専門学校特別講義 | 2 月 2 日 | 福岡市 |
| 5. | 小児科医のための即戦力エコー
小野 友輔
北九州地区小児科医会 | 2 月 18 日 | 北九州市 |
| 6. | 小児臨床超音波を駆使したチーム医療
小野 友輔
第 6 回 茨城県小児エコーゼミナール | 2 月 20 日 | 水戸市 |
| 7. | 小児救急のピットフォール症例
市川 光太郎
第 180 回 東三河小児科医会学術講演会特別講演 | 2 月 20 日 | 豊橋市 |
| 8. | 睡眠環境と乳幼児突然死
市川 光太郎
平成 27 年度 下関市医師会小児救急研修会 | 2 月 27 日 | 下関市 |
| 9. | 子どもの命と虐待
市川 光太郎
第 34 回 福岡県学童保育研究集会特別講演 | 2 月 28 日 | 春日市 |
| 10. | 日本小児救急医学会における虐待対応
市川 光太郎
平成 27 年度 第 2 次健やか親子 21 総会 | 3 月 16 日 | 東京都 |
| 11. | これから出会う小児超音波物語
小野 友輔
小児科研修医ブートキャンプ | 4 月 23 日 | 松戸市 |
| 12. | これから出会う小児超音波物語
小野 友輔
小児科研修医ブートキャンプ | 4 月 24 日 | 松戸市 |
| 13. | 移植医療における児童虐待対応の問題点
市川 光太郎
第 1 回 厚労省「心停止下臓器移植や小児の臓器提供を含む臓器提供の選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究」班会議 | 4 月 27 日 | 福岡市 |
| 14. | 川崎病は今
富田 芳江
川崎病の子を持つ親の会 | 5 月 25 日 | 中間市 |
| 15. | 小児臓器移植医療と児童虐待～成熟した小児脳死下臓器移植医療への一歩のために～
市川 光太郎
石川県立中央病院・院内虐待研修会 | 5 月 31 日 | 金沢市 |
-

-
- | | | | |
|-----|---|----------|------|
| 16. | 家庭看護力指導のために小児初期救急医学を見直そう!～トリアージで見抜く小児医療疾患～
市川 光太郎
平成 28 年度 石川県小児科医会春季例会特別講演 | 6 月 19 日 | 金沢市 |
| 17. | こども見守りテクニック 怪我、事故について
小野 友輔
前田市民センター市民公開講座 | 6 月 21 日 | 北九州市 |
| 18. | 子どものバイタル・ボイス～質の高い認識と救命の連鎖～
神薗 淳司
第 21 回 大阪小児救急医療フォーラム | 6 月 30 日 | 大阪市 |
| 19. | 心肺蘇生ガイドラインからみたチーム医療システムの展望と課題
神薗 淳司
第 10 回 長崎こどもの救急疾患研究会 | 7 月 8 日 | 長崎市 |
| 20. | 小児救急疾患と子ども虐待
市川 光太郎
久留米大学医学部看護学科 3 年生特別講演 | 7 月 12 日 | 久留米市 |
| 21. | こどもの突然死と児童虐待
市川 光太郎
久留米大学医学部 4 年生特別講義 | 7 月 12 日 | 久留米市 |
| 22. | 小児エコー、新たなチャレンジ
小野 友輔
小児救急ワークショップ in 北九州 | 7 月 17 日 | 北九州市 |
| 23. | 子どものバイタルボイスの評価
神薗 淳司
小児救急医療ワークショップ in 北九州 | 7 月 17 日 | 北九州市 |
| 24. | 北九州市立八幡病院における「児童虐待防止医療ネットワーク事業」の取り組みと課題
神薗 淳司
第 8 回 日本子ども虐待医学会 学術集会 | 7 月 23 日 | 福岡市 |
| 25. | 児童虐待と臓器移植について
市川 光太郎
平成 28 年度 JCR ファーマ講演会 | 8 月 25 日 | 北九州市 |
| 26. | 小児救急医学の立場から見た児童虐待の臨床～小児脳死下臓器移植医療における問題点～
市川 光太郎
第 11 回 東邦大学医療センター大森病院医療連携学術セミナー | 8 月 27 日 | 東京都 |
| 27. | 小児救急疾患・突然死・児童虐待
市川 光太郎
筑波大学医学部 3 年生講義 | 9 月 9 日 | つくば市 |
| 28. | 虐待による子ども健康被害
市川 光太郎
恩賜財団母子愛育会全国ブロック研修 3
福岡会場「母子保健活動における児童虐待予防研修会」 | 9 月 15 日 | 福岡市 |
-

-
29. こども見守りテクニック 風邪について
小野 友輔
前田市民センター市民公開講座 9月27日 北九州市
30. 麻疹・風疹・水痘・ムンプスと本年流行のマイコプラズマ感染症
天本 正乃
北九州市職員のための第3回感染症対策研修会 9月28日 北九州市
31. バイタルサインから迫る小児敗血症の診療
神蘭 淳司
北九州地区救命救急医療協議会・講演 9月29日 北九州市
32. 子どもの死因不明：あなたはどうか向き合うか？社会と医療の課題
神蘭 淳司
八幡西ロータリークラブ卓話講演 9月30日 北九州市
33. 小児救急疾患の特徴 & 児童虐待対応の課題
市川 光太郎
平成28年 消防大学救急科 第78期 小児救急講義 10月5日 三鷹市
34. 子どもの事故予防 2016
神蘭 淳司
北九州市戸畑区・中原市民センター乳幼児事故予防講演会 10月7日 北九州市
35. Up to Date 2016
神蘭 淳司
平成28年度 第1回 乳幼児検診登録医療機関研修会 10月13日 北九州市
36. 小児救急医療の実際～Wondering Pediatric Emergency～
市川 光太郎
平成28年度 北里大学医学部3年生講義 10月18日 相模原市
37. バイタルで見る危急疾患～バイタル評価を重視しよう！～
市川 光太郎
第2回 日本小児科医会小児救急研修会 10月30日 東京都
38. 子ども虐待医学と社会 Up to Date 2016
神蘭 淳司
宗像小児科医会・宗像園医会学術講演会 宗像市・福津市乳幼児健診手あげの講演会
10月31日 宗像市
39. クリニックでできるお役立ちエコー
小野 友輔
倉重こどもクリニック院内講習会 11月5日 北九州市
40. 小児臨床超音波 実践編
小野 友輔
北九州地区小児科医会 11月17日 北九州市
41. みんなで家庭看護力を高めよう～保護者にもできる初期対応（トリアージ）・判断！～
市川 光太郎、西山 和孝
第2回 日本小児科医会家庭看護力醸成セミナー 11月27日 神戸市
-

42. 今日から使える小児科医が行う臨床エコー

小野 友輔

福岡地区小児科医会（丹々会）

11 月 30 日 福岡市

著書

1. 子どものエコー検査実施における注意点とその評価
小野 友輔
小児看護 305 - 311 へるす出版 2016
2. 人工呼吸関連肺炎、砂川慶介・尾内一信編集
市川 光太郎
小児の肺炎改訂版 361 - 371 医療ジャーナル社 2016
3. 連載「小児救命救急センター 24 時」「ソ径ヘルニア嵌頓」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.267 203 - 203 風讀社 (株)ベネッセ 2016
4. 連載「小児救命救急センター 24 時」「RS ウイルス感染症」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.268 181 - 181 風讀社 (株)ベネッセ 2016
5. 連載「小児救命救急センター 24 時」「転落による骨折」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.269 187 - 187 風讀社 (株)ベネッセ 2016
6. 連載「小児救命救急センター 24 時」「川崎病」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.270 189 - 189 風讀社 (株)ベネッセ 2016
7. 連載「小児救命救急センター 24 時」「乳突洞炎」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.271 183 - 183 風讀社 (株)ベネッセ 2016
8. 連載「小児救命救急センター 24 時」「指の挫滅」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.272 183 - 183 風讀社 (株)ベネッセ 2016
9. 連載「小児救命救急センター 24 時」「頭部打撲」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.273 175 - 175 風讀社 (株)ベネッセ 2016
10. 連載「小児救命救急センター 24 時」「ネグレクト（育児放棄）」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.274 167 - 167 風讀社 (株)ベネッセ 2016
11. 連載「小児救命救急センター 24 時」「黄色ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.275 163 - 163 風讀社 (株)ベネッセ 2016
12. 連載「小児救命救急センター 24 時」「ミルクアナフィラキシー」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.276 187 - 187 風讀社 (株)ベネッセ 2016

-
13. 連載「小児救命救急センター 24 時」「特別編 実際にあった身近な怖い事故から学ぶ「赤ちゃんの守り方」」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.277 89 - 89 風讃社 (株)ベネッセ 2016
14. 連載「小児救命救急センター 24 時」「誤飲」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.278 195 - 195 風讃社 (株)ベネッセ 2016
15. SIDS/ALTE 編集;五十嵐 隆
市川 光太郎
小児科診療ガイドライン第 3 版 45 - 47 総合医学社 2016
16. 不機嫌-夜間救急 いつもと違う、編集;宮田 章子・富本 和彦
市川 光太郎
小児科外来の鑑別診断術～迷ったときの道しるべ～ 初版 112 - 117 中山書店 2016
17. 外因性疾患のトリアージ、どこに注意するのか?
増井 美苗、神蘭 淳司
小児外科 (0385 - 6313) 48 巻 2 号【小児救急セミナーシリーズ: 外因性疾患への初期対応】121 - 125
2016

その他

1. 市川 光太郎
- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| 1. 児童虐待症例 (AHT) 鑑定書作成 | 1月7日 大阪府東住吉警察署 |
| 2. 乳児虐待 (AHT～窒息) 鑑定書作成 | 1月12日 大阪府富田林警察署 |
| 3. 乳児傷害事件意見書作成依頼 | 2月3日 福岡市子ども総合相談センター |
| 4. 1歳男児 AHT 傷害罪鑑定書作成依頼 | 2月4日 鹿児島県志布志警察署 |
| 5. AHT 症例の裁判証人喚問打ち合わせ | 2月16日 熊本地方検察庁 |
| 6. AHT 症例 | 2月23日 熊本地方裁判所証人喚問・出廷 |
| 7. 傷害事件に対する意見 | 3月7日 大阪地方検察庁 |
| 8. 傷害事件鑑定 | 3月10日 福岡県警門司警察署 |
| 9. ベビーシッター傷害致死事件 | 3月17日 横浜地方検察庁 |
| 10. AHT 症例鑑定書作成依頼 | 3月22日 鹿児島県指宿警察署 |
| 11. ネグレクト (るいそう) 傷害事件 | 3月24日 小倉地方検察庁 |
| 12. AHT 診断根拠相談と傷害事件再鑑定 | 3月29日 福岡県警門司警察署 |
| 13. 傷害事件意見書作成および AHT 事例意見書作成 | 4月7日 福岡県門司警察署 |
| 14. ベビーシッター傷害致死事件 | 4月15日 横浜地方検察庁 |
| 15. AHT 症例鑑定書作成 | 5月10日 鹿児島県指宿警察署 |
| 16. AHT～SBS 鑑別供述書作成 | 5月10日 大阪府住之江警察署 |
| 17. AHT～SBS 症例鑑定書経過説明 | 5月17日 大阪地方検察庁 |
| 18. 保育所熱中症死・保護責任遺棄致死罪鑑定書・証人喚問打ち合わせ | 5月30日 宇都宮地方検察庁 |
| 19. 宇都宮地方裁判所・保育所熱中症乳児死亡事件 | 6月7日 証人喚問・出廷 |
| 20. ネグレクト症例の検証 | 6月10日 門司警察署 |
| 21. AHT (SBS) 鑑定書作成 | 6月17日 大阪府住之江警察署 |
| 22. ベビーシッター殺人事件の尋問検討 | 6月21日 横浜地検 |
-

23. 十二指腸穿孔死亡児例裁判調書検討	6月21日	福岡地検
24. 福岡地方裁判所・十二指腸穿孔死亡事件	7月5日	証人喚問・出廷
25. 横浜地方裁判所・ベビーシッター幼児殺人・乳児保護責任遺棄事件	7月6日	証人喚問・出廷
26. 急性喉頭蓋炎の診断治療に関する指導	8月2日	名古屋・あゆみ法律事務所
27. 幼児熱傷事件の診断に関する指導	8月23日	大阪府警堺警察署
28. 劇症型心筋炎死亡症例の臨床的意見	9月1日	大阪・佐古弁護士／森川弁護士
29. 福岡市乳児多発骨折 & 多発外傷痕診断意見	9月8日	福岡市子ども総合相談センター
30. 幼児熱傷事件鑑定書依頼	9月20日	大阪府警堺警察署
31. 幼児熱傷事件鑑定書作成	10月25日	大阪府警堺警察署
32. AHT 意見書作成相談 2件	11月4日	福岡市子ども未来局子ども総合相談センター

【厚生省研究班研究事業報告書】

平成 27 年度 厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）「乳幼児突然死症候群（SIDS）および乳幼突発性危急事態（ALTE）の病態解明等と死亡数減少のための研究」

分担研究：小児救急現場における SIDS（突然死）症例に対する理想的対応に関する調査研究

平成 27 年 分担研究報告書「全国乳児突然死症例 54 例の睡眠体位の現状調査」P14－P20 平成 28 年 4 月

平成 27 年度 厚生労働科学研究費補助金；地域医療基盤開発推進研究事業：「小児救急・集中治療提供体制構築およびアクセスに関する研究（H27－医療－一般－004）」総括・分担研究報告書、小児救急・集中治療提供体制構築およびアクセスに関する研究 P1－P12 平成 28 年 3 月

【厚生省関係研究事業】

1. 厚生省医薬食品局審査管理課・安全対策課：平成 24 年 安全対策課支出委任事業：突然死とワクチンとの関係についての調査研究会議・委員
 2. 厚生省雇用均等・児童家庭局星保健課：児童虐待防止ネットワーク事業に関する有識者会議・委員
 3. 平成 27 年度 厚生労働科学研究費補助金；地域医療基盤開発推進研究事業：「小児救急・集中治療提供体制構築およびアクセスに関する研究（H27－医療－一般－004）」主任研究者
 4. 厚生労働省科学研究費補助金；免疫アレルギー疾患等政策研究事業：「ソーシャル・マーケティング手法を用いた損停止下臓器提供や小児の臓器提供を含む臓器提供の選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究」分担研究者
 5. 厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植審議会委員
 6. 自由民主党本部政務調査会「虐待等に関する特命委員会」参考人
2. 小野 友輔
- 茨城県小児エコーゼミナールの講演前、ハンズオンセミナー 2月20日 水戸市
- 小児救急ワークショップ in 北九州 エコーハンズオンセミナー 7月17日 北九州市
3. 生塩 加奈
- PALS コース 4月16日、5月21日、5月28日、8月27日、11月12日 北九州市
-

外科・呼吸器外科

論文

1. 当院の外科、救急、集中治療領域における深在性真菌症症例の検討
上原 智仁、岡本 好司、山吉 隆友、榊原 優香、野々村 遼、沖本 隆司、野口 純也、新山 新、
澤田 貴裕、木戸川 秀生、田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦
日本外科感染症学会雑誌 13 (1) ; 35 – 39 : 2016
2. 腹部外傷による管腔臓器損傷に対する腹腔鏡手術の検討
木戸川 秀生、山吉 隆友、榊原 優香、野々村 遼、上原 智仁、新山 新、野口 純也、岡本 好司、
伊藤 重彦
日本腹部救急医学会雑誌 36 (1) ; 37 – 43 : 2016
3. 抗結核薬による溶血性貧血を背景とする肺結核腫が再燃した 1 例
野々村 遼、澤田 貴裕、岸本 晃司
日本胸部臨床 75 (12) ; 1372 – 1376 : 2016
4. 血友病患者に対する止血治療ガイドライン：2015 年補遺版
藤井 輝久、天野 景裕、渥美 達也、石黒 精、大平 勝美、岡本 好司、勝沼 俊雄、嶋 緑倫、高橋 芳右、
松下 正、松本 剛史、森下 英理子
血栓止血誌 27 ; 107 – 114 : 2016
5. Recent Change in Treatment of Disseminated Intravascular Coagulation in Japan : An Epidemiological Study Based on a National Administrative Database.
Murata A, Okamoto K, Mayumi T, Muramatsu K, Matsuda S.
Clin Appl Thromb Hemost. 22 (1) ; 21 – 27 : 2016
6. Sepsis and disseminated intravascular coagulation.
Okamoto K, Tamura T, Sawatsubashi Y
J Intensive Care 4 ; 23 : 2016
7. Time Trend of Outcomes for Severe Acute Pancreatitis After Publication of Japanese Guidelines Based on a National Administrative Database.
Murata A, Mayumi T, Okamoto K, Ohtani M, Matsuda S
Pancreas 45 (4) ; 516 – 521 : 2016
8. Portal Vein Embolization Followed by Right - Side Hemihepatectomy for Hepatocellular Carcinoma Patients : A Japanese Multi - Institutional Study.
Beppu T, Okabe H, Okuda K, Eguchi S, Kitahara K, Taniai N, Ueno S, Shirabe K, Ohta M, Kondo K, Nanashima A, Noritomi T, Okamoto K, Kikuchi K, Baba H, Fujioka H.
J Am Coll Surg 222 (6) ; 1138 – 1148 : 2016
9. Proposal for new diagnostic criteria for DIC from the Japanese Society on Thrombosis and Hemostasis.
Asakura H, Takahashi H, Uchiyama T, Eguchi Y, Okamoto K, Kawasaki K, Madoiwa S, Wada H ; DIC subcommittee of the Japanese Society on Thrombosis and Hemostasis.
Thromb J 14 ; 42 : 2016

-
10. An Evaluation of the Modified Diagnostic Criteria for DIC established by the Japanese Society of Thrombosis and Hemostasis.
Aota T, Wada H, Yamashita Y, Matsumoto T, Ohishi K, Suzuki K, Imai H, Usui M, Isaji S, Asakura H, Okamoto K, Katayama N.
Clin Appl Thromb Hemost. pii : 1076029616654263 : 2016
 11. DPC データから見た DIC 治療薬
岡本 好司
Thrombosis Medicine 6 (4) : 68 – 73 : 2016
 12. 『急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン 2013』における感染管理
岡本 好司、野口 純也、上原 智仁、山吉 隆友、野々村 遼、丸山 圭三郎、新山 新、木戸川 秀生、田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦
消化器外科 39 (12) : 1789 – 1797 : 2016
 13. 外科救急領域での治療戦略 予防的抗凝固療法で DIC 離脱率が向上
岡本 好司
Medical Tribune 49 (38) : 16 – 17 : 2016
 14. 肝細胞癌術後の C 型慢性肝炎 SVR 獲得後にきたした、異時性リンパ節転移に対してリンパ節摘出術を施行し得た長期無再発生存例の 1 例
上原 智仁、岡本 好司、榊原 優香、野々村 遼、沖本 隆司、田口 健蔵、新山 新、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、澤田 貴裕、木戸川 秀生、伊藤 重彦
臨床と研究 93 (5) : 753 – 754 : 2016
 15. 一般病棟における除菌剤を用いた環境表面清拭回数と付着菌数の減少効果に関する研究
伊藤 重彦、中川 祐子、南 博子、橋本 治、堀江 恭子、樋渡 美紀、諸永 幸子、元石 和世、谷口 初美、松本 哲朗
環境感染誌 31 : 165 – 172 : 2016
 16. 災害医療に必要な非日常性 (上)
郡山 一明、伊藤 重彦、加藤 尊秋
リスク対策 .com 53 : 82 – 84 : 2016
 17. 災害医療に必要な非日常性 (下)
加藤 尊秋、郡山 一明、伊藤 重彦
リスク対策 .com 54 : 82 – 84 : 2016
 18. 北九州市における高齢者救急の現状と問題点～とくに介護施設からの搬送治案について
伊藤 重彦、田口 健蔵、井上 征雄、岩永 充人、木戸川 秀生、岡本 好司、白石 盛雄、安田 英信、谷延 正夫
日本臨床救急医学会雑誌 19 : 7 – 12 : 2016
 19. 精神科救急が抱える課題解決に向けた福岡県、北九州市の取組
伊藤 重彦
プレホスピタルケア 29 : 12 – 23 : 2016
-

学会研究会

1. 大腸憩室出血症例の検討
山吉 隆友、岡本 好司、榊原 優香、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、新山 新、井上 征雄、
木戸川 秀生、伊藤 重彦
第 52 回 日本腹部救急医学会総会 3月3日 東京都
 2. 盲腸軸捻転による絞扼性腸閉塞の1例
榊原 優香、上原 智仁、野々村 遼、新山 新、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、澤田 貴裕、
木戸川 秀生、岡本 好司、伊藤 重彦
第 52 回 日本腹部救急医学会総会 3月3日 東京都
 3. 腹部救急領域における DIC の病態・診断について
岡本 好司
第 52 回 日本腹部救急医学会総会 シンポジウム 2 3月3日 東京都
 4. 閉塞性大腸癌に対するステント留置術の検討
野々村 遼、榊原 優香、沖本 隆司、上原 智仁、田口 健蔵、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄、
澤田 貴裕、木戸川 秀生、岡本 好司、伊藤 重彦
第 52 回 日本腹部救急医学会総会 3月4日 東京都
 5. 腹部救急領域の注意を要する感染症
岡本 好司
第 52 回 日本腹部救急医学会総会 ランチョンセミナー 3月4日 東京都
 6. 肝細胞癌と難治性腹水のコントロールに難渋した一例
野口 純也、岡本 好司、榊原 優香、野々村 遼、上原 智仁、新山 新、山吉 隆友、木戸川 秀生、
伊藤 重彦
北九州肝癌治療研究会 3月26日 北九州市
 7. 肝細胞癌に対する TACE 後の合併症について～胆管障害を中心に
野口 純也、岡本 好司、新田 拳助、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、新山 新、山吉 隆友、
井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
肝疾患合併症を考える研究会 4月11日 北九州市
 8. 当科における急性胆嚢炎に対する手術の検討
上原 智仁、岡本 好司、丸山 圭三郎、新田 拳助、野々村 遼、田口 健蔵、新山 新、野口 純也、
山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第 116 回 日本外科学会定期学術集会 4月14日 大阪市
 9. 創傷治癒と出血における血液凝固第 XIII/13 因子
岡本 好司
血液凝固第 13 因子フォーラム 5月7日 大阪市
 10. 捻転を機に診断された低悪性度虫垂粘液性腫瘍の1例
野々村 遼、榊原 優香、沖本 隆司、上原 智仁、田口 健蔵、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、
井上 征雄、澤田 貴裕、木戸川 秀生、岡本 好司、伊藤 重彦
第 53 回 九州外科学会 5月13日 佐世保市
-

-
11. クローン病を合併した腸回転異常症の14才男児例
新山 新、岡本 好司、榊原 優香、野々村 遼、沖本 隆司、上原 智仁、田口 健蔵、野口 純也、
山吉 隆友、井上 征雄、澤田 貴裕、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第53回 九州小児外科学会 5月14日 佐世保市
12. 当院における成人腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術-メッシュとタッカー選択の変遷-
木戸川 秀生、新田 拳助、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、
井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第12回 北九州内視鏡手術手技研究会 5月20日 北九州市
13. 外傷性腸間膜損傷症例の検討
山吉 隆友、岡本 好司、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、新山 新、井上 征雄、
木戸川 秀生、伊藤 重彦
第30回 日本外傷学会総会 5月30日 東京都
14. 上部消化管バリウム検査後に直腸穿孔をきたした1例
丸山 圭三郎、岡本 好司、野口 純也、野々村 遼、上原 智仁、田口 健蔵、新山 新、山吉 隆友、
井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第20回 救急医学会九州地方会 6月4日 鹿児島市
15. Close in on the truth of the trauma - induced coagulopathy! - Background -
岡本 好司
16. 第38回 日本血栓止血学会学術集会 SPC シンポジウム 6月16日 奈良市
17. 外科・救急領域でのDICに対するAT治療を再考する
岡本 好司、田村 利尚、沢津橋 佑典
18. 第38回 日本血栓止血学会学術集会 JSTH / 日本救急医学会ジョイントシンポジウム 6月17日 奈良市
19. 実臨床・医療現場における各業種からのニーズ
岡本 好司
九州工業大学 第7回 社会ロボット具現化ワークショップ 6月21日 北九州市
20. 大量腹水貯留とイレウスで発症した抗リン脂質抗体症候群による門脈・上腸間膜静脈血栓の1例
丸山 圭三郎、岡本 好司、野口 純也、野々村 遼、上原 智仁、田口 健蔵、新山 新、山吉 隆友、
井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第107回 日本消化器病学会九州支部例会 6月24日 佐賀市
21. 開腹歴のない腸閉塞に対する腹腔鏡手術は有用である
木戸川 秀生、野々村 遼、榊原 優香、沖本 隆司、上原 智仁、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、
岡本 好司、伊藤 重彦
第71回 日本消化器外科学会総会 7月14日 徳島市
22. 下部消化管穿孔に対するDIC発症および進行を考慮に入れた治療法の取り組み
山吉 隆友、岡本 好司、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、新山 新、井上 征雄、
木戸川 秀生、伊藤 重彦
第71回 日本消化器外科学会総会 7月14日 徳島市
23. 門脈血栓症と腹水
丸山 圭三郎、岡本 好司、野口 純也、野々村 遼、上原 智仁、田口 健蔵、新山 新、山吉 隆友、
井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
肝疾患合併症を考える研究会 9月5日 北九州市
-

-
24. 回腸異所性憩による小腸腸重積の1例
満吉 将大、新山 新、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、
木戸川 秀生、岡本 好司、伊藤 重彦
第119回 北九州外科研究会 9月9日 北九州市
25. 異時性両側性閉鎖孔ヘルニア嵌頓の1例
山吉 隆友、岡本 好司、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、新山 新、井上 征雄、
木戸川 秀生、伊藤 重彦
第8回 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 9月23日 大阪市
26. 肝・胆道外科と合併症コントロール
岡本 好司
第181回 北九州肝胆膵研究会 ショートレクチャー 10月26日 北九州市
27. 抗血栓薬内服患者の急性胆嚢炎に対する手術時期の検討
上原 智仁、岡本 好司、丸山 圭三郎、新田 拳助、野々村 遼、田口 健蔵、新山 新、野口 純也、
山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第78回 日本臨床外科学会総会 11月25日 東京都
28. 当院における難治性腹水に対する腹腔静脈シャント術施行症例の検討
野口 純也、岡本 好司、新田 拳助、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、新山 新、山吉 隆友、
井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第78回 日本臨床外科学会総会 11月25日 東京都
29. 結腸切除パスにおける術前機械的腸管洗浄の見直し
木戸川 秀生、満吉 将大、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、
岡本 好司、伊藤 重彦
第17回 日本クリニカルパス学会学術集会 11月26日 金沢市
30. 小腸瘻を伴った尿膜管遺残膿瘍の1例
山吉 隆友、岡本 好司、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、新山 新、井上 征雄、
伊藤 重彦
第29回 日本外科感染症学会総会学術集会 11月30日 東京都
31. 感染症と血液凝固異常
岡本 好司
第29回 日本外科感染症学会総会学術集会 入門講座 11月30日 東京都
32. TG13bundle 設定による当院での急性胆嚢炎診療の改善
上原 智仁、岡本 好司、丸山 圭三郎、新田 拳助、野々村 遼、田口 健蔵、新山 新、野口 純也、
山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第29回 日本外科感染症学会総会 12月1日 東京都
33. 外科感染症とDIC
岡本 好司
第29回 日本外科感染症学会総会学術集会 ランチョンセミナー 12月1日 東京都
34. 腸閉塞に対する腹腔鏡下手術の適応と限界
木戸川 秀生、新田 拳助、丸山 圭三郎、野々村 遼、上原 智仁、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、
井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第29回 日本内視鏡外科学会総会 12月9日 横浜市
-

座長・司会

1. 岡本 好司
イブニングセミナー 1
第 10 回 日本血栓止血学会標準化委員会シンポジウム 2016 2月20日 東京都
 2. 伊藤 重彦
一般演題ポスター周術期管理 SSI
第 31 回 日本環境感染学会総会 2月20日 京都市
 3. 伊藤 重彦
第 8 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー 2月23日 北九州市
 4. 岡本 好司
ミニレクチャー 3
第 52 回 日本腹部救急医学会総会 3月4日 東京都
 5. 岡本 好司
第 3 回 肝疾患合併症を考える研究会 4月11日 北九州市
 6. 伊藤 重彦
第 8 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー 5月30日 北九州市
 7. 伊藤 重彦
特別公演：病院前救急医療体制における消防庁の取組救急医療における八幡医師会と関係機関の連携に係る研究会 6月9日 北九州市
 8. 岡本 好司
学術推進委員会（SPC）シンポジウム 2
第 38 回 日本血栓止血学会学術集会 6月16日 奈良市
 9. 岡本 好司
一般演題 16
第 38 回 日本血栓止血学会学術集会 6月18日 奈良市
 10. 岡本 好司
特別講演
第 4 回 九州血液凝固検査研究会 8月20日 福岡市
 11. 岡本 好司
特別講演
第 1 回 創傷治癒・出血疾患セミナー 8月26日 北九州市
 12. 伊藤 重彦
第 18 回 北九州内視鏡外科セミナー 9月2日 北九州市
 13. 伊藤 重彦
特別講演 II：第 15 回 北部福岡臨床救急セミナー 9月6日 北九州市
 14. 岡本 好司
平成 28 年度 ソフトアップ委員会 9月研修会 9月12日 北九州市
 15. 伊藤 重彦
第 10 回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー 9月20日 北九州市
-

-
- | | | |
|--|--------|------|
| 16. 木戸川 秀生 | | |
| 特別講演 | | |
| 八幡臨床外科医会 9月例会 | 9月21日 | 北九州市 |
| 17. 岡本 好司 | | |
| ビデオセッション ACSにおける内視鏡外科 | | |
| 第8回 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 | 9月24日 | 大阪市 |
| 18. 伊藤 重彦 | | |
| 第2回 北部福岡感染症研究会 | 9月28日 | 北九州市 |
| 19. 伊藤 重彦 | | |
| 特別講演：北九州肺縦隔疾患研究会 | 10月14日 | 北九州市 |
| 20. 丸山 圭三郎、小泉雅典 | | |
| Acute Care Surgery 1 | | |
| 第44回 日本救急医学会 | 11月17日 | 東京都 |
| 21. 野々村 遼 | | |
| ポスター ER (循環・感染) | | |
| 第44回 日本救急医学会総会 | 11月18日 | 東京都 |
| 22. 木戸川 秀生 | | |
| 一般口演 | | |
| 第13回 北九州内視鏡手術手技研究会 | 11月29日 | 北九州市 |
| 23. 伊藤 重彦 | | |
| ポスター 5 | | |
| 第29回 日本外科感染症学会総会 | 11月30日 | 東京都 |
| 24. 岡本 好司 | | |
| シンポジウム 7：急性胆嚢炎、胆管炎の治療は大きく変わったのか？ TG13を踏まえて | | |
| 第29回 日本外科感染症学会総会学術集会 | 12月1日 | 東京都 |

講演

- | | | |
|-----------------------|-------|-------|
| 1. 健康は足から～あなたの足は大丈夫～ | | |
| 岡本 好司 | | |
| 生き生き牧山健康広場 | 1月8日 | 北九州市 |
| 2. 消化器外科領域の注意を要する感染症 | | |
| 岡本 好司 | | |
| 外科感染症セミナー高知 | 1月22日 | 高知市 |
| 3. 敗血症性 DIC の病態・診断・治療 | | |
| 岡本 好司 | | |
| 第4回 埼玉東部敗血症治療セミナー | 2月5日 | さいたま市 |
| 4. 消化器外科領域の注意を要する感染症 | | |
| 岡本 好司 | | |
| 石川県外科感染症治療研究会 | 2月22日 | 金沢市 |
| 5. 行政機関における感染対策について | | |
| 伊藤 重彦 | 2月23日 | 北九州市 |
-

-
- | | | | |
|-----|--|-------|------|
| 6. | インフルエンザアウトブレイクへの対応
伊藤 重彦
第8回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー | 2月23日 | 北九州市 |
| 7. | トリアージ基本編
伊藤 重彦
福岡県医師会災害時医療救護訓練研修会 | 3月6日 | 福岡市 |
| 8. | 外科領域における DIC の病態・診断・治療
岡本 好司
Tokyo Sepsis Forum | 3月11日 | 東京都 |
| 9. | 地域 MC 体制の充実強化に係る取組
伊藤 重彦
山口県救急 MC フォーラム 2016 | 3月11日 | 山口市 |
| 10. | 最新の感染症情報～新興感染症を中心に
伊藤 重彦
平成 28 年度 医療安全対策研修会 | 3月12日 | 宗像市 |
| 11. | JMAT 活動の考え方～東日本大震災の経験から
伊藤 重彦
北九州市医師会災害医療研修会 | 3月19日 | 北九州市 |
| 12. | 健康は足から～あなたの足は大丈夫～
岡本 好司
ひだまりクラブ 前田 | 3月25日 | 北九州市 |
| 13. | 熊本地震及び G7 エネルギー大臣会合への医療救護対応
伊藤 重彦
第9回 プレホスピタルインホスピタルセミナー | 5月17日 | 北九州市 |
| 14. | 災害時の感染対策
伊藤 重彦
九州労災病院感染対策研修会 | 6月15日 | 北九州市 |
| 15. | 敗血症性 DIC の病態・診断・治療
岡本 好司
沖縄敗血症フォーラム 2016 | 7月1日 | 南風原町 |
| 16. | インフルエンザ対策
伊藤 重彦
平成 28 年度 感染症対策研修会プログラム | 7月2日 | 北九州市 |
| 17. | 精神科救急とメディカルコントロール体制
伊藤 重彦
下関保健所研修会 | 7月7日 | 下関市 |
| 18. | 乗り物ろ感染対策
伊藤 重彦
青洲会病院内感染対策研修会 | 7月20日 | 粕屋郡 |
-

-
- | | | |
|---|--------|------|
| 19. 健康は足から～あなたの足は大丈夫～
岡本 好司
長行緑光苑町内会 年長者サロン | 7月21日 | 北九州市 |
| 20. 食中毒について-事例紹介と感染予防対策
青洲会病院内感染対策研修会
エンゼル病院感染対策研修会 | 7月25日 | 北九州市 |
| 21. 外科領域の敗血症性 DIC に対する最新の治療戦略
岡本 好司
大阪外科敗血症セミナー | 7月28日 | 大阪市 |
| 22. 外科医が診て来た DIC 今昔物語
岡本 好司
第10回 北海道 DIC 学術講演会 | 8月6日 | 札幌市 |
| 23. 血栓治療の最新の話
岡本 好司
第1回 若松区内科医会学術講演会 | 8月23日 | 北九州市 |
| 24. 避難所等被災地における感染対策
伊藤 重彦
平成28年度 第2回 市職員のための感染対策研修会 | 8月26日 | 北九州市 |
| 25. 健康は足から～あなたの足は大丈夫～
岡本 好司
尾倉市民センター さらくらクラブ | 9月16日 | 北九州市 |
| 26. 手袋・エプロン・マスクのバリア性ってなに？
伊藤 重彦
第10回 メディカルスタッフのための感染対策研修会 | 9月20日 | 北九州市 |
| 27. 外科領域の DIC ～病態・診断・治療～
岡本 好司
第2回 敗血症性 DIC セミナー | 10月1日 | 札幌市 |
| 28. メディカルコントロールとオンライン MC
伊藤 重彦
平成28年度 病院前医療体制における指導医等研修 厚生労働省 | 10月13日 | 福岡市 |
| 29. 早期発見・早期治療
岡本 好司
熊西 健康づくり講座 | 10月14日 | 北九州市 |
| 30. 耐性菌と感染対策
伊藤 重彦
青洲会病院感染対策研修会 | 10月16日 | 粕屋郡 |
| 31. 外科救急領域での DIC に対する診断と治療
岡本 好司
函館 CP オープンセミナー | 11月2日 | 函館市 |
-

-
- | | |
|---|-------------|
| 32. 精神科救急を取り巻く体制について
伊藤 重彦
厚生労働省 メディカルコントロール体制の整備に関わる医師の研修会 | 11月25日 東京都 |
| 33. 健康は足から～あなたの足は大丈夫～
岡本 好司
北九州市消費者学級五月会 | 12月15日 北九州市 |
| 34. 消化器外科領域で注意する感染症
岡本 好司
八幡臨床外科医会 12月例会 | 12月21日 北九州市 |
| 35. 医療救護計画の仕組みおよび災害対応における情報伝達の重要性
伊藤 重彦
平成 28 年度 災害支援ナースフォローアップ研修 | 12月22日 福岡市 |

その他

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. 岡本 好司
播種性血管内凝固症候群診療ガイドライン 作成委員長 | |
| 2. 岡本 好司
前立腺癌診療ガイドライン 2016 外部評価 | |
| 3. 岡本 好司
第 29 回 日本外科感染症学会総会学術集会プログラム委員 | 東京都 |
| 4. 岡本 好司
第 54 回 日本癌治療学会学術集会査読委員 | 横浜市 |
| 5. 岡本 好司
第 8 回 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会査読委員 | 大阪市 |
| 6. 岡本 好司
北九州市八幡医師会 監事 | |
| 7. 岡本 好司
第 30 回 日本外科感染症学会総会学術集会プログラム委員 | 東京都 |
| 8. 岡本 好司
第 72 回 日本消化器外科学会総会 査読委員 | 金沢市 |
| 9. 伊藤 重彦
九州歯科大学 講義 災害医療について | 1月19日、12月20日 北九州市 |
| 10. 伊藤 重彦
学校における熱中症対策研修会
高生中学校 (7月4日)、向洋中学校 (7月14日)、松ヶ枝中学校 (7月4日)、
枝光台中学校 (7月11日)、槻田中学校 (9月2日) | 北九州市 |
| 11. 伊藤 重彦
「感染対策」
「急性腹症」
救命救急研修所 | 11月28日
12月7日
北九州市 |
-

-
12. 伊藤 重彦
報道取材・掲載記事
・インフルエンザの感染予防と対策 NHK 2月12日放送
・メディカルコントロール体制の充実強化 山口新聞 3月12日 朝刊
・熱中症対策 NHK 7月5日放送
・市立八幡病院けやきプロジェクト紹介記事 毎日新聞 10月14日 朝刊
・DMOC 災害訓練 毎日新聞 12月8日 朝刊
・「旬感北九州～新しい災害対応システム DMOC」 RKB 毎日放送 12月28日放送
 13. 伊藤 重彦
東日本大震災時とその後
北九州市八幡医師会百年史
 14. 伊藤 重彦
医療倫理について 福岡県消防学校処置拡大講習(2回) 3月2日、3月10日 3月2日 福津市
 15. 岡本 好司
産業医科大学医学部外科学各論講義 4月27日 北九州市
 16. 岡本 好司
産業医科大学医学部外科学各論講義 5月18日 北九州市
 17. 伊藤 重彦
外科感染症 産業医科大学 臨床微生物学講義 6月23日 北九州市
 18. 木戸川 秀生
熊本 JATEC コース 講師 7月2日 熊本市
 19. 岡本 好司
佐賀大学医学部救急医学講義 9月29日 佐賀市
 20. 伊藤 重彦
おとなの救急
市立八幡病院 健康サポート事業 けやきテラスプロジェクト 10月7日 北九州市
 21. 岡本 好司
九州国際大学付属中学校 訪問学習 インストラクター 10月26日 北九州市

整形外科

学会・研究会

1. 肩関節における Terrible Triad の1例
古子 剛、
第131回 西日本整形・災害外科学会 6月5日 北九州市
 2. 下腿骨折術後感染
小杉 健二、古子 剛、池井 大輔、辻 正二
第23回 北九州整形外傷研究会 6月15日 北九州市
 3. 内側開大式高位脛骨骨切り術後出血の検討－TomoFix と Tris の比較－
池井 大輔、
第8回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 7月28日 福岡市
-

-
4. 徒手整復不能であった Jeffery 型骨折の 1 例

濱田 大志、古子 剛、池井 大輔、辻 正二

第 24 回 北九州整形外傷研究会

11 月 30 日 北九州市

脳神経外科

学会・研究会

1. 超高齢化社会を迎えた長崎県離島地域における脳卒中医療

本土基幹施設を介した急性期診療の現状と課題

福田 雄高、日宇 健、小野 智憲、牛島 隆二郎、戸田 啓介、堤 圭介

第 41 回 日本脳卒中学会総会

4 月 14 日 札幌市

2. 出血発症の肝細胞癌の脳転移の 1 例

福田 修志、福田 雄高、岩永 充人、越智 章

日本脳神経外科学会 第 75 回 学術総会

9 月 29 日 福岡市

3. 黄色粘土状の器質化した巨大慢性硬膜下血腫の 1 例

福田 雄高、福田 修志、越智 章

第 124 回 日本脳神経外科学会九州支部会

10 月 22 日 大分市

講演

1. こんな時は要注意!あなたの脳を守りましょう 脳卒中の予防と早期発見

福田 雄高

市民向け公開講座

11 月 26 日 北九州市

形成外科

学会研究会

1. 当科における片側口唇裂形成手術の改良の変遷

田崎 幸博、今村 禎伸、諸岡 真

第 100 回 九州沖縄形成外科学会

3 月 18 日 太宰府市

2. 当科における巨口症の口角形成術についての検討

田崎 幸博、諸岡 真、信國 里沙

第 101 回 九州沖縄形成外科学会

7 月 9 日 福岡市

3. サブユニットに則った筋層再建を行う片側口唇裂形成術 不完全裂での成績

田崎 幸博、諸岡 真、信國 里沙

第 34 回 日本頭蓋顎顔面外科学会

11 月 8 日 東京都

4. Two - layer separation and fixation of the muscle subunit in unilateral cleft lip philtrum repair

Yukihiro Tasaki, Shin Morooka, Risa Nobukuni

51st Annual Conference of Association of Plastic Surgeons of India

11 月 25 日 New Delhi

座長・司会

1. 田崎 幸博
一般演題
第 101 回 九州沖縄形成外科学会 7月9日 福岡市
2. 田崎 幸博
症例検討
第 102 回 長崎形成外科懇話会 10月29日 松山市

講演

1. 形成外科の仕事
大慈弥 裕之、安田 浩、田崎 幸博 他
患者塾 2月27日 水巻町
2. 糖尿病性足潰瘍の治療と管理
田崎 幸博
第 22 回 八幡 PAD 懇話会 6月8日 北九州市
3. あなたを支える足をいたわる 足の皮膚と爪のケア
田崎 幸博
出前講演 9月15日 北九州市

著書

1. 質疑応答プロからプロへ 非対称な裂型を持つ両側唇裂症例への口唇形成術
今井 啓道、田崎 幸博
週刊日本医事新報 No.4817 62 - 62 日本医事新報社 2016
2. 質疑応答プロからプロへ 難治性潰瘍の通院治療-医療機関での治療と自宅での管理の連携
田崎 幸博、寺師 浩人
週刊日本医事新報 No.4821 65 - 65 日本医事新報社 2016

放射線科

講演

1. 大動脈瘤・大動脈解離の CT 診断
今福 義博
第 2 回 八幡内科医会シリーズ勉強会（画像診断） 3月14日 北九州市

麻酔科

その他

1. 金色 正広
AHA - PALS プロバイダーコース 開催 11月12日、13日 北九州市
 2. 金色 正広
AHA - ACLS プロバイダーコース 講師 12月17日、18日 福岡市
-

-
- | | | | |
|----|------------------------|-----------|------|
| 3. | 金色 正広 | | |
| | AHA－PALS プロバイダーコース 開催 | 3月12日、13日 | 北九州市 |
| 4. | 金色 正広 | | |
| | AHA－PEARS プロバイダーコース 開催 | 3月12日 | 北九州市 |
| 5. | 金色 正広 | | |
| | 芦屋町立芦屋小学校エピベン講習会 講師 | 4月14日 | 芦屋町 |
| 6. | 金色 正広 | | |
| | 芦屋町立山鹿小学校エピベン講習会 講師 | 7月25日 | 芦屋町 |
| 7. | 金色 正広 | | |
| | AHA－PEARS プロバイダーコース 開催 | 11月12日 | 北九州市 |
| 8. | 金色 正広 | | |
| | 福岡県医師会 ACLS 講習会 講師 | 12月11日 | 福岡市 |

救急科

学会研究会

- | | | | |
|----|---|--------|------|
| 1. | 地域における DMAT 研修はいかにあるべきか? (第2報) | | |
| | 田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦 | | |
| | 第21回 日本集団災害医学会総会・学術集会 | 2月29日 | 山形市 |
| 2. | 新たな評価表を用いた北九州市消防局常設型ワークステーションにおける医師同乗指導 | | |
| | 井上 征雄、田口 健蔵、伊藤 重彦、松島 卓哉、岩永 充人 | | |
| | 第19回 日本臨床救急医学会総会 | 5月12日 | 郡山市 |
| 3. | 北九州市消防局常設型救急ワークステーションにおける救急隊への教育の取り組み | | |
| | 井上 征雄、田口 健蔵、伊藤 重彦、岩永 充人、木戸川 秀生 | | |
| | 第20回 日本救急医学会九州地方会 | 6月3日 | 鹿児島市 |
| 4. | 北九州地域の現状と課題 | | |
| | 田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦 | | |
| | 福岡救急医学会 シンポジウム | 9月10日 | 福岡市 |
| 5. | 多組織協働型の病院避難－活動のポイント－ | | |
| | 田口 健蔵、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦 | | |
| | 第44回 日本救急医学会総会・学術集会 | 11月16日 | 東京都 |
| 6. | 当院におけるドクターカーの運用方式 | | |
| | 井上 征雄、田口 健蔵、伊藤 重彦 | | |
| | 第11回 日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 | 12月8日 | 岡山市 |

座長・司会

- | | | | |
|----|----------------|------|-----|
| 1. | 伊藤 重彦 | | |
| | 一般演題虐待・外傷1 | | |
| | 第30回 日本小児救急医学会 | 7月1日 | 仙台市 |
-

-
- | | | | |
|----|------------------------------------|--------|------|
| 2. | 田口 健蔵
症例検討
北九州 CPR セミナー | 9月29日 | 北九州市 |
| 3. | 伊藤 重彦
災害医療シンポジウム
救命救急センター研修会 | 10月15日 | 北九州市 |

講演

- | | | | |
|----|--|--------|------|
| 1. | 救急救命処置について
井上 征雄
MC 指導医師研修会 | 2月23日 | 東京都 |
| 2. | 酸素欠乏症の病理と症状
井上 征雄
衛生技能講義 | 6月12日 | 北九州市 |
| 3. | 救急救命処置について
井上 征雄
MC 指導医師研修会 | 10月14日 | 福岡市 |
| 4. | 熊本地震を経験して
田口 健蔵
第8回 九州労災病院地域連携看護セミナー | 10月29日 | 北九州市 |

著書

- | | |
|----|--|
| 1. | 北九州市総合防災訓練および DMOC 情報伝達訓練・八幡東区防災訓練について
伊藤 重彦
北九州市医報 10 - 13 2016 |
| 2. | DMOC (災害医療作戦指令センター) が行う具体的活動について
伊藤 重彦
北九州市医報 6 - 9 2016 |

その他

- | | | |
|----|--------------------------|-------|
| 1. | 井上 征雄
エルスタ九州 講師 | 1月7日 |
| | JPTEC 北九州更新コース 世話人 | 1月27日 |
| | 北九州 DMAT ブラッシュアップセミナー 講師 | 1月30日 |
| | JPTEC 熊本コース 世話人 | 2月6日 |
| | 日本集団災害学会 (山形) | 2月27日 |
| | 遠賀・中間事後検証会 | 2月18日 |
| | 福岡県医師会災害研修会 講師 | 3月6日 |
| | 久留米大学ドクヘリ調整委員会 委員 | 3月7日 |
| | 北九州市事後検証会 検証委員 | 3月17日 |
| | 北九州市医師会災害研修会 講師 | 3月19日 |
-

北九州地域 MC 合同研修会	3月16日
熊本地震 DMAT 派遣	4月15日
G7 エネルギーサミット大臣会合 DMAT 派遣	5月1日
北九州市事後検討会 委員	5月19日
遠賀・中間事後検証会	5月25日
エルスタ九州 講師	5月26日
久留米大学ドクヘリ症例検討会 委員	6月20日
特定行為指示医師研修会	6月28日
ここが知りたいフォーラム 世話人	7月2日
北九州市事後検証会 委員	7月21日
エルスタ九州 講師	7月28日
遠賀・中間事後検証会	8月18日
エルスタ九州 講師	8月26日
北九州市事後検証会 委員	9月15日
西部地区 CPCR セミナー 委員	9月29日
北九州 ER セミナー 世話人	9月30日
福岡県 DMAT 技能維持研修会 講師	10月23日
メディカルラリー福岡 運営スタッフ	10月22日
MCLS コース 管理世話人	11月12日
日本救急医学会（東京）参加	11月17日－19日
エルスタ九州 講師	12月26日
北九州市事後検証会 委員	11月22日
DMOC 訓練 スタッフ参加	12月3日
2. 伊藤 重彦	
消防庁研究	
平成 28 年度 消防庁消防防災科学技術推進制度「高齢者救急搬送の適正化及び DNAR 対応に関する研究」 （代表研究者）	
平成 28 年度 消防庁研究：「緊急度判定体系の市民への普及・利用促進ツールの開発」（分担研究者）	
平成 28 年度 一般財団法人救急振興財団研究：「通信指令の機能強化－効果的な口頭指導の研究」（代表 研究者）	
3. 伊藤 重彦	
地域活動	
救命センター：応急処置コーナー開設。八幡医師会健康フェア 2016	10月2日 北九州市
災害医療チーム：ドクターカーと DMAT 活動展示・解説 北九州空港まつり	9月25日 北九州空港
感染制御室：平成 28 年度 市職員のための感染対策研修会	
第 1 回 6 月 22 日（ウエル戸畑）、第 2 回 8 月 26 日（ウエル戸畑）、第 3 回 10 月 4 日（ウエル戸畑）	
4. 伊藤 重彦	
毎日新聞座談会 患者塾	
1 月 23 日、2 月 27 日、4 月 23 日、5 月 28 日、6 月 18 日、8 月 20 日、9 月 24 日、10 月 22 日、12 月 10 日（以 上 遠賀中間医師会館）	
7 月 2 日（小倉井筒屋）、11 月 3 日（産業医科大学）	

5.	伊藤 重彦		
	訓練参加		
	・新幹線テロ対策訓練	4月1日	小倉駅
	・北九州空港航空機事故訓練	9月22日	北九州空港
	・DMOC 情報伝達訓練	12月3日	八幡病院内
6.	田口 健蔵		
	救急救命九州研修所 シミュレーション 講師	1月18日	北九州市
7.	田口 健蔵		
	厚生労働省 DMAT 隊員養成研修 講師 1 / 20 - 22	1月20日	神戸市
8.	田口 健蔵		
	JATEC 前橋コース 講師 1 / 23 - 24	1月23日	前橋市
9.	田口 健蔵		
	JPTEC 更新コース 講師	1月27日	北九州市
10.	田口 健蔵		
	平成 27 年度 第 3 回 北九州地域 DMAT ブラッシュアップセミナー 講師	1月30日	北九州市
11.	田口 健蔵		
	厚労科研費研究「CBRNE 事態における公衆衛生対応に関する研究」机上シミュレーション 講師	2月8日	広島市
12.	田口 健蔵		
	佐賀 MCLS インストラクターコース 講師	2月13日	佐賀市
13.	田口 健蔵		
	佐賀 MCLS 標準コース 講師	2月14日	佐賀市
14.	田口 健蔵		
	海上保安庁 洋上救急研修	2月24日	福岡市
15.	田口 健蔵		
	佐賀県災害医療従事者研修 講師 3 / 5 - 6	3月5日	佐賀市
16.	田口 健蔵		
	平成 27 年度 福岡県消防学校 救急救命士処置拡大講習 講師 3 / 8、3 / 16	3月8日	福津市
17.	田口 健蔵		
	北九州市医師会災害医療研修 講師	3月19日	北九州市
18.	田口 健蔵		
	山陽新幹線 福岡地区テロ対応訓練	4月1日	北九州市
19.	田口 健蔵		
	熊本地震 DMAT 派遣 4 / 15 - 16	4月15日	熊本市
20.	田口 健蔵		
	熊本地震 厚生労働省 DMAT ロジスティックチーム派遣 4 / 17 - 21	4月17日	福岡市 熊本市
21.	田口 健蔵		
	G7 エネルギー大臣会合 医療対応 5 / 1 - 2	5月1日	北九州市
22.	田口 健蔵		
	救急救命九州研修所 指導救命士研修 シミュレーション 講師 5 / 11、26、30 - 31	5月11日	北九州市

23.	田口 健蔵	平成 28 年度 第 1 回 北九州地域 DMAT ブラッシュアップセミナー 講師	5 月 21 日	北九州市
24.	田口 健蔵	九州地区 DMAT 技能維持研修 講師 6 / 4 - 5	6 月 4 日	鹿児島市
25.	田口 健蔵	厚生労働省 DMAT 隊員養成研修 講師 6 / 8 - 10	6 月 8 日	神戸市
26.	田口 健蔵	救急救命九州研修所 指導救命士総合シミュレーション 講師 6 / 23 - 24	6 月 23 日	北九州市
27.	田口 健蔵	厚生労働省 DMAT 隊員養成研修 講師 6 / 29 - 7 / 1	6 月 29 日	神戸市
28.	田口 健蔵	佐賀 MCLS インストラクターコース 講師	7 月 16 日	佐賀市
29.	田口 健蔵	佐賀 MCLS 標準コース 講師	7 月 17 日	佐賀市
30.	田口 健蔵	救急救命九州研修所 指導救命士総合シミュレーション 講師	7 月 28 日	北九州市
31.	田口 健蔵	救急救命九州研修所 シミュレーション 講師 8 / 1、3、26	8 月 1 日	北九州市
32.	田口 健蔵	平成 28 年度 内閣府大規模地震時医療搬送訓練 講師	8 月 6 日	岡崎市
33.	田口 健蔵	JATEC 福岡コース 講師	8 月 20 日	福岡市
34.	田口 健蔵	マイテクセンター北九州 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習 講師	8 月 21 日	北九州市
35.	田口 健蔵	九州地区 DMAT 技能維持研修 講師 8 / 29 - 30	8 月 29 日	福岡市
36.	田口 健蔵	海上自衛隊補給艦ましゅう搭乗訓練	9 月 1 日	佐世保市
37.	田口 健蔵	平成 28 年度 第 2 回 北九州地域 DMAT ブラッシュアップセミナー 講師	9 月 2 日	北九州市
38.	田口 健蔵	厚生労働省 DMAT 隊員養成研修 講師 9 / 14 - 16	9 月 14 日	神戸市
39.	田口 健蔵	JATEC 長崎コース 講師	9 月 24 日	長崎市
40.	田口 健蔵	平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金「首都直下型地震・南海トラフ地震等の大規模災害時に医療チームが効果的、効率的に活動するための今後の医療体制のあり方に関する研究」研究班会議	9 月 30 日	東京都
41.	田口 健蔵	厚生労働省 DMAT 隊員養成研修 講師 10 / 5 - 7 26 - 28	10 月 5 日	神戸市

42.	田口 健蔵	平成 28 年度 北九州市消防局口頭指導技術発表会 講師	10 月 18 日	北九州市
43.	田口 健蔵	救急救命九州研修所 シミュレーション 講師	10 月 19 日	北九州市
44.	伊藤 重彦	新興感染症 産業医科大学 救命救急医学講義	10 月 19 日	北九州市
45.	田口 健蔵	平成 28 年度 北九州空港航空機事故対応訓練・SCU 設置訓練 講師	10 月 20 日	北九州市
46.	田口 健蔵	平成 28 年度 福岡県 DMAT 技能維持研修 講師	10 月 23 日	北九州市
47.	田口 健蔵	平成 28 年度 DMAT 九州ブロック実動訓練 講師 11 / 5 - 6	11 月 5 日	島原市
48.	田口 健蔵	厚生労働省 DMAT 隊員養成研修 講師 11 / 9 - 11	11 月 9 日	神戸市
49.	田口 健蔵	平成 28 年度 中国地区 DMAT 連絡協議会実動訓練 講師 11 / 12 - 13	11 月 12 日	雲南市・浜田市
50.	田口 健蔵	救急救命九州研修所 シミュレーション 講師	11 月 30 日	北九州市
51.	田口 健蔵	救急救命九州研修所 シミュレーション 講師	12 月 2 日	北九州市
52.	田口 健蔵	厚生労働省 DMAT 隊員養成研修 講師 12 / 7 - 8	12 月 7 日	神戸市

精神科

研修会

1.	白石康子	生涯学習事業 じんやま・ 「これってうつ？」 あじさい塾 講師	6 月 9 日	北九州市
2.	白石康子	八幡病院市民公開講座 講師 「認知症を知ろう」	6 月 25 日	北九州市
3.	白石康子	認知症対応能力向上委員会研修会 講師	11 月 14 日	北九州市
4.	白石康子	認知症対応能力向上委員会研修会 講師	12 月 8 日	北九州市

眼科

学会・研究会

1. 症候性てんかんと眼筋麻痺を伴った急性網膜壊死
板家 佳子
第 23 回 響 内科眼科糖尿病病診連携の会 7月28日 北九州市

泌尿器科

講演

1. 閉塞性腎盂腎炎の一例
松本 博臣
第 5 回 ほばしらカンファレンス 6月2日 北九州市
2. 陰茎亀頭部に発生した Giant condyloma acuminatum の一例
松本 博臣
北九州泌尿器感染症セミナー 9月5日 北九州市
3. 尿もれ予防講座
松本 博臣
尿もれ予防講座 12月3日 北九州市

薬剤課

学会・研究会

1. 血管新生阻害薬ベバシズマブ治療経過中に発症した破裂性急性大動脈解離の一例
原田 桂作、原田 敬
第 17 回 北九州薬剤師ハートカンファレンス 2月15日 北九州市
2. 睡眠導入剤服用中の高齢者を対象とした睡眠満足度の関する研究
原田 桂作、多田 遼太郎、村木 理英、村本 眞由美、名倉 弘哲
第 26 回 医療薬学会年会 9月18日 京都市
3. 何故薬剤師による吸入支援が必要なのか
原田 桂作
第 7 回 北九州市立八幡病院薬薬連携講習会 10月14日 北九州市
4. 吸入支援 症例報告 (SGD)
田崎 奈緒子
第 7 回 北九州市立八幡病院薬薬連携講習会 10月14日 北九州市

座長・司会

1. 原田 桂作
吸入支援とは
第 1 回 八幡吸入支援研究会 9月16日 北九州市

-
2. 原田 桂作
吸入支援
第2回 八幡吸入支援研究会 12月5日 北九州市

講演

1. 熊本地震での医療支援活動とお薬手帳
末吉 宏成
第53回 くすりのセミナー福岡 7月2日 福岡市

著書

1. CPR が繋いだ命
末吉 宏成
薬剤師のための動ける!救急・災害ガイドブック 羊土社 2016年4月
2. 日医災害医療チーム(JMAT)1班の活動
末吉 宏成
北九州市医報 11月号 2016年11月

その他

1. 末吉 宏成
八幡薬剤師会研修会「無菌調製実習研修会」講師 1月31日 八幡薬剤師会
2. 福永 竜一
疎経活血湯の治験例(文献)に対する考察・討論 2月17日 戸畑薬剤師会事務所
3. 末吉 宏成
北九州市医師会災害医療訓練研修会(薬剤師セッション) 3月19日 小倉医師会館
4. 末吉 宏成
熊本地震 DMAT 派遣 4/15 4月15日 熊本市
5. 末吉 宏成
熊本地震 JMAT 派遣 4/20 - 4/23 4月20日 熊本市
6. 末吉 宏成
G7 北九州エネルギー大臣会合救急医療支援活動後方支援 5/1 - 5/2 5月1日 北九州市
7. 福永 竜一
頑固な便秘に用いる漢方処方解説 5月11日 戸畑薬剤師会事務所
8. 福永 竜一
慢性腎不全に用いる漢方処方解説 7月13日 戸畑薬剤師会事務所
9. 福永 竜一
生姜瀉心湯にみる生姜と乾姜の役割(文献)に対する考察・討論 9月13日 戸畑薬剤師会事務所
10. 末吉 宏成
日本災害医療薬剤師学会会員活動報告「熊本地震における医療支援活動」 9月14日 北九州市
11. 末吉 宏成
北九州市八幡薬剤師会業務連絡誌「八幡病院の救急・災害医療を支える救急認定薬剤師と災害医療支援薬剤師」 9月20日 八幡薬剤師会
-

-
12. 末吉 宏成
日本集団災害医学会 PhDLS (災害薬事) プロバイダーコース研修会 インストラクター
11月23日 大阪府立急性期・総合医療センター
 13. 末吉 宏成
北九州市医報 11月号「日医災害医療チーム(JMAT) 1班の活動」執筆 11月23日 北九州市医師会
 14. 末吉 宏成
日本集団災害医学会 PhDLS (災害薬事) プロバイダーコース研修会 運営・進行
11月27日 JICA 九州
 15. 末吉 宏成
けやきプロジェクト「知って得するくすりのはなし 車を運転するとき注意すべきくすり。飲み合わせに注意するために」
12月7日 北九州市
 16. 福永 竜一
咳喘息に対する麻杏甘石湯の治験例(文献) に対する考察・討論 12月14日 戸畑薬剤師会事務所

放射線技術課

学会・研究会

1. 聴覚障害者に対するタブレットを用いた CT 検査案内の運用報告
永友 徹、九町 章博、満園 裕樹、入部 勝博、山下 三樹
第2回 福岡県診療放射線技師会学術大会 6月26日 福岡市
2. ボーラストラッキングデータから算出した血管外漏出判断カットオフ値の検討
満園 裕樹、入江 佳世、九町 章博、宗吉 祐樹、入部 勝博、山下 三樹
第32回 日本診療放射線技師学術大会 9月17日 岐阜市

座長・司会

1. 満園 裕樹
次世代 CT に対応する技術と責任
第8回 九州 CT 研究会 5月7日 北九州市
2. 満園 裕樹
ITEM & RSNA トピックス
北九州 CT 勉強会 6月4日 北九州市
3. 満園 裕樹
シンポジウム「X 線 CT 診断参考レベル」
第2回 福岡県診療放射線技師会学術大会 6月25日 福岡市

講演

1. 安全管理
満園 裕樹
平成 28 年度 X 線 CT 認定技師指定講習会 8月20日 北九州市

2. 多変量解析のすすめ

満園 裕樹

第5回 九州CTサマーセミナー

8月28日 北九州市

臨床検査技術課

学会・研究会

1. 脾悪性腫瘍の1例

栗田 恵利

さらくら画症

1月21日 北九州市

2. 北九州市で発生した細菌性赤痢集団感染事例を経験して

荒木 猛

日本環境感染学会

2月20日 京都市

3. 八幡病院の耐性菌報告書の活用方法について

荒木 猛

地域連携カンファレンス

2月29日 北九州市

4. 慢性胆のう炎と診断されたびまん性胆のう癌の一例

近藤 嗣通

さらくら画症

3月17日 北九州市

5. 当院における下肢静脈エコーを用いたDVTスクリーニング

近藤 嗣通

ひびき灘心血管エコークラブ

3月23日 北九州市

6. 判断に苦慮したメッケル憩室の一例

栗田 恵利

さらくら画症

5月19日 北九州市

7. 腎動静脈瘻の1例

近藤 嗣通

さらくら画症

8月18日 北九州市

8. 当院におけるバスキュラーラボ

近藤 嗣通

CTIV 第23回 九州沖縄地方会

8月19日 福岡市

9. 肝P-Vshuntのエコー所見と臨床的意義

近藤 嗣通

さらくら画症

10月20日 北九州市

10. 肝腫瘍性病変の3症例

栗田 恵利

さらくら画症

12月15日 北九州市

リハビリテーション技術課

学会・研究会

1. 当院での長期的な監視型運動療法の継続がもたらす効果
武田 良太、高橋 倍美、砂山 明生、田中 正哉、太崎 博美
日本心臓リハビリテーション学会 第2回 九州支部地方会 10月29日 福岡市
2. 当院でのNSTにおける言語聴覚士の役割
広山 奈奈、
第27回 北部福岡 NST 研究会 10月29日 北九州市

看護部門

学会・研究会

1. 多数傷病者受入れ訓練からみえた災害対策本部の役割 情報処理の課題
井筒 隆博、橋本 真美、田口 健三、伊藤 重彦
第20回 日本救急学会九州地方会 6月4日 鹿児島市
2. 「こどもの発熱」に対する電話対応スキルと養育者支援の方向性
山下 奈緒、梶原 多恵、高田 久子、市川 光太郎
第30回 日本小児救急医学会 7月1日 仙台市
3. 小児救急病棟における子どもの入院に付き添う家族の負担の現状
伊與田 久美子、田端 明子、吉田 智絵、森重 優真、杉田 奈津子、梶原 多恵、市川 光太郎
第30回 日本小児救急医学会 7月1日 仙台市
4. 救急外来における看護の質について
片平 力、橋本 真美、土岐 美穂、安部 環、米澤 美穂子
第35回 福岡救急医学会 9月10日 福岡
5. A病棟におけるクリニカルパスの課題への取り組み
福永 聡
第17回 日本クリニカルパス学会学術集会 11月25日 金沢市
6. A病棟におけるクリニカルパスの現状と課題
福永 聡
第17回 日本クリニカルパス学会学術集会 11月26日 金沢市

座長・司会

1. 橋本 真美
救急外来
第36回 福岡救急医学会 9月10日 福岡
2. 角田 直也
救急外来
第36回 福岡救急医学会 9月10日 福岡

-
3. 山下 亮
臨床推論
第7回 九州クリティカル研究会 10月1日 北九州市

講演

1. 子どもの急変時の対応
橋本 優子
社会福祉法人香春会熊西保育園職員研修会 1月20日 北九州市
2. 食物アレルギーへの理解と対応方法
橋本 優子
福岡県認定こども園職員研修（初任者） 2月10日 春日市
3. 食物アレルギーへの理解と対応方法
橋本 優子
福岡県認定こども園職員研修（10年経験者・筑後地区） 3月2日 久留米市
4. 緊急時の対応法と医療機関との連携
橋本 優子
福岡県認定こども園職員研修（10年経験者・福岡／北九州／飯塚地区） 3月8日 春日市
5. 小児看護における救命救急技術
梶原 多恵
産業医科大学保健学部 6月1日 北九州市
6. 急変対応「患者が急変！あなたならどうする」
井筒 隆博
北九州市立八幡病院地域医療従事者研修 6月21日 北九州市
7. 熊本地震での災害活動報告 災害支援を振り返って
井筒 隆博
看護協会北九州5地区支部研修会 7月13日 北九州市
8. 子どものみかたと対応
梶原 多恵
若松区地域ケア研究会・子育てを考える会 8月25日 北九州市
9. 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応
橋本 優子
社会福祉法人香春会熊西保育園職員研修会 10月20日 北九州市
10. 虐待の予防・早期発見等の対策／事故防止及び安全対策（危機管理）
橋本 優子
福岡県認定こども園職員研修（10年経験者） 11月4日 久留米市
11. 災害看護の実際と看護師の役割
井筒 隆博
製鉄記念八幡看護学校 特別講演 11月12日 北九州市
12. 救急看護
角田 直也
救急対応について 11月17日 北九州市
-

-
13. 虐待の予防・早期発見等の対策／事故防止及び安全対策（危機管理）
橋本 優子
福岡県認定こども園職員研修（10 年経験者） 11 月 22 日 福岡市
14. 小児のフィジカルアセスメント
梶原 多恵
福岡県看護協会教育研修 11 月 24 日 福岡市
15. 緊急時の対応法と医療機関との連携
橋本 優子
福岡県認定こども園職員研修（初任者） 12 月 20 日 福岡市
16. 災害医療について
角田 直也
災害について考える 1 月 11 日 北九州市

著書

1. やってはいけない看護
橋本 真美
月間ナーシング 学研 平成 28 年 12 月
2. 新生児の検査の特徴とその評価
梶原 多恵
小児看護 3 月号 へるす出版 平成 28 年 3 月
3. 3 年目に知っておいてほしい 抗菌薬の薬理と種類、使い分け
山下 亮
月間ナーシング 6 月号 学研 平成 28 年 6 月
4. 3 年目に知っておいてほしい 解剖、生理などの暗記対処方法
山下 亮
月間ナーシング 8 月号 学研 平成 28 年 8 月
5. 3 年目に知っておいてほしい 病棟内のベットコントロール
山下 亮
月刊ナーシング 8 月号 学研 平成 28 年 8 月
6. やってはいけない 経腸を開始する場合は、適切なカロリー・投与速度に関する最新の知見を持って管理するのは、今や常識
山下 亮
月刊ナーシング 11 月号 学研 平成 28 年 11 月
7. 私の忘れられない症例
井筒 隆博
エマージェンシーケア メディカ出版 2016 年 4 月
8. 救急看護力パワーアップ集中ドリル 100 小児
井筒 隆博
エマージェンシーケア メディカ出版 2016 年 8 月

-
9. やってはいけない看護ケア 55
井筒 隆博
月刊ナーシング 学研 2016 年 12 月

その他

1. 橋本 優子
北九州市立看護専門学校 講師 12月2日、7日、9日、14日、16日 北九州市
 2. 梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子
北九州市立子どもの館子育て勉強会
1月14日、2月18日、3月10日、4月14日、5月12日、6月9日、7月14日、9月8日、10月13日、
11月10日、12月8日 北九州市
 3. 梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子
小児救急センターニュース発行
 4. 伊與田 久美子
男2代の子育て講座「安全編」 講師 2月14日 北九州市
 5. 橋本 真美
北九州市立看護専門学校 講師 4月6日 北九州市
 6. 角田 直也
熊本地震 DMAT 派遣（業務調整員） 4月14日
熊本地震 JMAT 派遣（看護師・業務調整員） 4月20日、22日
 7. 井筒 隆博
熊本地震 DMAT 派遣活動 4月15日、16日 熊本市
 8. 橋本 真美
熊本地震 DMAT 派遣 4月16日 熊本市
 9. 井筒 隆博
北九州市立看護専門学校 救急看護学 講師 4月27日、5月11日、18日 北九州市
 10. 井筒 隆博
G7 エネルギー大臣会合 医療対応 5月1日、2日 北九州市
 11. 三井 あゆみ
北九州市立看護専門学校 講義 4月、5月
熊西保育園感染研修 講師 5月23日 北九州市
 12. 梶原 多恵
北九州市立子育てふれあい交流プラザ「負傷時マニュアル作成」 6月1日 北九州市
 13. 梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子、川崎 久美子
第11回 小児救急医療ワークショップ in 北九州 7月17日 北九州市
 14. 山下 亮
九州クリティカル研究会 in 鹿児島 8月27日 鹿児島市
 15. 伊與田 久美子
八幡医師会看護専門学院 小児看護学 講師 9月2日、12月16日 北九州市
 16. 山下 亮
第3回 九州栄養懇話会 9月3日 福岡市
-

-
- | | | | |
|-------------|----------------------------|--------|------|
| 17. 福永 聡 | 第2回 がん化学療法看護セミナーパネリスト | 9月3日 | 久留米市 |
| 18. 山下 亮 | 西南女学院大学 講義 | 10月19日 | 北九州市 |
| 19. 伊與田 久美子 | 男2代の子育て講座 安全編 講師 | 10月23日 | 北九州市 |
| 20. 福永 聡 | 医療従事者研修「がん患者の口腔ケアと栄養管理」 講師 | 12月10日 | 北九州市 |
| 21. 山下 亮 | 九州クリティカル研究会 基礎教育講座 2 | 1月30日 | 北九州市 |

看護部研修

- | | | | |
|--------------------------|--|---------------------|-----------|
| 1. プリセプター研修 | 後輩指導、プリセプター | | |
| | 看護部 勝元 美佳 | | 2月4日 |
| 2. 伝達研修 | 「地域と協働で取り組む在宅療養移行支援」
「がんのリハビリテーション研修ー QOL の向上を目指してー」
「おもてなし 気づかひの本質」 | | |
| | 看護部 西田 ゆかり、野村 美映子、佐藤 奈々絵 | | 2月17日 |
| 3. 平成27年度 新規採用者10ヶ月目研修 | 地域医療連携、退院支援 | | |
| | 看護部 波多野 妙 | | 2月18日 |
| 4. 平成28年度 新規採用者入職時研修 | 病院概要・看護部紹介
看護倫理・個人情報保護、医療安全、接遇
看護記録、感染管理、電子カルテ操作
看護技術（おむつ交換、ベッドメイキング、移乗・移送） | | |
| | 看護部 朝久 清美、吉國 佐和子、高澤 浩美 | 4月1日、4月4日、4月5日、4月7日 | |
| 5. 臨時・嘱託職員研修（入職時） | 病院概要、看護部紹介、院内紹介
医療安全、接遇、感染管理 | | |
| | 看護部 吉國 佐和子、高澤 浩美、米澤 美穂子、中川 祐子 | | 4月4日、4月5日 |
| 6. 看護補助者研修（平成28年度 新規採用者） | 病院概要・看護部紹介、院内紹介
医療安全、接遇、感染管理
基礎看護技術（ベッドメイキング、移乗・移送） | | |
| | 看護部 朝久 清美、吉國 佐和子、植田 啓子、中川 祐子、三井 あゆみ、佐藤 奈々絵、吉竹 洋子 | | 4月4日、4月5日 |
-

-
7. 入職時フォロー研修
重症度、医療・看護必要度
看護技術（血糖測定、採血、注射、尿留置カテーテル）
看護部 立石 美枝子、中川 祐子、三井 あゆみ、永井 文恵、塩田 美樹、佐名木 里英、吉武 知美
4月21日
8. 第1回 看護必要度・看護記録研修
診療報酬改定に伴う看護必要度と記録について
看護部 立石 美枝子
4月22日
9. 新規採用者1ヶ月目研修
看護技術（吸引、褥瘡ケア）
看護部 永井 文恵、塩田 美樹、佐名木 里英、吉武 知美、中川 祐子、三井 あゆみ、福永 晶子 5月19日
10. リフレッシュ研修
急変時の看護
看護部 橋本 真美、井筒 隆博
5月27日
11. 第1回 看護補助者研修
医療概要と看護補助の業務
看護技術（食事介助）
個人情報と守秘義務
看護部 吉國 佐和子、佐藤 奈々絵、織田 真由美、杉田 奈都子、吉竹 洋子
6月15日、6月29日、6月30日
12. 新規採用者2ヶ月目研修
メンバーシップ、フィジカルアセスメント 1
薬剤の知識
看護部 山下 奈緒、山下 亮
薬剤課 村本 真由美、末吉 宏成
6月16日
13. 看護補助者研修（平成28年度7月採用者）
病院概要、看護部紹介、院内紹介
個人情報と守秘義務、接遇
看護部 吉國 佐和子、米澤 美穂子
7月4日
14. リフレッシュ研修
フィジカルアセスメント
看護部 川崎 久美子
7月7日
15. 3年目研修
地域連携と退院支援
後輩指導、看護研究、ACLS
看護部 波多野 妙、永井 文恵、井生 恭子、橋本 真美、井筒 隆博
7月21日
16. 第2回 看護必要度・看護記録研修
平成28年度 診療報酬改定に伴う重症度、医療・看護必要度について
看護部 立石 美枝子
8月10日、8月24日
-

17.	新規採用者4ヶ月目研修 ME 機器の取り扱い 臨床工学課 伊香 元裕 急変時の看護・BLS・気管挿管介助 看護部 橋本 真美、井筒 隆博	8月18日
18.	看護部役割別研修 パワーポイント作成 看護部 福永 聡	9月9日
19.	新規採用者5ヶ月目研修 地域連携と退院支援 多重課題、災害看護 看護部 千々岩 洋美、谷石 香津代、橋本 真美、井筒 隆博、角田 直也	9月15日
20.	臨時嘱託職員研修(平成28年度採用) 病院概要、看護部紹介、院内紹介 医療安全、接遇、感染管理 看護部 吉國 佐和子、高澤 浩美、中川 祐子、米澤 美穂子	10月3日
21.	2年目研修 医療・看護の動向 フィジカルアセスメントⅡ、リーダーシップ 看護部 中山 七重、山下 亮、稲葉 ますみ	10月6日
22.	看護部役割別研修 プリセプターフォローアップ 看護部 吉國 佐和子	10月19日
23.	リフレッシュ研修 せん妄患者の治療と看護 看護部 山下 亮	11月11日
24.	第2回 看護補助者研修 労働安全衛生、感染防止、接遇 看護部 吉國 佐和子、中川 祐子、米澤 美穂子	11月11日、11月24日、11月25日
25.	新規採用者7ヶ月目研修 感染管理、医療安全(KYT) 看護部 中川 祐子、高田 久子	11月17日
26.	看護研究発表会	11月17日
1.	小児科外来応援業務の負担軽減に向けた取り組みー外来応援体制構築の第一歩として 看護部 松本 由紀、藤井 あい、田中 美子、木崎 早苗、原田 かをる、梶原 多恵	
2.	ひき逃げで搬送後に死亡した患者家族の心理的变化の分析 看護部 小野 早央理、渡辺 恭子、井筒 隆博、橋本 真美	
3.	西3階病棟における抗がん剤曝露対策の現状と要因の分析 看護部 三澤 真希、福永 聡、塩田 輝美、宗 育子、萩原 明佳	
4.	小児救急病棟における子どもの入院に付き添う家族の負担の現状 看護部 吉田 智絵、伊與田 久美子、田端 明子、森重 優真、杉田 奈都子、梶原 多恵	

-
5. 深部静脈血栓症予防対策マニュアルの作成－看護の統一化を目指して
看護部 上岡 由美、池田 みはる、船原 美津子、青木 悦子、大塚 由美子
6. 糖尿病患者指導の標準化への取り組み－血糖自己測定（SMBG）指導導入へ向けての試み
看護部 高尾 公子、桑野 雅恵、永松 真由美、篠原 吉宏、勝元 美佳
27. リフレッシュ研修
摂食嚥下障害のある患者の看護
看護部 波多野 妙
- 12月9日

院内研究会

ICT 講習会

- 第1回 院内感染対策講習会／ICT 講習会
- 6月14日
1. 院内分離菌の動向について
臨床検査技術課 荒木 猛
2. 抗菌薬使用状況について
薬剤課 米倉 紀子
3. 感染トピックス
看護部 中川 祐子
- 6月14日
- 第2回 院内感染対策講習会／ICT 講習会
- 8月16日
1. 結核について
内科 星野 鉄兵

呼吸サポートチーム研修会

1. 平成 27 年度 第 2 回 呼吸器ケアサポートチーム研修会
「なーんだ！そうだったのか!？」インスピロンネブライザー
集中ケア認定看護師 山下 亮
- 3月16日
2. 平成 28 年度 第 1 回 呼吸ケアサポートチーム研修会
すぐやれる呼吸の聴診～吸引するために知っていて欲しいこと～
看護部 杉野 善彦
- 6月1日
3. 平成 28 年度 第 2 回 呼吸ケアサポートチーム研修会
酸素療法ってどうします？これだけは知って欲しい酸素療法の違い
看護部 金 瑛華、山下 亮
- 8月31日
4. 平成 28 年度 第 3 回 呼吸器ケアサポートチーム研修会
人工呼吸療法～肺を保護する～
臨床工学課 伊香 元裕
- 10月5日

医療安全管理研修会

1. 薬剤課からの情報発信
平成 28 年度 医薬品安全管理部会研修
薬剤課 末吉 宏成
- 6月10日、6月27日

-
2. 平成 28 年度 第 1 回 医療安全管理研修会
「当院における転倒転落事例の検討と対策」
原田 敬、高澤 浩美 5月23日、6月10日、6月27日、7月8日
 3. 平成 28 年度 第 2 回 医療安全管理研修会
「平成 27 年度 リスクマネジメント部会活動報告」
「薬剤課での医療安全の取り組み ダブルチェックに焦点を当てて」
「正しいダブルチェックの方法」
「正しい口答指示の出し方・受け方」
原田 敬、高澤 浩美、小林 和枝、山内 健太郎 8月9日、9月8日、9月13日、10月31日
 4. 院内急変時対応トレーニング
金色 正広、橋本 真美、井筒 隆博、角田 直也、高澤 浩美 7月15日、9月16日、10月21日、1月20日

ソフトアップ委員会研修会

1. 熊本地震と DMAT 活動
平成 28 年度 第 2 回 ソフトアップ委員会研修会
看護部 橋本 真実 7月4日
2. 「熊本地震と JMAT 活動 1」 報告発表
平成 28 年度 第 2 回 ソフトアップ委員会研修会
薬剤課 末吉 宏成、山本 朗子 7月4日
3. 熊本地震と小児救急
平成 28 年度 第 2 回 ソフトアップ委員会研修会
小児科 沖 剛 7月4日
4. 災害医療作戦指令センター (DMOC) について
平成 28 年度 第 2 回 ソフトアップ委員会研修会
伊藤 重彦 7月4日
5. 「がん薬物療法認定薬剤師」ってなに？
平成 28 年度 第 3 回 ソフトアップ委員会研修会
薬剤課 原田 桂作 9月12日
6. 「がん化学療法看護認定看護師」ってなに？
平成 28 年度 第 3 回 ソフトアップ委員会研修会
看護部 福永 聡 9月12日
7. 外来化学療法の流れについて
平成 28 年度 第 3 回 ソフトアップ委員会研修会
外科 山吉 隆友 9月12日

糖尿病教室

1. 「運動療法・フットケア」
上岡 由美、青木 悦子、木崎 早苗、久家 憲子、永松 真由美、吉田 愛、篠原 吉宏、矢野 美佑紀 1月12日
 2. 「合併症と治療」
中村 寛 1月13日
-

-
3. 「低血糖、シックデイ」
上岡 由美、久家 憲子、木崎 早苗、篠原 吉宏、青木 悦子、吉田 愛、上村 亜希子、矢野 美佑紀
1月13日
 4. 「糖尿病薬について」
原田 桂作、山本 朗子、宮野 佳子、田崎 奈緒子、久保地 倫子、米倉 紀子、姫野 英二、中村 祥子、
福永 竜一
1月14日
 5. 「食事療法について」
石田 綾子、奥田 亜子、梅木 加寿子、木下 和
1月14日
 6. 糖尿病食事会「糖尿病の実際」
石田 綾子、奥田 亜子
3月11日

糖尿病栄養教室

1. 「糖尿病とは」
中村 寛
1月12日
2. 「食品交換表演習」
梅木 加寿子、奥田 亜子
6月27日
3. 「Dr. 中村のちょっといい話」
中村 寛
6月27日

アレルギー教室

1. 食事指導
石田 綾子
3月24日
木下 和、梅木 加寿子
10月27日
2. 植田 啓子、杉田 奈都子、梶原 多恵、伊與田 久美子、橋本 優子、森重 優真、阿部 千紗、
本 汐莉、江藤 未有
3月17日、3月24日、10月20日、10月27日

NST ランチタイムミーティング

1. 静脈経腸栄養ガイドラインを見てみよう 小児編
金色 正広
1月6日
 2. 手術期の栄養管理について
吉竹 重乃
1月27日
 3. 八幡病院における濃厚流動食等の種類
石田 綾子
2月10日
 4. 嚥下訓練について
山口 敦子
2月24日
 5. 日本静脈経腸栄養学会報告
金色 正広
3月2日
 6. 口腔・嚥下のあれこれ
金色 正広
3月16日
 7. 小児の経腸補水について
寺地 亜希
3月23日
-

8.	市立八幡病院 NST 活動の紹介 金色 正広	4月6日
9.	市立八幡病院の食事について 梅木 加寿子	4月20日
10.	当院採用の経腸栄養剤と濃厚流動食 金色 正広	5月11日
11.	脂肪は敵か、味方か 脂肪乳剤について 金色 正広	6月1日
12.	腸の花畑って? 腸内フローラとプロバイオティクス 金色 正広	6月15日
13.	ジョコビッチ V.S. 錦織圭 グルテンの話 金色 正広	6月29日
14.	当院の静脈栄養剤について 栢 由起子	8月3日
15.	調理室について 小西 久代	8月10日
16.	どのくらい知っていますか?・・・アミノ酸 金色 正広	8月17日
17.	小児の生活習慣病について 齋藤 明子	8月24日
18.	「なーんか おいしくない」味覚障害の話 金色 正広	9月7日
19.	口の健康を失うと全身の健康が損なわれる 今城 美雪	9月14日
20.	安全な食事介助方法とトロミのつけ方 広山 奈奈	9月28日
21.	番外編 ハワイのシミュレーション教育、患者安全教育 金色 正広	10月5日
22.	新規採用の濃厚流動食と嗜好調査結果速報 梅木 加寿子	10月12日
23.	骨の健康 骨粗鬆症の治療、フォルテオについて 塚本 悠	10月26日
24.	幼児の食事について 梅木 加寿子	11月9日
25.	第27回 北部福岡 NST 研究会報告 金色 正広	11月16日
26.	認知症患者の栄養管理 松岡 フミ	12月14日

クリニカルパス大会

1. 日本クリニカルパス学会および Happy Actis ユーザー会参加報告
第9回 クリニカルパス大会
外科 木戸川 秀生 3月7日
2. 眼科クリニカルパス運用状況について
第9回 クリニカルパス大会
眼科 板家 佳子
看護科 栗田 寿美代、大塚 由美子 3月7日
3. クリニカルパスの課題への取り組みについて
第9回 クリニカルパス大会
看護科 福永 聡 3月7日
4. 口蓋裂手術入院を例としたクリニカルパスにおける DPC 導入対策について
第9回 クリニカルパス大会
形成外科 田崎 幸博 3月7日
5. 結腸切除術パスのバリエーション分析と見直し
平成28年度 第1回 ミニクリニカルパス大会
外科 木戸川 秀生 8月31日
6. クリニカルパスの作り方
平成28年度 第2回 ミニクリニカルパス大会
看護部 福永 聡 10月26日

その他

1. 医療従事者研修
肝臓の話題
外科・呼吸器外科 岡本 好司 2月18日
 2. 新任医師オリエンテーション
薬剤課業務について
薬剤課 村本 眞由美 4月1日
 3. 初期研修医研修会
薬剤課業務について
薬剤課 村本 眞由美 4月5日
 4. 形成外科勉強会
チームでキズをきれいに治す 形成外科的創傷ケアの基本
形成外科 田崎 幸博 5月18日
 5. 新人看護研修会
抗がん剤と糖尿病治療薬の基礎知識
薬剤課 末吉 宏成 6月16日
 6. 平成28年度 新人看護師研修会
麻薬・向精神薬の院内取り扱いについて
薬剤課 村本 眞由美 6月16日
-

-
- | | | |
|-----|--|------------|
| 7. | 八幡病院小児救急センター夏祭り
小児形成外科 Up to Date
形成外科 田崎 幸博 | 8月26日 |
| 8. | 八幡病院小児救急センター夏祭り
小児エコー道場
小児科 小野 友輔 | 8月27日 |
| 9. | 平成28年度 医薬品安全研修会
医薬品安全使用についての手順説明
薬剤課 村本 真由美 | 9月8日、9月13日 |
| 10. | 小児科整形外科カンファレンス
小児肘内障超音波の有用性
小児科 小野 友輔 | 9月21日 |
| 11. | 第8回 小児救急看護勉強会
症状別アセスメントケア 呼吸困難
小児科 生塩 加奈 | 10月19日 |
| 12. | 小児救急看護勉強会 全10回
梶原 多恵、橋本 優子、伊与田 久美子、川崎 久美子 | |

6

委員会報告

災害医療研修センター連絡協議会・災害医療チーム委員会

議長・委員長：
伊藤 重彦

1. 市立八幡病院の災害対応システム

当院は、北九州地域の災害医療対応に対する中核施設であり、災害医療支援におけるコーディネート機能の役割を担っています。院内に設置されている災害対応のセンター、協議会、委員会を図1に示します。災害医療研修センター（DMEC）は、平時において災害医療支援体制、災害医療研修に関する活動を行っています。災害医療作戦指令センター（DMOC）は発災時に設置されるセンターで、市内の災害医療情報を集約、分析する活動を行います。災害医療研修センター（DMEC）連絡協議会は、北九州市医師会医療救護計画に基づく災害支援全般を協議する会議で、委員には北九州市の災害関連部局と八幡病院職員に加え、地域を代表する関連団体・組織として医師会、薬剤師会、歯科医師会、看護協会、学識経験者に参加して頂いています。災害時にはこのメンバーがそのままDMOCに入ります。院内委員会としては、1) 災害対策委員会、2) 災害医療チーム委員会、3) 看護部災害対策チーム委員会があり、発災時のDMATやJMAT派遣、多数傷病者の受入れなど、災害拠点病院の活動に関する協議を行っています。

平成28年度の活動

1. DMEC/DMOCによる災害対応

1) 熊本地震

4月14日に始まった熊本地震は被災地内外に大きな被害をもたらしました。当院は発災当日からDMAT派遣を行い、熊本赤十字病院での本部支援活動をはじめ、避難所アセスメント、セントラル病院で患者避難などの活動を行いました。また、福岡県内にSCU（広域搬送拠点臨時医療施設）が設置された際に北九州市内への後方ベッド確保の要請を受け、病院内にDMOCを設置しました。DMOCでは後方ベッドの確保、搬送・受け入れ調整を行ったほか、熊本県内避難所の診療活動を行うJMATの派遣調整を行いました。また、北九州JMATのトップバッターとして避難所支援を行い、感染予防指導や、診療活動を行いました。

2) G7北九州エネルギー大臣会合

5月1日～2日の開催されたG7北九州エネルギー大臣会合において、集団災害対応のため、DMOCを設置しました。DMATの派遣や、有事の際に円滑な医療支援が行えるよう後方ベッドの確保、各災害拠点病院との連絡・調整を行いました。

2. 訓練について

1) 院内訓練

昨年度に実施した多数傷病者受け入れ訓練で得られた課題から、災害対策本部活動に特化した机上シミュレーション訓練を実施しました。その結果、昨年度に比べ円滑な情報収集、伝達、処理を行うことが出来ました。現在マニュアル改定に向けて取り組んでいます。

2) 院外訓練（写真1～3参照）

当院は北九州市内発生の災害に対するコマンダー施設です。DMATはじめ災害医療チームメンバーは院外の訓練活動にも積極的に参加しています。

- (1) 九州管区広域救急援助隊合同訓練(1月16日～17日)
- (2) 新幹線テロ訓練(4月1日)
- (3) 北九州空港航空機事故対策総合訓練(10月20日)
- (4) 北九州空港SCU訓練(10月20日)
- (5) 北九州市消防局集団救急救助災害対応訓練(NBC災害)(10月28日)
- (6) DMOC情報伝達訓練(12月3日)

3) 講師等派遣

昨年に引き続き、北九州市医師会、福岡県医師会主催の災害医療研修会、福岡県や厚生労働省主催のDMAT隊員要請研修、他県の災害医療研修、DMATの九州ブロック訓練・技能維持研修などで研修・訓練の運営スタッフ（講師）も積極的に派遣し、「災害医療の八幡病院」として活動しました。



写真 1 熊本地震での JMAT-1 出動



写真 2 新幹線テロ訓練の様子



写真 3 G7 エネルギー大臣会合での除染テント設営

ICT委員会・感染制御室

委員長：室長 伊藤 重彦

1. はじめに

当院は、北九州地域の感染対策活動の中核を担っており、北九州市保健福祉局・保健所、NPO法人KRICT（北九州地域感染制御チーム）と協働し、活動しています。院内組織としては、①院内感染対策委員会、②ICT委員会、③リンクナース会と、④院長直属の感染制御室の4部門があります。平成28年の院内活動、地域活動について報告します。

1. 院内感染対策

1) ICTニュース・感制御室通信（毎月発行）

- ・ ICTニュースは毎月発行しています。おもに耐性菌分離状況や抗菌薬使用状況を電子カルテと紙媒体により職員に周知しています。
- ・ 感染制御室通信は、院内感染症流行時に適宜発行しています。平成28年は、インフルエンザの院内流行と対策について週1～3回の間隔で発行しました。

2) 院内サーベイランス（図1～3参照）

抗菌薬使用量（AUD）、耐性菌分離状況、消毒用アルコール使用量と1患者あたりの手指消毒回数を毎週分析し、月単位で院内へ報告しています。

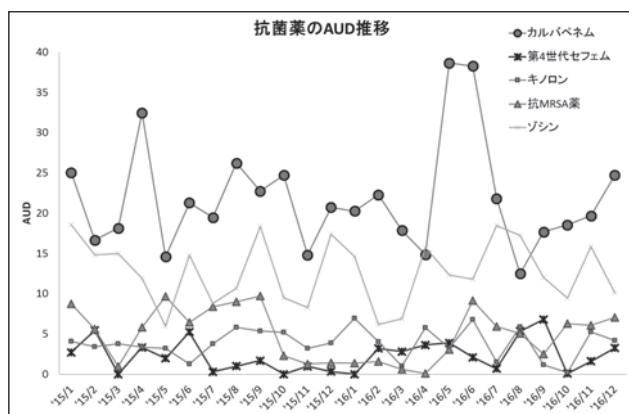


図1：抗菌薬のAUD推移

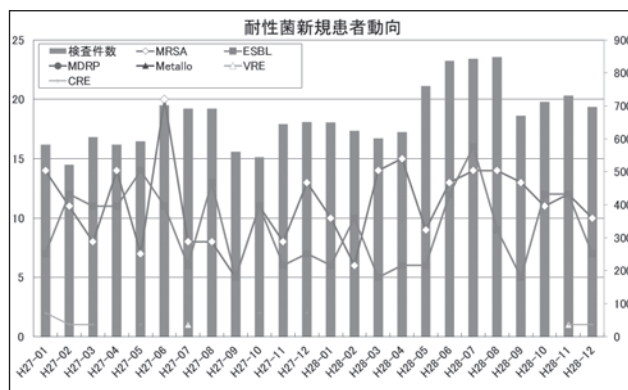


図2：耐性菌新規患者動向

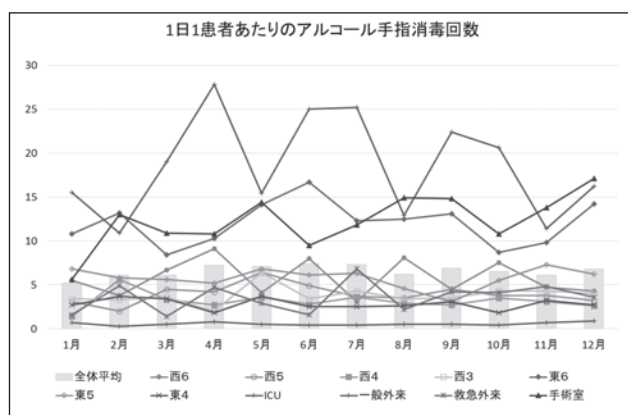


図3：職員の手指消毒回数

3) 感染対策講習会

年2回の必須研修会のテーマは、第1回：ICT委員会の年間活動報告、第2回：結核の話で開催しました。毎年出席率100%を目指していますが、DVD研修等含め出席率は平均90%前後に留まっています。

2. 地域感染対策

1) 北九州市職員のための感染対策研修会

この研修会は八幡病院感染制御室が事務局で、保健福祉局、教育委員会、病院局、消防局、NPO-KRICTの共催で年4回開催しています（表1）。北九州市職員に限らず、近隣地域の保健所からも参加されています。平成28年度は、北九州市職員を中心にのべ650名程度のかたが参加されました。講演に加え微生物学実習や吐物処理などの演習を行い、有意義な研修会となりました。

平成28年度 北九州市職員のための感染対策研修会 プログラム

第1回 研修会		
開催日時	講演 1	〇ここが知りたい感染症トピックス
6月22日(水)	(14:35～15:20)	講師：北九州市保健福祉局 医務監 松本哲朗
開催場所	講演 2	〇食中毒の種類と症状と対策
ウェル戸畑 中ホール	(15:30～16:25)	講師：産業医科大学 感染制御部 鈴木克典
第2回 研修会		
開催日時	講演 1	〇八幡病院における結核疑い患者への対応
8月26日(金)	(14:35～15:20)	講師：北九州市立八幡病院 感染制御室 中川祐子
開催場所	講演 2	〇避難所等被災地における感染対策
ウェル戸畑 中ホール	(15:30～16:25)	講師：北九州市立八幡病院 副院長 伊藤重彦
第3回 研修会		
開催日時	講演 1	〇食中毒について
10月4日(火)	(14:35～15:20)	講師：保健福祉局食品監視検査課 安田 未知子
開催場所	講演 2	〇麻疹・風疹・水痘・ムンプスの症状と対策
ウェル戸畑 大ホール	(15:30～16:25)	講師：北九州市立八幡病院 小児科 天本正乃
第4回 研修会(演習)		
開催日時	講演	〇微生物学と常在菌・環境菌
3月17日(金)	(14:10～15:00)	講師：元産業医科大学微生物学教授 谷口初美
開催場所	演習	〇吐物処理
アシスト21講堂	(15:10～16:20)	講師：北九州市立病院 感染担当看護師

表1：平成28年度 市職員のための感染対策研修会プログラム



市職員のための感染対策研修会の様子

2) 地域連携カンファレンス

当院感染制御室は、地域感染対策活動の一つとして北九州地域65施設が参加する地域連携カンファレンスの事務局をしています。北九州地域を東西にわけた西部地区（感染防止対策加算1施設6施設、加算2施設28施設）では、年間5回のカンファレンスを実施し、耐性菌や抗菌薬、アルコール使用量などを中心にディスカッションを行っています。また、加算1施設では、相互で病院ラウンドを行い、感染対策についての共有の場となっています。

臨床検査部門委員会

委員長：越智 章

1、臨床検査部門委員会の紹介

臨床検査部門委員会は当院の臨床検査部門の向上に係る事項等について審議するため、2ヶ月に1回のペースで会議を開き活動しています。

・臨床検査部門委員会のメンバー

委員長	副院長・診療支援部長	越智 章
委 員	内科 部長	中村 寛
	循環器科 部長	小住 清志
	小児科 部長	石橋 紳作
	外科 部長	野口 純也
	脳神経外科 主任部長	福田 修志
	泌尿器科 主任部長	松本 博臣
	看護部 副看護部長	吉國佐和子
	看護部 看護師長	米澤美穂子
	看護部 看護師長	佐藤奈々絵
	医事係長	白谷 和生
	臨床検査技術課長	宮本 征美
	臨床検査技師長	中村 尚子
	臨床検査技師長	久野 淳二
	臨床検査技師長	荒木 猛

順不同

2、活動状況

【第79回検査部門委員会 平成28年2月3日】

- ・院内会議の開催自粛により、第79回検査部門委員会は中止になりました。

【第80回検査部門委員会 平成28年4月6日】

- 1) 新年度のメンバー紹介
- 2) 救急成人セットへの総コレステロール追加について
 - ・NST 委員から救急成人セットに「総コレステロールを追加してほしい」旨の要望があり、救急成人セットの件数と、査定時に指摘されるかを確認し検討する事とした。
- 3) HIV 検査結果について
 - ・SRL がナビラボシステム導入時（時期未定）にラミネート葉書での報告から、他項目と同様に検査システムにて結果を取り込み、電子カルテに送信する旨のお知らせを受け、当院

でもその方向で検討する事とした。

- 4) FDP 試薬の変更（持ち回り決済済み）
 - ・2016年3月1日より「リアスオート P-FDP」に変更した。
 - ・従来試薬よりもフィブリン分解産物に対する反応が高く、広く捉える事ができる。
 - ・測定範囲が広くなり再検率が低減される。
- 5) SRL 外注検査、クオンティフェロンについて
 - ・2016年2月8日から電子カルテでオーダー開始した。
- 6) その他
 - ・2016年4月1日より遊離脂肪酸（NEFA）の保険点数が廃止となったが小児科から検査継続の要望があり検査を継続する事とした。

【第81回検査部門委員会 平成28年6月1日】

- 1) 救急成人セットへの総コレステロール追加について（NST からの要望）
 - ・入院当初に“ルーチンセット”検査か単独で総コレステロールの検査をするようアナウンスし状況を見てみる。
- 2) 生化学検査保険点数について
 - ・5～7項目93点、8～9項目99点、10項目以上115点。
 - ・セット検査の中でも、必要のない項目はチェックをはずしていただく様お願いした。

【第82回検査部門委員会 平成28年8月3日】

- 1) 細菌培養検査薬剤感受性判定基準の変更について
 - ・変更内容
 - ①薬剤感受性の判定基準を現行の CLSIM100-S19 から M100-S22 に変更。
 - ②新機器導入により測定可能薬剤の変更。
 - ・変更時期

平成28年8月1日受付分より。（7月30、31日提出の保存分を含む）
- 2) HBs 抗原検査のオーダーについて
 - ・電子カルテ検査オーダー画面の HBs 抗原（夜

間・休日／簡易法）と HBs 抗原（時間内／CLEIA 法） について下記のように確認した。

① HBs 抗原（夜間・休日／簡易法） → 夜間と休日の針刺し事故用。

② HBs 抗原（時間内／CLEIA 法） → 時間内の検査用。（針刺し事故含む）

3) 髄液の細菌塗抹検査について

- ・髄液細菌塗抹のオーダー時は細胞数が 6 個 / μ l 以上の時に細菌塗抹を実施、細胞数が 5 個 / μ l 以下の時は細菌塗抹は実施しないので、結果には ***** と入力される事を確認した。

4) その他

- ・小児患者における採血量について、CBC は 500 μ l 以上、凝固は採血管のラインまで、血液ガスは 400 μ l 位採血していただく様お願いした。
- ・小児のアナリーゼ追加は時間外でも連絡していただく様お願いした。
- ・血液ガス検体のエア抜きを出来るだけしていただく様お願いした。

【第 83 回検査部門委員会 平成 28 年 10 月 5 日】

1) CD トキシン検査について

- ・現行試薬の販売中止にともない平成 28 年 9 月 6 日より新試薬に変更した。
- ・変更前は毒素のみの検出であったが、変更後は毒素と抗原を検出可能になった。

2) 時間外におけるフィブリノーゲン測定開始について

- ・平成 28 年 9 月 26 日 16 時半より時間外でのフィブリノーゲン検査を開始した。
- ・測定範囲は 100 ~ 450mg/dl、時間外の測定機種では 100mg/dl 以下の測定ができないため、100 以下の場合は < 100、結果コメントに「後日報告」とし平日時間内に改めて測定し検査値を入力する事とした。

3) 血糖検査の内部標準液の変更について

- ・内部標準液の変更に伴い平成 28 年 9 月 13 日より血糖の検査値が約 4% 上昇している。

4) マイコプラズマ抗原検査について

- ・平成 28 年 9 月 28 日よりプロラスト Myco 検査キットからイムノエースマイコプラズマに変更した。

5) ファーマコゲノミクス (PGX) 検査の対象項目について

- ・UGT1A1 多型検査は電子カルテでの運用とし、その他の検査項目は検討中。

6) 終夜睡眠ポリグラフィー検査 (PSG 検査) について

- ・平成 28 年 10 月 5 日より週 1 回水曜日 1 泊 2 日で開始する事を報告した。

【第 84 回検査部門委員会 平成 28 年 12 月 7 日】

1) ヘパプラスチン検査について

- ・院内で実施しているヘパプラスチン検査の件数が年々減少しており、外注検査への切り替えを含め次回の委員会までに各科で検討して頂く様お願いした。

2) その他

- ・小児患者における採血量について
CBC は 500 μ l 以上、凝固は採血管のラインまで、血液ガスは 400 μ l 位採血して頂く様お願いした。

3、今後の方向性

臨床検査技術課に係わる業務について各委員と意見交換し、今まで以上に必要とされる臨床検査技術課を目指していく。

(臨床検査技術課 荒木 猛)

輸血療法委員会

委員長：越智 章

1、輸血療法委員会の紹介

輸血療法委員会は規約により、「血液製剤の安全かつ適性な運用」「血液製剤の管理」「血液製剤使用による事故防止」等について審議するため、2ヶ月に1回のペースで会議を開き活動しています。

・輸血療法委員会のメンバー

委員長	副院長・診療支援部長	越智 章
副委員長	麻酔科 主任部長	金色 正広
委 員	内科 部長	川口浩太郎
	小児科 主任部長	神菌 淳司
	外科 部長	野口 純也
	整形外科 主任部長	辻 正二
	脳神経外科 部長	福田 雄高
	薬剤課	姫野 英二
	看護部 副看護部長	朝久 清美
	看護部 看護師長	川崎久美子
	看護部 看護師長	永井 文恵
	医療安全管理担当課長	高澤 浩美
	事務局 管理課長	高橋 浩
	臨床検査技術課長	宮本 征美
	臨床検査技師長	荒木 猛
	臨床検査技師	松本 誠也

順不同

2、活動状況

【平成27年度第5回輸血療法委員会(2016/1/8金)】

- 1) 輸血用血液製剤使用実績報告
- 2) 緊急輸血症例報告(緊急Ⅰ:0例、緊急Ⅳ:4例)
- 3) 2015年8、9月分高張アルブミン製剤使用実績の検討
- 4) IR-RBC-LR2 AB型 Rh(+)の在庫について
 - ・ストック製剤として院内に常時在庫を1本置くこととする。(1/12～)
- 5) その他
 - ・IR PC-LR10が廃血になった例について

【平成27年度第6回輸血療法委員会(2016/3/4金)】

- 1) 輸血用血液製剤使用実績報告
- 2) 緊急輸血症例報告(緊急Ⅰ:0例、緊急Ⅳ:2例)

- 3) 2015年12月～2016年1月のアルブミン製剤使用状況

- 4) 血小板・FFP輸血に伴う採血について

【平成28年度第1回輸血療法委員会(2016/5/6金)】

- 1) 2015年度輸血用血液製剤使用実績報告
- 2) 緊急輸血症例報告(緊急Ⅰ:1例、緊急Ⅳ:2例)
- 3) その他
 - ・輸血後3か月後を目途に、感染症の検査を促すよう、多方面から検討していく。

【平成28年度第2回輸血療法委員会(2016/7/1金)】

- 1) 輸血用血液製剤使用実績報告
- 2) 緊急輸血症例報告(緊急Ⅰ:0例、緊急Ⅳ:9例)
- 3) その他
 - ・輸血3か月後の感染症検査について
 - ・輸血シンポジウム2016 in 九州 開催のお知らせ
 - ・日赤より製造販売承認のお知らせ

【平成28年度第3回輸血療法委員会(2016/9/2金)】

- 1) 輸血用血液製剤使用実績報告
- 2) 緊急輸血症例報告(緊急Ⅰ:0例、緊急Ⅳ:1例)
- 3) その他
 - ・照射洗浄血小板-LR及び照射洗浄血小板HLA-LRの供給開始に伴い輸血システムに載せる方向で東芝と調整していることを報告した。

【平成28年度第4回輸血療法委員会(2016/11/4金)】

- 1) 輸血用血液製剤使用実績報告
- 2) 緊急輸血症例報告(緊急Ⅰ:0例、緊急Ⅳ:3例)
- 3) 自己血輸血手順書、自己血輸血説明書の見直しについて

【輸血用血液製剤使用実績と廃血率】

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
IrRCC-LR1	10	29	16	16	19
IrRCC-LR2	497	593	679	575	513
FFP-LR120	23	8	1	20	20
FFP-LR240	132	69	67	97	121
FFP-LR480	98	37	66	26	150
IrPC-5	0	0	2	7	0
IrPC-10	83	155	167	115	124
IrPC-20	0	0	0	1	0
Ir-FTRC-LR2	0	0	3	0	0
自己血	0	0	4	0	1
廃血率	6.7	7.4	4.7	6.8	8.2

3、今後の方向性

適正な輸血療法を行うために各部署と協力し、必要な事項を審議しながら、今まで以上に安全かつ適正な運用が出来るように取り組んでいく。

(臨床検査技術課 荒木 猛)

放射線技術部門委員会

委員長：越智 章

1、放射線技術部門委員会の紹介

放射線技術部門委員会は、当院の診療科に対しより良い診療支援の提供をおこなうことを目的とし、放射線技術部門の質の向上および業務改善に係る事項等について審議するため、本年より2ヶ月に1回の会議を開き活動をはじめました。

・放射線技術部門委員会のメンバー

委員長	副院長・診療支援部長	越智 章
委 員	内科 部長	星野 鉄兵
	循環器内科 主任部長	田中 正哉
	小児科 部長	富田 一郎
	外科 主任部長	木戸川秀生
	整形外科 主任部長	辻 正二
	泌尿器科 主任部長	松本 博臣
	看護部 副看護部長	吉國佐和子
	看護部 看護師長	原田かをる
	医療情報システム担当係長	山口 幸志
	放射線技術課長	山下 三樹
	放射線技師長	清水 艶鳴
	放射線技師長	島田 章弘
	放射線技師長	高森 泰行
	放射線技師長	谷口 和博

順不同

2、活動状況

【第1回放射線技術部門委員会 平成28年5月30日】

1) 透視室の運用について

- ・優先枠の見直しをおこない、優先枠を設定した。

月曜日 11時～13時 内科（気管支内視鏡）

火曜日 15時～17時 泌尿器科・小児科（VCG）

予約枠は2日前の15時に優先を解除しその後空きがあれば予約可能とした。

2) 電子カルテの『緊急オーダー』について

- ・画像検査のオーダー区分（通常・当日中・緊急・事後）のうち『緊急』は救命救急と小児救急専用であることを再確認した。

3) 平成28年度予算による機器購入決定通知

- ・救急部門ポータブル撮影装置（現有機：GE社製 平成5年2月購入）

【第2回放射線技術部門委員会 平成28年9月7日】

1) 塩化ラジウム製剤『ゾーフィゴ』の使用について

- ・導入日程表のとおり進める事で了承された。
- ・塩化ラジウム（Ra-223）注射液を用いる内用療法に適正使用マニュアルより抜粋を示し説明。

2) RI検査日の集約について

- ・現在週3日（月・火・木）のRI検査を行っており、週平均4.2件（内 病診連携1.1件）
- ・このため週2日（月・木）に集約したい旨、放射線技術課より提案をおこない了承された。
- ・緊急の場合などは他の曜日にも行う。
- ・病診連携先には10月3日の連携会にて文書でお知らせする。（病診連携室 了承済み）

3) 透視室の運用について

- ・第1回会議で小児科と泌尿器科とで行うVCG検査について、火曜日15時に優先枠を設けたが、小児科主治医の采配にて他の時間帯にも入れる場合があることを確認した。

4) その他

- ・肺血流シンチは化血研の問題があるため、使用薬剤 Tc-MAA が12月29日までしか使用できないことをお知らせした。

【第3回放射線技術部門委員会 平成28年11月2日】

1) 電子カルテ 小児用オーダーについて

- ・現在一般撮影オーダーにおいて、部位グループ（胸部・脊椎など）に小児があり、その下位に小児独自の撮影メニューをまとめている。
- ・今後はこれを変更し、部位グループの中に必要に応じて小児メニューを配置したい（例：小児の中にあった『小児手根骨』は右）上肢の中に）
- ・マルチセットやDo処方にも組まれているメニューは自動的に変更とならないため一度作り直す必要がある。

2) 大腸 CT (CT Colonography : CTC) 用経口造影剤『コロフォート』について

- ・ 6月に大腸 CT 専用のバリウムが薬事認可されたことにより、低用量下剤による前処置が可能となり受容性が高まることから、当院放射線技術課において放射線科、外科、消化器内科と協力し、診断精度を高める目的で10月24、28日、関係部署が集まり、販売元である伏見製薬による学習会を実施した。
- ・ CTCにおける前処置は、検査精度を左右する重要な要素であるため解説した。

3) 西棟 CT 点検時及び故障時の検査制限について

- ・ ほとんどの単純 CT および血管系を除く1相撮影のみの造影 CT に関しては西棟 CT とほぼ同じ内容の検査が可能だが、一方で、血管系造影 CT や肝臓等の多時相造影 CT では大幅な検査制限や検査実施そのものが難しいケースも存在致する。

また、検査可能なものについても、撮像時間および画像再構成時間の延長、ならびに被曝線量の増加等の影響が存在する。検査の可否等含め、不明な点については事前に CT 担当者にご相談いただくよう確認した。

- ・ 西棟 CT が使用できない場合の対応を、日勤帯かそれ以外、北棟での対応の可否、患者への連絡が必要かどうかなど、ケース別の対応をまとめる。

4) X線透視装置 勉強会について

- ・ 新病院に向け、放射線機器の選定に当たっては医療機器等整備検討委員会の掌握となるが、更新予定の機器についての勉強会を当委員会でおこないたい旨、医療機器等整備検討委員長の岡本副院長の承諾を得た。
- ・ X線透視装置の勉強会を開催。

【東芝メディカルシステムズ】

日時：11月21日（月） 17時より

場所：北棟3階 会議室

【島津製作所】

日時：11月24日（木） 17時より

場所：西棟1階 放射線受付奥

3、今後の方向性

新たな形で活動をはじめたこともあって、今回活動内容の概要を掲載させていただきました。

放射線技術課に係わる業務については、これまで問題の解決、調整を関連部署ならびに関係委員会等にて個別に対応してきました。

今回遅ればせながら当委員会の発足を承認していただきましたので今後は、各委員の皆様とこの会を通じて協議、意見交換をおこない、文字どおり放射線技術課としてできる限りの診療支援をおこなってゆきたいと思っています。

（放射線技術課 谷口 和博）

▶ 広報委員会

委員長：伊藤 重彦

1. 委員会紹介

広報委員会は、広報誌「さらくら」、広報誌「やはた病院ニュース」、ホームページ、診療年報の4事業を大きな柱として活動しています。

広報誌「さらくら」は、連携医療機関さまへ向けて発行しています。開業医の先生に読んでいただくので、当院の医師などスタッフの紹介、診療や手術の内容、新たに導入した機器の紹介など、医療関係者に興味を持っていただけるように専門的な内容を掲載しています。患者さまに当院の満足度を評価していただいたアンケートについても掲載しています。また、連携医療機関さまをご紹介させていただく内容を掲載しています。原稿執筆の依頼に伺っても、開業医の先生はご多忙にもかかわらず快く対応していただき、たいへん助かっております。

広報誌「やはた病院ニュース」は、患者さまやご家族など、当院にお越しの皆さまへ向けて発行しています。当院のスタッフの紹介、診療の内容などを掲載しています。また、例えば花粉症、膀胱炎、肝臓病などのさまざまな病気についても掲載しています。医療関係者ではなく一般の方々に読んでいただくので、興味を持っていただけるように身近な話題を取り上げ、理解していただきやすいように専門的になり過ぎないことを心がけています。今回、入院患者さまに広報誌の評価をしていただき、「役に立つ」など概ね好評の返答をいただきました。記事についてのご要望などご意見を参考にしより充実した内容にしていきたいと思っています。

ホームページは、広く一般の方々へ向けて発信しています。皆さまに閲覧していただくので、医療関係者に向けては専門的な内容を、一般の方々に向けては実用的な内容を分かりやすく掲載しています。見やすく必要な情報が得やすいように配慮しています。また、情報が古くならないように頻繁な更新を心がけています。

本誌である診療年報は、連携医療機関さまへ向けて発行しています。当院の概要、診療科や部門の紹介、業績集、委員会報告などを掲載しています。当院の活動をご理解していただける資料になるよう作成し

ています。

広報活動を通じて、患者さまやご家族の方々、連携医療機関さまなど、皆さまと当院のスタッフとの絆を育んでいけるよう努力してまいります。

(放射線技術課 榎林 斉)

2. 広報誌「さらくら」班

「さらくら第22号」 2016年6月8日発行

- ・連携医療機関のご紹介：つつみこどもクリニック
- ・新！心カテ装置の紹介
- ・平成26年度 患者満足度調査

「外来」の結果について

- ・診療科紹介 小児救急センター

「さらくら第23号」 2016年10月12日発行

- ・連携医療機関のご紹介：八幡西区 浜崎病院
- ・新任 医師・看護師の紹介
- ・平成27年度 患者満足度調査

「入院」の結果について



3. 広報誌「八幡病院ニュース」班

「八幡病院ニュース42号」 2016年1月27日発行

- ・白内障について
- ・高齢者・乳幼児・若い女性に多い

低温やけどにご注意を

- ・知っておきたい感染症・感染対策 No21:

乾燥と感染対策

- ・お知らせ：褥瘡対策チームの取り組み

1 委員会の紹介

リスクマネジメント部会は、毎月インシデント・アクシデント報告の検討や医療安全に関する改善事項の検討、他職種によるラウンド、医療安全情報の発信などを行っている。また、下部組織として医療安全ワーキン、DVT/VTE予防対策ワーキンググループ、呼吸サポートチーム、急変対応トレーニングの企画運営を行い、医療水準の向上を図ることを目標に活動を行っている。

2 活動状況及び実績

1) 平成28年度の活動テーマ

与薬間違いを予防する為に「ダブルチェックの周知徹底」をテーマに、研修会の実施やキャンペーン活動を行った。

2) インシデント・アクシデント報告件数

平成28年度の報告件数は、889件で月平均74件あった。全体の報告数は、年々増加している。その中で、今までは小児による転倒・転落事例が多く発生していた。しかし、平成28年度は活動テーマの効果で、与薬が転倒・転落を抜き1位となった。（図1）与薬の報告は、アクシデント件数は0件で、ヒヤリハットの報告が多かった。重大事故を予防するには、軽微なインシデントの改善による地道な活動が必要であり報告件数が増える事は喜ばしい。

医師の報告は、昨年度より件数が減少し全体の1.3%であった。目標は10%であり、医師からの報告を増やすことが課題である。

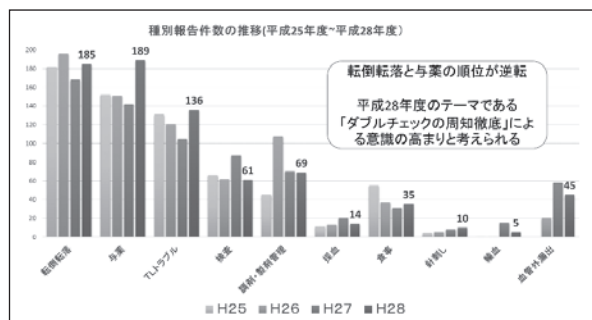


図1：種別インシデント・アクシデント報告件数

3) 医療安全ワーキンググループ

①転倒・転落予防と有害事象発生の早期発見

転倒・転落初期対応シートの改定を行い、運用の見直しなどを行った。抗凝固剤を内服している患者の経過観察が標準化され、重大事故発生の予防に寄与している。

②患者誤認防止

与薬の患者間違いや検査間違いを無くす為に、キャンペーン活動やラウンド評価表を作成し、安全文化の醸成を図る為に活動を行った。

③医療安全推進活動キャンペーン（表1）

期間：11月1日～11月30日

「ダブルチェックの周知徹底」のテーマのもと、各部署で行動項目を決めてポスター作成と活動を行った。活動で、部署での実施内容の周知の違いや院内与薬手順の標準化が課題として、具体的に示された。

部 署	内 容
看護部 病棟	投与前にカルテ指示の前でダブルチェック
看護部 病棟	頓用薬も、役割交代型で!! 読み上げて確認 見て確認
看護部 手術室	時間差攻撃! NO1 ダブルチェックで安心薬剤定数管理!!!
薬剤課	勢い、リズムは大敵 時間を置いた冷静な、ダブルチェックで 薬剤誤認ゼロ!
放射線技術課	受付と現場のダブルチェックで患者誤 認ゼロ達成へ 決まり手は受付と現場でのダブル チェック!!
栄養課	① アレルギーのある患者さんの献立 と配膳内容を配膳前にチェック ② ①と同様に各病棟の配膳時に チェック A (食札の氏名、アレルギーの内容、 料理を確認) B (献立表の氏名、アレルギーの内容、 献立の内容確認)

表1：キャンペーン活動内容 部署抜粋

4) 医療安全ラウンド (1回/月)

他職種10名ほどで実施している。病棟間での
ルールの違いや、あまり見ることのない他部署の
実情を把握でき、協働意識が高まってきた。写真
入の報告書は、各部署に配布し内容を周知してい
る。医療監視では、「分かりやすく活動も活発で
ある」とお褒めの言葉を頂いた。

取り組んでいく。

(医療安全管理担当課長 高澤 浩美)

5) DVT/VTE予防

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線
技師、理学療法士、臨床工学技師の職員でDVT/
VTEの現状調査や予防対策の検討を行っている。
活動前と比べDVT/VTE発生率は低下し、各
職種が自立して活動と連携の効果がみえている。

6) 医療安全管理部門主催講習会

①全職員対象医療安全管理講習会

「平成27年度活動報告」

「正しいダブルチェックのやり方」

「口頭指示の出し方受け方」

「当院における転倒・転落の現状と課題」

②急変対応トレーニング

早期の治療開始と救命の質向上を目的に、
平成28年度から開始した。3名の救急救命
認定看護師と麻酔科医がアドバイザーとし
てACLSとシミュレーション研修を2段階
で実施し、合計4回、看護師37名が参加し
た。

③呼吸サポートチーム研修 (年間4回)

テーマ1: すぐやる呼吸の聴診

テーマ2: 酸素療法ってどうします?

テーマ3: 人工呼吸療法 肺を保護する

テーマ4: 呼吸介助法

3 今後の課題

平成13年にリスクマネジメント部会が設
置、平成23年に医療安全管理室が設置された。
院内での組織作りから始まり、他職種連携によ
る活動が進められてきた。体制を整えば次は質
の向上であり、今後は「医療安全力の向上」を
目標に、安全な医療の提供が出来る人材育成に

医療連携室運営委員会

委員長：太崎 博美

副委員長：崎田 幾子

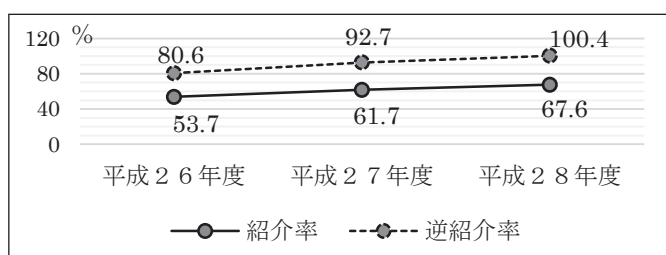
当委員会は、地域の医療機関および関係機関との連携に関する事項を審議し、地域医療機関との連携強化、紹介率・逆紹介率の向上、地域医療支援病院の取得を目標に活動しています。

1 活動状況および実績

1) 医療機関訪問

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
訪問件数	98	95	96	111	93	102	105	122	121	225	306	155	1629
(医師訪問数)					(18)	(9)	(16)	(14)	(10)		(19)	(7)	(93)

2) 紹介率・逆紹介率年度別推移



3) 在宅療養後方支援病院登録患者

小児	2名（入院実績1名）
成人	17名（入院実績1名）

4) 開放病床登録医

H25年	H26年	H27年	H28年	累計
123名	6名	73名	15名	217名

(*共同指導実績なし)

5) 医療連携会開催 (第9回)

日時・場所	H28年10月3日 (月) 19:00~20:40 ・八幡ロイヤルホテル
出席人数	417名 (院内:112名 院外:305名)
講演	講演1:皮膚科主任部長 内藤 玲子 講演2:整形外科主任部長 辻 正二 ・整形外科部長 池井 大輔 救命救急センター紹介:副院長 伊藤 重彦

6) 市民公開講座 (第1回) 参加人数:59名

日時・場所	H28年6月25日 (土) 13:00~15:00 ・北九州市立八幡病院 (大会議室)
テーマ	—認知症を知ろう—
講師	1「認知症とは」精神科部長 白石 康子 2「認知症を予防しよう—みんなで体を動かしましょう」OT 武田 優子・他PT3名

(第2回) 参加人数:54名

日時・場所	H28年11月26日 (土) 13:00~15:00 ・北九州市立八幡病院 (大会議室)
テーマ	—こんなときは注意!あなたの脳を守りましょう—
講師	1「脳卒中の予防と早期発見」脳神経外科部長 福田 雄高 2「脳卒中を予防する暮らし方」脳卒中リハビリテーション認定看護師 波多野 妙

7) 地域医療従事者研修

開催日	テーマ	講 師	参加人数
2月18日	肝臓の話題	外科医師	56名
3月10日	第40回八幡循環器カンファレンス	循環器内科医師	43名
5月17日	第9回プレホスピタルインホスピタルセミナー	救急科医師・消防局救急課課長	172名
5月29日	第5回ほばしら内科カンファレンス	内科医師	65名
6月18日	急変時の対応	救急看護認定看護師	81名
7月 2日	第41回八幡循環器カンファレンス	循環器内科医師	39名
8月17日	褥瘡予防 ―ポジショニング―	皮膚・排泄ケア認定看護師	56名
10月20日	インフルエンザ・ノロウイルス対策	感染管理認定看護師	43名
11月15日	第6回ほばしら内科カンファレンス	内科医師	33名
12月 1日	第42回八幡循環器カンファレンス	循環器内科医師	30名
12月 7日	がん患者の口腔ケア・栄養管理	がん化学療法看護認定看護師	8名

2 今後の課題

積極的な地域医療機関訪問や逆紹介の推進等により、紹介率、逆紹介率は年々増加し、地域医療支援病院の算定要件を十分満たしています。今後は、開放病床の利用実績や医師会や消防署の代表者を含めた委員会設置等の算定要件を整備するとともに、さらに多くの地域住民に当院を利用していただけるよう広報活動に努めます。

クリニカルパス委員会

委員長：木戸川 秀生

【2016年の目標】

クリニカルパスについては特定の診療科での使用にとどまっており、院内全体に周知されていないという問題があった。そこで2016年当初に以下の目標を立てた。

1. パス大会をミニパス大会と改めて短時間（30分）で年に何度も開催する
2. クリニカルパス学会へ積極的に参加する
3. 広報誌を発行する
4. ホームページにてパスを紹介する
5. できるだけ多くのパスを作成・承認する

【ミニパス大会】

従来はパス大会を1年に1度開催していたが、1年に1回の開催ではなかなか出席もままならず職員にクリニカルパスを周知するには不十分と考え、今後「30分1演題のみのミニパス大会」を2ヶ月に1度開催する方針とした。2016年は8月と10月の2回ミニパス大会を開催し多くの方々に参加いただいた。

2016年第1回ミニパス大会（8月31日）

「結腸切除パスのバリエーション分析と見直し」

外科 木戸川 秀生

2016年第2回ミニパス大会（10月26日）

「クリニカルパスの作り方」

西3階病棟看護師 福永 聡

【クリニカルパス学会参加】

2016年11月25日金沢市において第17回日本クリニカルパス 学会学術集会が開催され、当院から初の演題を3題発表した。

1. A病棟におけるクリニカルパスの課題への取り組みについて
演者：福永 聡
2. 結腸切除パスにおける術前機械的洗浄の見直し
演者：木戸川 秀生
3. A病棟におけるクリニカルパスの現状と課題
演者：福永 聡

クリニカルパス学会は各病院で使用している様々なパスがポスターなどで展示されており非常に興味深く、当院でも作成できそうなパスは学会から帰ってから早速作成しておりとても有用な学会である。また次年度も発表を続けたいと考えている。

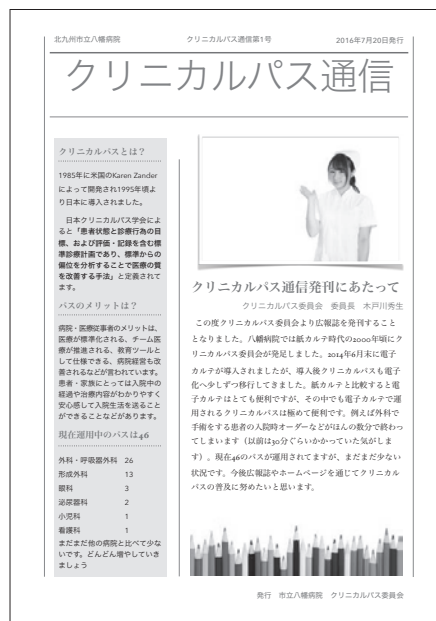
【クリニカルパス通信発行】

クリニカルパス委員会の広報誌として「クリニカルパス通信」を発行することとした。2016年は第1号から第3号まで発行した。印刷はカラーで行い各部署に配付、また電子カルテ上の書類として通知・保存した。（図1）

第1号（2016年7月20日発行）

第2号（2016年9月14日発行）

第3号（2016年10月28日発行）



（図1）

【病院ホームページ掲載】

八幡病院のホームページに「クリニカルパスの部屋」というページを掲載した。（図2）

内容：

1. 承認されているパス一覧
2. 患者パス一覧（ダウンロード可能）
3. クリニカルパス通信PDFファイル（ダウンロード可能）
4. パス大会スライドファイル（ダウンロード可能）



(図2)

【作成したクリニカルパス】

2016年に承認したパスは、内科1、外科・呼吸器外科19、眼科1、泌尿器科2、整形外科2、脳神経外科2、看護科5 の計32個であった。(表1)
2016年末の時点で71個のパスが運用されている。

2016年 承認クリニカルパス一覧

1	内科	A-001	睡眠時ポリソムノグラフィー（1泊2日）	2016/11/16
8	外科・呼吸器外科	D-006	幽門側胃切除術（前日入院）	2016/12/22
9	外科・呼吸器外科	D-007	結腸憩室炎	2016/12/22
28	外科・呼吸器外科	D-027	直腸切除（ストマあり）	2016/8/31
29	外科・呼吸器外科	D-028	CVポート作成（入院中）	2016/5/1
30	外科・呼吸器外科	D-029	虫垂炎外来手術出し	2016/8/31
31	外科・呼吸器外科	D-030	内視鏡的食道静脈瘤治療	2016/7/4
32	外科・呼吸器外科	D-031	重症虫垂炎手術（術後）	2016/7/4
33	外科・呼吸器外科	D-032	胃瘻造設（当日入院）	2016/7/4
34	外科・呼吸器外科	D-033	小児軽症虫垂炎手術	2016/8/31
35	外科・呼吸器外科	D-034	胸水腹水濾過濃縮再静注法（CART）	2016/8/31
36	外科・呼吸器外科	D-035	FOLFOX・FOLFIRI当日入院（3泊4日）	2016/9/29
37	外科・呼吸器外科	D-036	ストマ閉鎖術	2016/9/29
38	外科・呼吸器外科	D-037	大腸憩室出血	2016/11/16
39	外科・呼吸器外科	D-038	急性腸炎	2016/11/16
40	外科・呼吸器外科	D-039	胃十二指腸潰瘍穿孔（手術療法）	2016/11/16
41	外科・呼吸器外科	D-040	胃十二指腸潰瘍穿孔（保存療法）	2016/11/16
42	外科・呼吸器外科	D-042	虚血性腸炎	2016/12/22
43	外科・呼吸器外科	D-043	結腸切除術（前日入院）	2016/12/22
44	外科・呼吸器外科	D-044	胃十二指腸潰瘍出血	2016/12/22
81	眼科	K-004	硝子体白内障手術クリニカルパス	2016/8/31
82	泌尿器科	I-001	経直腸の前立腺針生検	2016/5/1
83	泌尿器科	I-002	TUR-BT	2016/5/1
84	整形外科	E-001	右人工骨頭置換術	2016/8/31
85	整形外科	E-002	左人工骨頭置換術	2016/8/31
86	脳神経外科	F-001	脳血管造影クリニカルパス	2016/8/31
87	脳神経外科	F-003	慢性硬膜下血腫クリニカルパス	2016/8/31
88	西3階病棟	W3-001	西3階病棟看護パス	2016/7/4
89	西4階病棟	W3-002	ストマ造設看護パス	2016/9/29
90	西3階病棟	W3-004	西3階病棟看護パス（化学療法）	2016/8/31
91	西3階病棟	W3-005	西3階病棟看護パス（胆道系）	2016/8/31
92	西3階病棟	W3-006	西3階病棟看護パス（胃・腸）	2016/8/31

(表1：新たに承認されたパスの一覧表)

褥瘡対策委員会

委員長：田崎 幸博

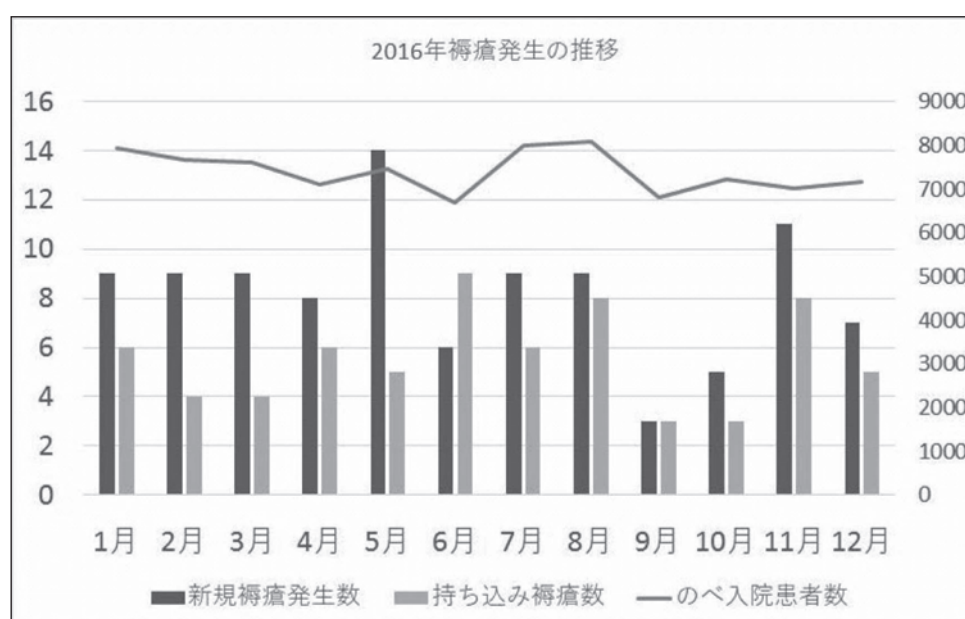
「褥瘡対策委員会」は八幡病院内の褥瘡対策を協議検討し、効率的な推進を図る組織で、年3回の会議を行っています。さらに日々の褥瘡対策にあたる実効的な「褥瘡対策チーム」が組織されており、「統計班」、「マニュアル班」、「セミナー・ニュース班」に分かれて日々の活動を行うとともに、毎週の褥瘡ラウンドを行い、院内の褥瘡マット等の配置管理なども行っています。

2016年の活動報告

●褥瘡統計

統計班は毎月各病棟の褥瘡発生状況を調査集計し、月例報告を行っています。

2016年の八幡病院の褥瘡発生状況をグラフで示します。



●褥瘡マニュアルと回答集

マニュアル班は、褥瘡対策マニュアルに対して毎月寄せられる質問に回答する作業を行いました。さらにこれらを各病棟でいつでも確認できるように、回答集としてまとめ、配布しています。今後整理して、マニュアルを改訂していく予定としております。

●褥瘡ニュース

2015年末から2016年11月にかけて、16号：「褥瘡ラウンドについて」、17号と18号：「褥瘡評価スケール DESIGN-Rについて」を発行し、実践で役立つ情報をわかりやすい記事として提供しました。

●褥瘡セミナー

2016年2月24日に第12回褥瘡セミナーを行いました。

- 1、平成27年度褥瘡発生状況の報告
- 2、褥瘡ラウンドについて活動報告
- 3、講演『被覆材について』

講師 形成外科諸岡真医師

●褥瘡ラウンド

週1回福永皮膚・排泄ケア認定看護師、形成外科医師を中心として多職種からなるチームで、各病棟で問題となっている褥瘡患者のベッドサイドに赴き、状況把握、治療方針検討を行いました。

臨床研修管理委員会

委員長：岡本 好司

1 はじめに

医師法により、診療に従事しようとする全ての医師は、臨床研修を受けることが義務付けられています。当院では、プライマリ・ケアに対処する第一線の臨床医、あるいは高度の専門医を目指す臨床医にとって必要な基礎的知識、技能及び態度を実地に習得させることを目的とし、また、患者の問題を医学的のみならず、心理的、社会的に捉え、正しい人間関係のもとに医師としての倫理・責任感を養うことを臨床研修の目標としています。

当院の臨床研修管理委員会は、研修の進捗状況を把握・評価するため、委員長以下、19診療科全主任部長と他職種、外部委員により構成されています。全診療科が関わることで診療科の垣根を越えた指導を行うことができ、また、研修医が気軽に上級医に相談しやすい環境を整えています。

トレーニングルームに配置しました。

- ・胸腔・心嚢穿刺シミュレーターフルセット MW17 (株式会社京都科学製)
- ・腰椎・硬膜外穿刺シミュレーター"ルンバールくん II" M43B (株式会社京都科学製)
- ・動脈採血シミュレーター M99 (株式会社京都科学製)
- ・CVC穿刺挿入シミュレーターII M93B (株式会社京都科学製)

臨床研修管理委員長 岡本 好司
事務局 増谷 倫典

2 活動状況

(1) 研修医の指導

2016年は小生が臨床研修管理委員長に就任した際の悲願かつ最大目標としていた、基幹型臨床研修病院としての復活、すなわち厚生労働省より再認定を受けることができました。4年ぶりに初期研修医2名(フルマッチ)の採用を行いました。そのほか、協力型臨床研修病院として、市立医療センター、産業医科大学病院など6病院の初期研修医11名を受け入れ、内科、小児科、救急科で研修を行いました。

(2) 研修医確保に向けた取り組み

初期・後期研修医確保のため、様々な事業者が開催する臨床研修合同説明会に出展し、当院のPR活動を行いました。

＜2017年3月6日開催：レジナビフェア 2017 福岡＞

参加者：岡本副院長、太崎副院長、天本統括部長、神薗小児科主任部長、初期研修医(徳永医師、中村医師)、事務局

(3) 臨床研修環境の整備

臨床手技に関するシミュレーターを購入し、院内

電子カルテ委員会

委員長：太崎 博美

副委員長：田崎 幸博

2014年6月に導入された電子カルテシステムも、誰もが日常診療のツールとして馴染んでくるようになり、より効率的、より安全な医療情報の利用について考えていかなければならない段階に入ってきました。

電子カルテ委員会では、本委員会の会議で、電子カルテに関する長期の計画や大きなイベントへの対応を検討するとともに、その下部組織として電子カルテ検討部会が個々の問題に対する具体的な対応を行っています。

●2016年の動向

限られた電子カルテ端末を効率的に利用できるように、また他人の不正なアクセスを防ぐために、一定時間入力がないとロックスクリーンに切り替わるシステムを導入しました。

各自がロックスクリーンに切り替わる前に入力を終了し、正しくログオフを行うことが基本になりますが、ロックスクリーンになっている端末は、他の利用者が強制解除ボタンを使ってログインしなおせるようにしたことで、より安全により有効に電子カルテ端末を利用することができるようになりました。

電子カルテシステムの導入によって情報へのアクセスが格段に容易になりましたが、一方で本来の業務には関わりのない情報への不正な閲覧も可能になってしまうという負の側面もあります。

技術的には閲覧制限をかけることも可能ですが、その情報が本当に必要になったときに制限がかかってアクセスできないという事態は避けなければなりません。

「アクセスログは監視されており、モラルを持ってアクセスすること」を掲示板や文書配布等で周知し、全職員に理解してもらうよう活動を行いました。

2016年6月18日（土）1:00～5:00に電子カルテシステムを停止して、電子カルテバージョンアップ作業が行われました。

このため、前日の20:00から救急受け入れの停止

を行い、小児科ウォークインは紙カルテ・紙伝票での診療となりましたが、大きなトラブルは生じずに無事に終了しました。

また11月12日（土）には停電を伴う受配電法定設備点検作業が行われましたが、このような電子カルテシステムの一時停止や紙運用は、災害時などの不測の事態での運用をシミュレーションすることにもなり、ここでの経験や挙げられた問題点を整理し、今後活用していくことにしています。

電子カルテシステムそのものもバージョンアップにより徐々に使いやすいものとなっていきますが、運用の面でも利用者の声を吸い上げ、対策を検討しながら、より効率的で、より安全なシステムにしていきたいと考えています。

内視鏡委員会

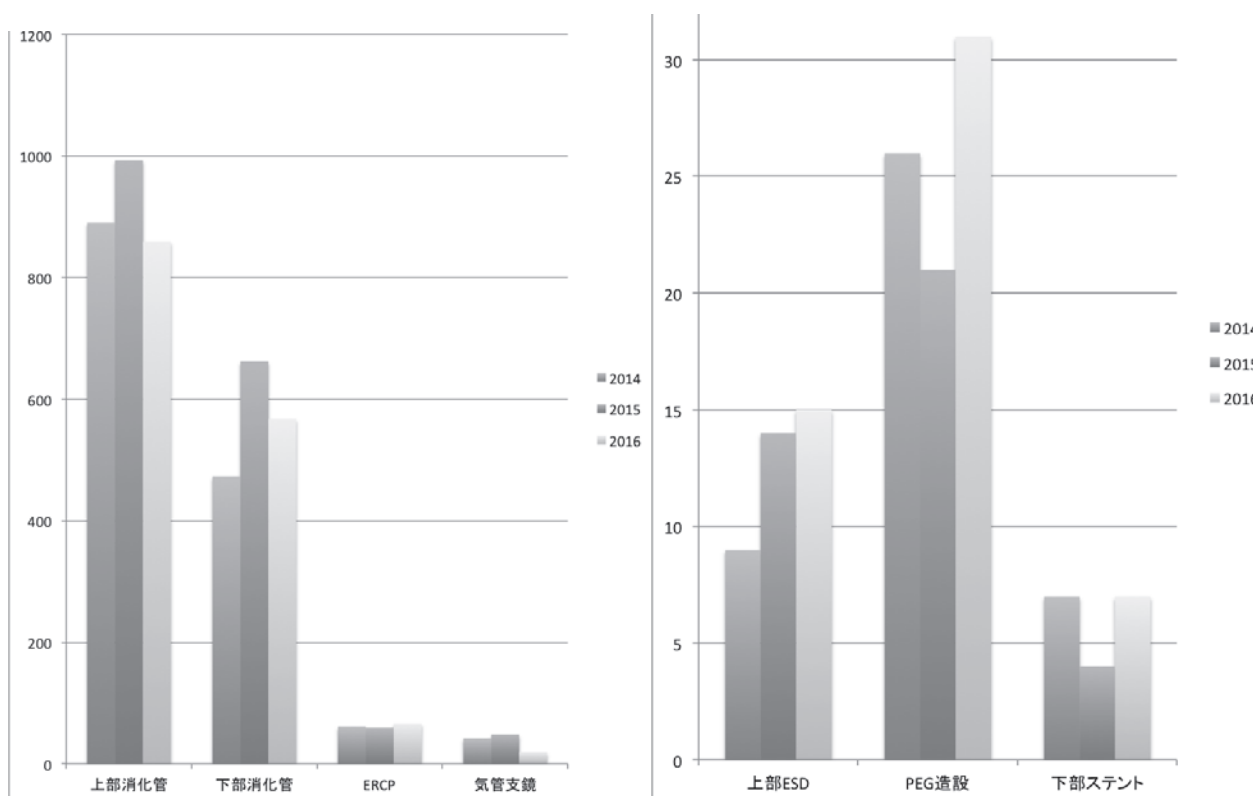
委員長：木戸川 秀生

内視鏡部門委員会は必要時開催の委員会である。平成 28 年は 5 月と 12 月にそれぞれ委員会を開催した。

主な議題としてポータブル気管支鏡を施行した場合に、レポートを記載する方法がなかったため症例数としてカウントされていなかったという問題があった。そのため今後は電子カルテにポータブル気管支鏡の項目を追加しファイルメーカーで所見を記載することが可能になった。また医療安全ラウンドからの報告や新病院での体制などについて議論が交わされた。また次年度購入機器要求に超音波気管支内視鏡を請求することとした。

【2016 年内視鏡件数】

上部消化管 859 件、下部消化管 567 件、ERCP66 件、気管支鏡 19 例、ESD は 15 件であった。



【2016年に新しく導入した機器】

小児に対する内視鏡検査の需要増加に対応できるよう、細径ポータブル気管支鏡であるエアウェイマネジメントモバイルスコープ OLYMPUS MAF TYPE TM と細径大腸スコープ OLYMPUS PCF TYPE PQ260I（先端外径 9.2mm）を導入した。また内視鏡洗浄消毒装置を更新した。



MAF TYPE GM（カメラ付きポータブルBF）

【新病院へむけて】

新病院における内視鏡エリアの図面がほぼ確定した。上部用 2 室、下部用 1 室、X 線透視併用 1 室である。現状では上下部併用 1 室、X 線透視併用 1 室であるため、内視鏡エリアは倍増することとなる。また、内視鏡エリアで前処置から結果説明を行えるようになり、患者動線も改善し予定検査や予約枠の拡大も期待できる。今後はソフト面・ハード面の充実が望まれる。

がん化学療法委員会

委員長：岡本 好司

本邦は、高齢化に伴い癌に罹患する人が益々増加しています。北九州市も例外でなく、がん化学療法委員会では当院で行う化学療法について、学会等で報告された有効性・安全性をしっかりと確認しエビデンスに基づいた治療を行えるよう活動しています。成人科以外にも、当院で多く治療されている小児科のレジメン登録も飛躍的に件数を伸ばし、各職種が集まり患者さん毎の治療方針や問題点などについて話し合うカンサーボードを開催しています。全体の化学療法の調製件数も益々増加しています。委員会メンバーが力をあわせ、当院のがん化学療法体制を充実させてきました。

抗癌剤は治療域と毒性域が近く副作用が出現しやすいため、治療効果と安全性が確認された治療を行う必要があります。医師、薬剤師、看護師など様々な職種が集まり、専門知識を出し合って、患者さんが安心して、安全な治療を受けていただけるよう、チームで診療に取り組んでいます。

■医師の役割

各診療科の医師は、科学的根拠に基づいた治療を選択し、患者さん・ご家族に説明します。近年、様々な癌腫の診療ガイドラインが作成・改訂され、化学療法も推奨レジメンが、癌腫の状態などで設定されており、新規の化学療法も迅速に多く取り

入れられます。これらの情報を下に医師は診療を行っています。化学療法当日は、患者さんの体調を確認し、採血検査等で前療法の副作用の程度を把握した上で、投与実施の可否を総合的に判断し実行します。また、治療薬の増減、補助療法の追加、レジメンの変更などを行い、治療を継続していきます。2016年は2015年に引き続き、病院全体での癌腫の増加、手術数の増加とともに、外来がん化学療法患者数もさらに増加してきており、2017年に向け、さらなる発展を目指し、改善事項や新規に話し合う事例、新規レジメン追加などを委員会として継続的に取り上げていく予定です。

■看護師の役割

看護師は、患者さんが安全・安楽・確実に化学療法を受けられるように、抗がん剤の投与管理と有害事象のマネジメントを行います。現在では、分子標的薬や、さまざまな毒性の異なる抗がん剤を使用するため、患者さん一人ひとりの状態や使用される抗がん剤の特徴を把握した上で看護を実践しています。また、最近では外来化学療法を受ける患者さんが増加しているため、副作用によりクオリティ・オブ・ライフ（以下：QOL）を低下させることなく化学療法が継続できるように、患者さん自身で副作用を自己管理していくための相談やアドバイスを行うなど、患者さんの能力に合

2016年1月～12月抗がん剤無菌調製等診療報酬内訳

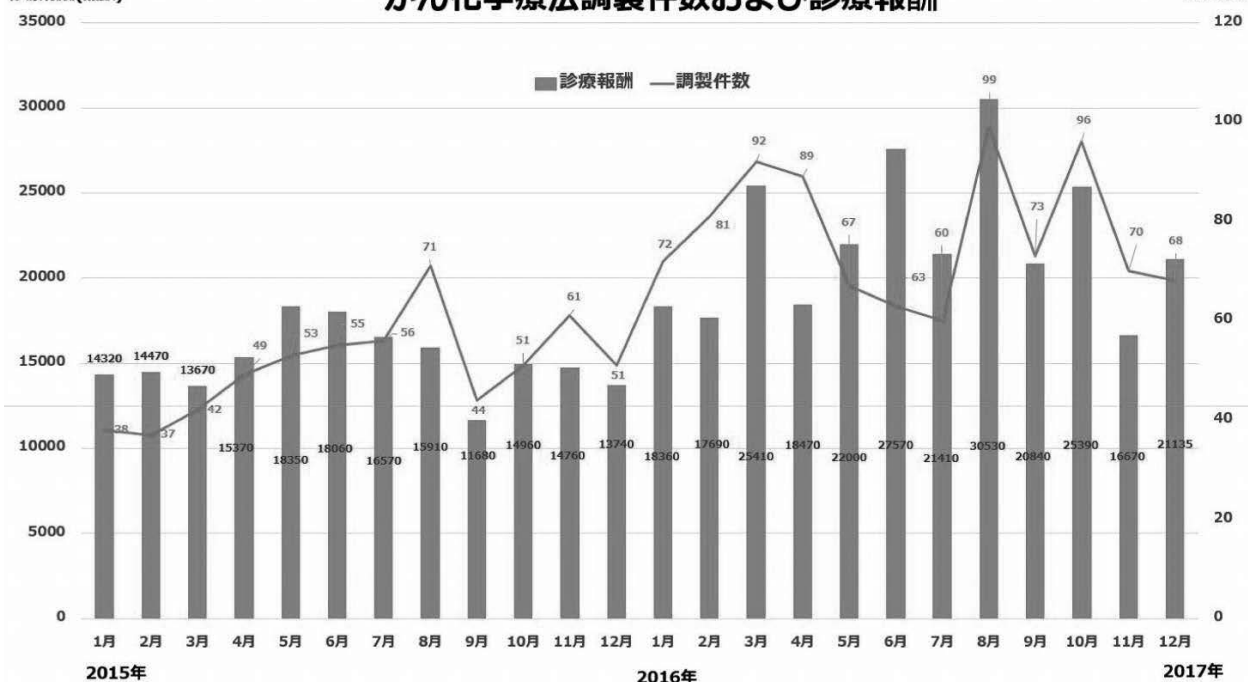
外来化学療法加算2-A(15歳以上470点 15歳未満740点) 外来化学療法加算2-B(15歳以上370点 15歳未満640点) がん患者指導管理料3 200点
無菌調製処理科1:閉鎖式接続器具を使用180点、それ以外45点、無菌調製処理科2:40点

	2016年度										
	外来件数	外来剤数	入院件数	入院剤数	無菌調製 加算	外来化学療法 加算2-A 15歳以上	外来化学療法 加算2-A 15歳未満	外来化学療法 加算2-B 15歳以上	外来化学療法 加算2-B 15歳未満	がん患者管理 指導料3	合計点数
1月	31	57	41	40	4160	11700	700	1400	0	400	18360
2月	29	72	52	93	4340	12600	0	350	0	400	17690
3月	43	111	49	76	5060	15750	2800	1400	0	400	25410
4月	28	61	37	61	4000	11280	2220	370	0	600	18470
5月	38	76	29	50	3400	15040	1480	1480	0	600	22000
6月	47	94	16	44	3090	17390	5180	1110	0	800	27570
7月	38	79	22	56	2940	13630	2960	1480	0	400	21410
8月	56	112	43	79	4980	21620	2960	370	0	600	30530
9月	34	61	39	83	3540	11750	4440	1110	0	0	20840
10月	39	86	57	94	5000	13160	5920	1110	0	200	25390
11月	28	72	42	83	3810	9870	2220	370	0	400	16670
12月	35	81	33	62	3435	11750	3700	1850	0	400	21135
合計	343	722	318	612	34195	125490	31080	9250	0	4000	204015

診療報酬(点数)

がん化学療法調製件数および診療報酬

調製件数



わせたセルフケア支援を行っています。

がん治療では、がんの告知や治療法の選択・変更など意思決定の場面が多く、そのような患者さんに対して精神的な支援や十分な情報提供を行い、患者さん自身が意思決定を行えるように努めています。

■薬剤師の役割

分子標的薬に代表される新規の抗がん剤、治療法が増加していくなかで、レジメン登録の際にしっかり審査し、常に有効で安全な化学療法の標準化に努めています。抗がん剤治療を受けられる患者さんのお薬は原則として薬剤師が無菌混合調製しています。抗がん剤の調製には安全キャビネットと閉鎖式薬物混合システムを導入し薬剤師をはじめ医療スタッフ・周辺環境の安全対策に取り組み、正確に調製を行っています。

患者さん毎に別途ファイル（抗がん剤管理シート）管理し、投与量・投与間隔・採血データ、内服薬についても服用期間・休薬期間などの確認を行っています。副作用の状況等から主治医に必要なお薬を提案することなど、患者さんが安全・安心に治療が受けられるよう努めています。がん化学療法の処方複雑で、がんの種類・臓器により

投与方法が異なります。毒性も強く、薬の専門家として、レジメン審査から実際の投与に至るまでの各場面に携わることが求められます。がん化学療法による副作用で苦しむ患者さんが出ないように、QOLを維持できるよう日々頑張っています。

がん化学療法は院内だけでは完結しません。お薬手帳に患者さんのレジメン情報（治療スケジュール・副作用とその対策方法）を貼付し、退院後のフォローを保険薬局薬剤師と共同で行うために定期的に薬薬連携勉強会を開催しています。

（医師：日本癌治療認定医機構暫定教育医・消化器がん外科治療認定医 岡本 好司、

看護師：がん化学療法看護認定看護師 福永 聡、

薬剤師：がん薬物療法認定薬剤師 原田 桂作）

ソフトアップ委員会

委員長：伊藤 重彦

1. はじめに

ソフトアップ委員会は、明るく活気のある職場、おもいやりと礼儀・規律のある職場、各職員が誇りと自信を持つ行動ができる職場環境をサポートする目的で平成 27 年 10 月に設置された新しい委員会です。院外の地域活動を担当するコミュニティーアクションヘルスサポート委員会と協力しながら活動しています。

2. 委員会発足から平成 28 年度までの活動

1) 朝の挨拶運動

毎月の第一月曜日は、「あいさつの日」です。あいさつと笑顔の大切さを職員が認識する日として、あいさつ運動を行っています。当日は朝 8 時から 15 分間、正面玄関や救命センター玄関、裏玄関の 3 箇所にソフトアップ委員会の腕章を着けた委員が並び、職員や来院する患者さんを、「おはようございます」と大きな声と笑顔で出迎えています。(写真 1)

2) クリーン清掃運動

毎週水曜日はクリーン清掃運動を行っています。



写真 1：挨拶運動の風景



写真 2：クリーン清掃活動の風景

病院敷地内はもちろんですが、病院周囲のタバコの吸い殻やゴミ拾いなども行いながら、八幡駅前地区の環境美化に少しでも貢献できればと考えています。(写真 2)

3) 研修会

医療サービスを提供する職場という点において、患者さんやご家族に対する普段からの接遇が重要と考え、院外から講師を迎えて研修会を開催しています。

また、院内では様々な職種の職員が専門性の高い業務を行っていますが、その職種が、どの資格者がどのような活動をしているか、知らない職員も多いのが現状です。職域の違いを理解し合うための、院内の専門領域を紹介する研修会を開催しています。(表 1)

4) 患者満足度調査

外来患者満足度調査、入院患者満足度調査をそれぞれ毎年 1 回実施し、院外広報誌の「さらくら」に調査結果を報告しています。患者サイドから職員の接遇に関する評価を頂き、接遇教育に生かしていきたいと考えています。

開催日	倫理・接遇意識向上のための研修会
2015 年 12 月 16 日	演題：飲酒運転撲滅に関する研修会 講師：元・福岡県警察官 佐藤 宗利氏
2016 年 1 月 26 日	演題：心を形にすること 講師：スターフライヤー(株) 運送客室本部 客室部 客室乗員課 上野 京子氏
開催日	専門領域シリーズ研修会
2016 年 7 月 4 日	災害医療チーム委員会と合同開催 熊本地震と医療支援 司 会：災害医療チーム委員会 田口 健蔵 講演 1：看護部 橋本 真美氏 (日本 DMAT) 講演 2：末吉 宏成、山本 朗子 (日本 DMAT) 講演 3：小児科 沖 剛
2016 年 9 月 12 日	がん化学療法委員会と合同開催 司 会：がん化学療法委員会委員長 岡本 好司 講演 1：外科医師 山吉 隆友 (がん治療認定医) 講演 2：看護部 福永 聡 (がん化学療法認定看護師) 講演 3：薬剤課 原田 桂作 (がん薬物療法認定薬剤師)

表 1. ソフトアップ委員会開催研修会 (～ 2016 年 12 月)

コミュニティアクション・ヘルスサポート委員会

委員長：伊藤 重彦

1. はじめに

コミュニティアクション・ヘルスサポート委員会は、市立病院として地域に貢献できる活動を行うべきとのコンセプトで、院外に出て積極的に地域活動を行ってきました。また、地域活動のノウハウを学ぶ目的で、地元企業として活躍されているかたを講師にお招きして、年数回研修会を開催しています。平成 28 年のおもな活動を報告します。



オープンスペースでの講義

1. けやきテラスプロジェクトへの出演

けやきテラスプロジェクトは、八幡駅前の活性化を目指した地域のボランティア組織の活動の一つで、八幡病院も参加しています。そのひとつが、当院の職員がスーパーに買い物来ている市民に分かりやすい病気、検査、薬などの話をしています。私たちはこのプロジェクトを「買い物帰りに気楽に立ち寄る市民講座」と呼んでいます。平成 28 年度活動報告です。



市民への応急手当指導

表 1. けやきテラスプロジェクト（買い物帰りに気楽に立ち寄る市民講座）

開催回	月日	担当部署	演者・担当者	テーマ
1 回	10 月 7 日	救命センター	伊藤医師	どんなとき救急車を呼びますか？どんなとき病院に掛かりますか？（高齢者救急）
2 回	10 月 20 日	小児科	高野医師	どんなとき救急車を呼びますか？どんなとき病院に掛かりますか？（小児救急）
3 回	11 月 2 日	感染制御室	中川看護師	あなたの手洗い度をチェック～正しい手洗いとマスクのつけ方～（感染管理認定看護師）
4 回	11 月 15 日	整形外科	古子医師 池井医師	ひざの痛み、肩の痛みについて
5 回	12 月 7 日	薬剤課	末吉薬剤師	知って得するお薬の話～車を運転するとき注意すべきお薬、飲み合わせに注意するお薬など
6 回	12 月 21 日	看護部	角田看護師	もちが詰まった、さてどうしますか？～異物誤飲したときの対処法（救急看護認定看護師）
7 回	1 月 5 日	臨床検査技術課	松本検査技師	病院の検査その 1 血液検査からなにが判るの？
8 回	2 月 1 日	看護部	川崎看護師 山下看護師	誰でも簡単！肺炎予防！（集中ケア認定看護師）
9 回	2 月 15 日	臨床検査技術課	吉田検査技師	動脈硬化が簡単にわかる検査（ABI）って？
10 回	3 月 1 日	災害対策チーム（DMAT）	井筒看護師	災害への備え～普段から準備しておくことはなに？（救急看護認定看護師）
11 回	3 月 15 日	医療連携室	波多野看護師	認定看護師によるわかりやすい“脳卒中の予防”の講話（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）

開催時間：15 時から 1 時間以内、主催：市立八幡病院コミュニティアクション・ヘルスサポート委員会

2. 北九州空港祭りへの出演

今年から北九州空港で開催される空港祭りへ出演することになりました。9月25日(日)は暑い1日でしたが、DMATとドクターが出動し、ちびっ子達のドクター試乗会やDMATユニフォームを着た記念撮影会など行いました。子どもさんやご家族にも楽しんで頂けたと思っています。



市民によるドクターカー見学（北九州空港にて）

3. 八幡医師会健康フェアへの出演

10月2日(日)の八幡医師会健康フェアのイベントコーナーで「応急手当とAEDの使い方」の担当をしました。当院看護部と北九州市消防局ワークステーション職員が協力して、健康診断に訪れた市民に応急手当をAED除細動を体験して頂きました。



市民への応急手当指導（八幡医師会健康フェア）

4. 熱中症キャンペーン

夏の熱中症対策の一環として、北九州市の中学校を対象に熱中症の講義と生徒達による経口補水液の作り方実習を行っています。このキャンペーンは、教育委員会、保健福祉局、消防局、病院局・八幡病院、環境局（キャンペーン用に作成した教育ビデオに「ていたん」出演）の共催で、講師は伊藤重彦副院長と消防局救急課職員です。平成28年開催校5校です。

- (1) 高生中学校（全校生徒 7/4）、
- (2) 松ヶ江中学校（全校生徒 7/6）、
- (3) 枝光台中学校（全校生徒 7/11）、
- (4) 向洋中学校（1年生 7/13）
- (5) 槻田中学校（9/12）



熱中症キャンペーン（中学校での講義）

5. 八幡駅前イルミネーション 2016 への参加

病院裏保育所の壁にイルミネーションを点灯させ、八幡駅前通りの美化に協力しました。

点灯期間：11月11日(金)～1月13日(金) 17時30分～23時00分（初日のみ、18時30分～23時00分）

▶ 病床運営委員会

委員長：太崎 博美

八幡病院は、救急疾患や慢性疾患の急性増悪を扱うため、また、小児から成人まで広い患者層を受け入れるため、病床の必要度が大きく変動する病院です。特に季節により変動する急性期患者を上手に受け入れることが最も重要な課題になります。そのため、病床運営委員会は、小児病床を含む一般病棟、ICU・東6病棟の二つの特殊病床の運営とこれからの病床運営の検討立案を行う委員会として活動してきました。また、医療報酬制度改定による加算要件の設定・変更に関わることも検討する委員会でもあります。そのため医師、看護部、医療支援部と事務方から構成されています。以下 平成28年1月～12月の活動内容です。

まずICUの重症度評価が、H28年10月から移行期間を経て、A評価 $\geq$ 4点かつB評価 $\geq$ 3点70%以上に変更されました。また、これまでは、ICUは、救命救急加算Ⅱにて算定していましたが、小児加算算定には、特定集中加算が必要とのことで、10月から特定集中3の申請に替えています。救急型ICUから入室のルートに関係のない特定集中ICUに変更されたことになります。H28年の平均入室者数は、5.7名/日でした。また、そのうち特定集中3を算定できた患者は、2.9名/日（51%）でした。算定は出来なかった患者も含めて重症度要件を満たす患者は、いずれの月も算定要件の70%以上を満たすことが出来ました。10月の変更後、それまでの救急型ICUと特定集中型ICUの患者算定の比較を行いましたが、いずれの月でも現在の特定集中型ICUが勝っていました。

次いで、東6（16床、救命救急加算Ⅰ、疾病重症度による届け出）の状況ですが、H28年の平均入室者数は、9.7名/日でした。また、そのうち救命救急加算Ⅰを算定できた患者は、3.7名/日（38%）でした。東6は、救命救急加算Ⅰ相当患者（成人、小児）と時間外救急患者（成人）の受け入れ施設ですので、入院患者の中での救命救急加算Ⅰの患者割合が少ないのはある程度仕方のないことと考えています。むしろ、各部門 とりわけ

看護部による一般病棟への迅速な移動による準備空床の順調な確保に感謝をしています。

第3に、一般病棟の看護必要度は、H28年4月に基準の変更がありました。そのため5月～12月で4病棟平均は、23.6%/年でした。9月までで経過措置が終了し、期間がいずれの月も基準である18%を割り込むことなく、順調に加算を取得出来ました。さらに上位の24%を目指して努力をしています。

第4に、H28年もそれまでの3年間の成人一般病棟の占床率の低下傾向に歯止めがかかっていませんでした。そのため、H29年初頭から成人一般病棟の減床を論議始めています。

最後に、将来像の検討について述べます。地域医療構想や新病院構想、北九州市立病院あり方委員会の進行する中で、将来的な本院の病床について、引き続き特殊病床の組み合わせ（ICU、PICU、急性期病床）や一般病床急性期病床の運用～回復期病床“包括ケア病床”の導入を検討しています。今後は、DPC導入や看護必要度が加算に大きな影響を与える診療報酬制度に、本院がいかに対応していくかがきわめて重要になってきていると考えています。

DPC委員会

委員長：太崎 博美

平成 26 年 6 月の電子カルテの導入は、紙から PC への診療手法の単なる変更ではなく、病院内の運用の整理・見直しや統一・一般化を伴う変革でした。さらに DPC 制への移行は、電子カルテによるもう一つの大きな改革と位置づけています。DPC 化により電子カルテ導入が完成することになります。H27 年の DPC 準備委員会から、事務方によるデータの収集を行い、10 月には DPC 係数獲得のためのデータ送付を行いました。H28 年の DPC 準備委員会としては、“DPC とはどんなもの” から始めて、“いかに機能係数 II をあげることが出来るか” まで、院内に説明・理解を求めるために種々の試みを行いました。まず、医師、看護部、医療支援部別に DPC の概要の説明会を開催しました。医師は、既に DPC 病院での勤務経験がある方も多く、実際の面、例えば、最投入疾患をいかに効率よく選択“診療報酬を十分に反映した病名を選択”するかを議論しました。特にそのような病名を拾い上げる方法について、ソフトの導入や事務方からの示唆などの運用方法を決めて行きました。具体的な知識を得る目的で、各科別に、繰り返し疾患別の効率的な病名登録の方法の勉強会も開催しました。また、ジェネリック医薬品割合は、薬剤課が院内処方については使用可能なジェネリック医薬品を推奨する方法で、割合を増していきました。

H28 年 4 月には DPC 病院の認定を得ることが出来ました。これを期に委員会名を DPC 準備委員会から DPC 委員会へ変更しました。DPC 運用で、最も煩雑なことは、入院初日に主病名や契機病名の入力が必要なことです。緊急入院時は、診断や治療のオーダーなどだけでも大変ですが、その上で DPC への入力を求められます。また、退院時も当日までに、最投入病名などの入力を求められます。小児科をはじめとして、当院は平均在院日数が短い患者が多いため、DPC 導入当初は、その運用に大変苦労しました。幸い、医師や DPC 関係の事務方の頑張りで、軌道に乗ってきています。H28 年 4 月からの DPC 運用時の収入

と出来高運用時の比較では、毎月 900 ～ 1300 万円の改善が得られています。また、平均在院日数の解析から、疾患を考慮した上での長期入院患者の洗い出しが可能となっています。いわゆる III 越え（全国平均からかなり長期入院になっている）の患者数は、3 ～ 4% に留まっています。これは、係数の減に繋がるのが 20% 以上と規定されていることを考えると非常に優秀な成績と思います。委員会として、今後も複数ある係数（機能係数 II）の検討を行いながら収入の健全化に向けて努力していきます。

DPC データは、もう一つの病院経営への効果があります。共通の ICD-10 による診断名登録により、各病院間の比較が出来ます。例えば、心不全の入院患者が、市内のどの病院に多いのか？当院はどのような位置づけなのかが分かります。機能別の病院経営を考える際の重要な資料になります。新病院に向けて自病院の姿を見ながら DPC 委員会からの提案をして行きたいと思います。

▶ 新病院及び将来構想検討委員会

委員長：太崎 博美

平成 28 年年頭に新八幡病院建設工事についてスケジュールの発表がありました。いよいよ新病院建設の具体的な工程に着手しました。4 月に図書館の解体→新図書館（半分は新病院管理棟として使用）の開館式がありました。5 月からは、新病院準備工事として整地などの作業が始まりました。また、10 月には着工式があり本体工事が始まりました。

新病院委員会は、毎月開催され 1. 建設進展状況の報告 2. 開院へ向けた準備業務 3. 新病院内設備（ハード） 4. 新病院運用（ソフト）を検討しています。構成は、医師、看護部、医療支援部、事務（庶務、企画、新病院調整官）から成り立っています。H28 年 1 月から 12 月に渡っての検討を紹介します。

最初の建設状況については、工期の遅れはなく進行しています。市民会館側と旧尾倉小学校の段差の調整や工事用のアクセス設定などを行った後、免震構造体設置のために、病院本体の基礎部分の工程が行われました。本稿が出版される頃には、一階部分の鉄骨が外周から見えるようになりますが、H28 年時点ではその基礎を行っていました。2 つ目の開院に向けての準備は、工事開始の案内を近隣の自治体へ行っています。工事車両の出入りや工事に伴う騒音など周辺地域の協力は必須ですが、幸いに好意的な反応でした。

次に、3 つ目の院内の設備の検討は、大きくは建物の建設ラインの設計図に反映される調整官が仲介した病院各部の意見（各セクションのワーキンググループ）と設計図に反映されない備品の準備に分かれます。建設ラインとのやりとりで最終的な実施設計図を完成させています。また、後者に関しては、委員会の中でリストを作成して進行状況をチェックしながら確認しています。リストには、H28.12 月の段階で 21 項目あります（終了と新規追加を組み合わせながら進行しています）。主立ったものとしては、総事業予算と使用内容、医療機器の現有調査と新規検討（別委員会）、引っ越し業務、レストラン・売店、入退院

センターの設置、院内装飾（ホスピタルアート）、院内 LAN、院内放送、院内セキュリティー、自動販売機、バス停～タクシー、病児保育、職員用駐車場、病棟 TV などです。各部署や委員会にお願いする形で、検討を行っています。

最期に新病院での運用ですが、現病院で使用しているマニュアルを改定していく方法で、新病院開院に備えようと考えています。例えば、ハードが変わることにより患者動線は大きく変わってきます。外来は、小児科レベル（1 階）と成人レベル（2 階）で、対応が変わります。また、院内処方は、3 階で受け取ることになります。このような現病院との違いに対して、マニュアルを替えること、あるいは新規作成することで、確認していくことにしています。

これからは、建設ラインによるハードに増してソフトの準備が重要になります。本委員会では、現在の病院の機能を新病院開院に向けて、円滑に移行させていきたいと考えています。院内の皆さんのさらなるご協力を期待します。

認知症対応力向上委員会

委員長：末永 章人

北九州市の高齢化率は、平成 28 年度末において 29.0%であり、3.7 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者です。今後も、高齢者数は上昇し、平成 54 年（2042 年）にピークを迎え、その後は減少に転じますが、総人口の減少に伴い高齢化率は上昇すると予測されています。

当院がある八幡東区においては、さらに高齢化率が進み、平成 28 年度末現在、高齢化率 34.5%と約 3 人に 1 人が高齢者です。また、認知症高齢者（認知症高齢者の自立度Ⅱ以上）の方は、高齢者人口の 13.0%であり高齢者の 8 人に 1 人が認知症高齢者であるといわれています。

このような状況のもと、小児救急センターを併設している当院においても 65 歳以上の高齢者が、全入院患者の 4 分の 1 以上を占め、高齢者の離院や徘徊、暴力行為、睡眠障害による昼夜逆転等、その対応に苦慮しています。

そこで、平成 28 年 5 月に今後も増加していく認知症患者への対応力と医療の質の向上を図ることを目的に多職種で構成される「認知症対応力向上委員会」を立ち上げました。

以下、委員会の概略および平成 28 年の活動を紹介します。

<委員会の紹介>

1) 開催日：概ね 第 4 水曜日 15:00～16:00

2) 委 員：25 名

内科主任部長医師	1 名	臨床検査技師	1 名
精神科主任部長医師	1 名	放射線技師	1 名
副看護部長	1 名	理学療法士	1 名
医療安全担当課長	1 名	管理栄養士	1 名
看護師長	5 名	社会福祉士	1 名
看護師	9 名	事務局	1 名
薬剤師	1 名		

3) 活動内容：

平成 28 年は、委員会設立初年であり、委員会の中でも学習会や研修会報告を実施し、委員の知識や技術の向上を図りながら、研修チームとマニュアル作成チームに分かれて活動しました。

開催した研修会については以下の表をご参照ください。

平成 28 年度末には、「認知症対応マニュアル」を完成させ、各部署に配布することが出来ました。

【表】研修会の開催と参加人数

	開催日	テーマ	講師	参加人数
第 1 回	4/25	認知症の基本を学びましょう	たつのおとしごクリニック 院長 小野 隆生先生	78 名
第 2 回	8/2	北九州市の認知症対策 地域で支える認知症 ～その体制づくりと医療拠点の役割	北九州市保健福祉局地域福祉部 認知症支援・介護予防センター 認知症対策推進係長 猪原 弘行氏	92 名
第 3 回	11/14	認知症の対応力を身につけよう	精神科主任部長 白石 康子先生	82 名
第 4 回	12/8	認知症の対応力を身につけよう	精神科主任部長 白石 康子先生	55 名

4) 今後の展望

当院の「認知症対応力向上委員会」は、まだ始まったばかりですが、院内の体制を強化して高齢者や認知症者に優しい療養環境を提供したいと思っています。将来的には、地域の医療機関や施設とも交流を深め、認知症への理解や情報を共有し地域全体で高めあい、優しい地域づくりを推進していきたいと思っています。

副委員長 朝久 清美

認定看護師会

委員長：吉國 佐和子

1、認定看護師会の紹介

認定看護師（Certified Nurse）とは、日本看護協会認定看護師審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。当看護部では各分野の認定看護師としての看護実践・指導・相談

活動を推進し、質の高い看護の提供への寄与と各認定看護師が連携し組織化して活動ができることを目的として、平成26年に「認定看護師会」を設置しました。担当副看護部長を委員長とし、2ヶ月に1回開催し、それぞれの活動報告や情報交換、認定看護師主催の研修の企画等を行っています。

2、認定看護師会のメンバー

専門分野を活かし院内外でさまざまな活動をしています。【7分野 13名】

委員長	副看護部長	吉國 佐和子
委員	小児救急看護	梶原 多恵・橋本 優子・光吉 久美子
	感染管理	中川 祐子・三井 あゆみ
	脳卒中リハビリテーション看護	波多野 妙
	救急看護	橋本 真美・井筒 隆博・角田 直也
	集中ケア	川崎 久美子・山下 亮
	皮膚・排泄ケア	福永 晶子
	がん化学療法看護	福永 聡

3、活動状況（抜粋）

1）認定看護師会主催研修会

- テーマ：認定看護師教育課程を終えて 角田 直也

2）看護部院内研修講師

- 平成28年度 新規入職者研修
- 看護部全職員対象 小児救急看護勉強会（全10回）

3）八幡西区健康サポート事業 「けやきテラスプロジェクト」講師

- 11月2日（水）感染を防ごう あなたの手洗い度をチェックしましょう。
- 12月21日（水）もちが詰まった、さてどうしますか？～異物誤飲したときの対処法

4）地域医療従事者研修講師

- 6月18日（火）急変時の対応
- 8月17日（水）褥瘡予防 - ポジショニング
- 10月20日（木）インフルエンザ・ノロウイルス対策
- 12月7日（水）がん患者の口腔ケア・栄養管理

4、今後の方向性

「八幡病院認定看護師会ニュース」を定期的に発行し、各認定看護師の活動内容を紹介、看護ケアにおけるコンサルテーションの実施に努めていきたいと思っています。

NST運営委員会

委員長：金色 正広

当委員会は、薬剤課、臨床検査技術課、リハビリテーション技術課（各1名）、栄養管理課、看護部より副看護部長1名、師長3名、各病棟と手術室・外来・救急外来それぞれからのリンクナース、それに各病棟医師により構成されています。

NSTの活動としては、栄養スクリーニング、学習・啓蒙活動、コンサルテーションが3本柱となりますが、委員会は毎月第4週の火曜日に開催し、1ヶ月間の各活動内容を共有したり、具体的な活動計画を立てたりしています。

○栄養スクリーニング

従来から行っている病棟看護師による主観的包括的評価（SGA）に加え、電子カルテの導入によりCONUT法を採り入れています。

CONUT（Controlling Nutritional Status）は、一般的な血液検査内容で客観的栄養指標である 蛋白代謝（血清アルブミン値）、免疫能（末梢血リンパ球数）、脂質代謝（総コレステロール値）をスコア化し、それをもとに算出した値（CONUT値）で栄養状態を評価するものです。栄養不良レベルは正常、軽度、中度、高度の4段階で評価し、点数が多いほど栄養不良は重症化していることになります。

3項目の中でも、特に総コレステロールはアルブミンのように半減期が長くなくまた水分バランスの影響も少ないこと、リンパ球数のように感染に影響されないことより栄養状態の推移を見るのに非常に有用とされています。しかし、栄養不良患者でもなかなか検査オーダーが出されておらず、未だにアルブミン値で栄養を評価されていることが多いことが残念です。

もう1つの課題は、当院に多い小児の栄養スクリーニングに踏み込めていないことです。

○学習・啓蒙活動

毎週水曜日12：30から約30分、「ランチタイムミーティング」と称する気軽な勉強会を開催しています。

栄養に関するミニレクチャーの他、病院食の試食、各メーカー担当者による濃厚流動食や栄養補助食品などの説明会や試飲、試食などを行っています。

病院食の試食は、一部の医師以外は検食がないことや検食をしている医師でも特殊食を口にする機会がないため、非常に貴重な経験です。

また一番患者さんに近い看護師は、学会にでも参加しない限り病院に採用されていない濃厚流動食や栄養補助食品を知る機会がないため、このような場で紹介し知ってもらうことはとても大切なことだと思っています。

○コンサルテーション

毎週水曜日ランチタイムミーティング終了後、病棟から依頼のあった患者にNSTラウンドを行っています。

依頼患者以外にもスクリーニングにより栄養不良で引っかかった患者にもまわらせていただいています。

当院NSTは栄養に関して強制はしません。主治医に対し、お手伝い・アドバイスするスタンスでまわらせていただいています。かなり酷い状態での依頼が多いため、もっと早期より気軽にラウンド依頼がくるようになれば嬉しいです。

▶ 家族と子ども支援委員会

委員長：神蘭 淳司

【委員会設置の背景】

児童相談所全国共通ダイヤルやマスコミのよる虐待の事件報道により国民や関係機関の意識が高まり、子ども虐待相談件数はついに平成27年度10万件を越えた。しかし、医療機関からの相談件数は全体の3%余りに過ぎない。虐待が切迫した急性期の医療機関としての社会的責務は的確な医学的虐待診断である。その未熟性は社会的・法的介入や支援への展開を遅らせる結果を招く。

当院は2014年に児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院に指定され、院内コーディネーターが配属された。2015年には虐待防止委員会を『家族と子ども支援委員会（Family & Child Protection Team：エフ・アンド・シー）』と改名し、委員会会議を月例で定期開催している。当委員会の特徴は院外機関である北九州市子ども家庭局子育て支援課と保健福祉センター・子ども総合センター（児童相談所）とともに事案を共有し、行政との連携に軸足を置いた点である。さらに2016年度からは日本子ども虐待医学会学術集会を契機に地方検察庁検察および事案所轄警察の参加へと発展させ、刑法上の見解と評価を事案検証に加えている。2016年F&C委員会活動実績は以下の表を参照。

【展望】

多職種・多機関との有機的連携による丁寧な事例検討は、拠点病院として技能向上や社会的貢献に留まらず、本邦の子ども虐待医学という社会学の礎になる。当院の多職種・多機関が参加するF&C委員会活動は、子ども虐待予防専門施設としてのみならず、子ども虐待医学教育の場のモデル業務としても社会や子ども虐待医学会に発信していく所存である。

検討症例事案数	2016年												2017年	症例数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	TOTAL	
身体的虐待	1	2	2	3	3	2		1	1	4	2	2	23	
心理的虐待	1	2		1			1	1	1	3			10	
ネグレクト	2		5		2	2			2		3	1	17	
養育環境不良	1			7		1	2	3			3	4	21	
性的虐待									1	2			3	
計	5	4	7	11	5	5	3	5	5	9	8	7	74	

7

各種学会指導医・ 専門医・認定医一覧

(2017年3月31日 時点)

認定修練施設

臨床研修指定病院

日本内科学会認定教育関連病院
日本循環器学会専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会研修関連施設
日本神経学会准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本高血圧学会認定指導施設
日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設
日本老年医学会認定施設
日本外科学会専門医修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設（認定施設）
日本胸部外科学会認定施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設
日本小児科学会専門医研修施設
日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本眼科学会専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔指導病院
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本超音波医学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本プライマリケア学会認定研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本外傷学会外傷専門医研修施設
日本消化器病学会認定施設

各種学会指導医・専門医・認定医

日本内科学会

指導医 太崎 博美、末永 章人、
田中 正哉、小住 清志、
川口 浩太郎、佐貫 仁宣、
中村 寛、星野 鉄兵
総合内科専門医
太崎 博美、末永 章人、
川口 浩太郎、佐貫 仁宣、中村 寛
認定医 太崎 博美、末永 章人、
田中 正哉、小住 清志、
佐貫 仁宣、中村 寛、
川口 浩太郎、星野 鉄兵、
赤田 憲太郎

日本循環器学会

指導医 太崎 博美、田中 正哉、
小住 清志、佐貫 仁宣
専門医 太崎 博美、田中 正哉、
小住 清志、佐貫 仁宣

日本心血管インターベンション治療学会

認定医 原田 敬

日本神経学会

指導医 末永 章人
専門医 末永 章人

日本結核学会

認定医 星野 鉄兵

日本動脈硬化学会

指導医 太崎 博美
専門医 太崎 博美

日本高血圧学会

指導医 太崎 博美

日本老年医学会

指導医 太崎 博美
専門医 太崎 博美

日本消化器病学会

指導医 岡本 好司
専門医 岡本 好司、野口 純也、
川口 浩太郎、上原 智仁、
山吉 隆友

日本肝臓学会

指導医 岡本 好司
専門医 岡本 好司、野口 純也

日本外科学会

指導医 伊藤 重彦、岡本 好司、
野口 純也、木戸川 秀生、
山吉 隆友
専門医 伊藤 重彦、岡本 好司、
野口 純也、木戸川 秀生、
山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、
上原 智仁、田上 貴之

日本消化器外科学会

指導医 岡本 好司、木戸川 秀生、
山吉 隆友、野口 純也
専門医 岡本 好司、木戸川 秀生、
山吉 隆友、野口 純也、上原 智仁
認定医 伊藤 重彦
消化器がん外科治療認定医
岡本 好司、木戸川 秀生、
山吉 隆友、野口 純也、上原 智仁

日本胸部外科学会

指導医 伊藤 重彦

日本糖尿病学会

指導医 中村 寛
専門医 中村 寛

日本呼吸器外科学会

認定登録医
井上 征雄
指導医 伊藤 重彦

日本肝胆膵外科学会

高度技能指導医
岡本 好司

日本内視鏡外科学会

技術認定医
木戸川 秀生

日本呼吸器内視鏡学会

指導医 伊藤 重彦
専門医 伊藤 重彦、星野 鉄兵、
赤田 憲太朗

日本消化器内視鏡学会

指導医 伊藤 重彦、岡本 好司、
川口 浩太郎、木戸川 秀生、
山吉 隆友
専門医 伊藤 重彦、岡本 好司、
川口 浩太郎、木戸川 秀生、
山吉 隆友、野口 純也

日本腹部救急医学会

腹部救急暫定教育医
伊藤 重彦、岡本 好司、
木戸川 秀生
腹部救急認定医
伊藤 重彦、岡本 好司、
木戸川 秀生

日本小児科学会

専門医指導医

市川 光太郎、天本 正乃、
神薗 淳司、今村 徳夫、
高野 健一、富田 一郎、
小野 友輔、小野 佳代

専門医 市川 光太郎、天本 正乃、
神薗 淳司、石橋 紳作、
今村 徳夫、富田 一郎、
富田 芳江、小野 友輔、
小野 佳代、八坂 龍広、
川口 真澄、高野 健一、沖 剛

日本血液学会

専門医 神薗 淳司

日本小児血液がん学会

小児血液がん暫定指導医

神薗 淳司

日本小児外科学会

専門医 新山 新

日本脳神経外科学会

指導医 越智 章

専門医 越智 章

日本整形外科学会

専門医 辻 正二、古子 剛、池井 大輔、
野口 雅夫

認定脊椎脊髄病医

辻 正二

日本形成外科学会

専門医 田崎 幸博
皮膚腫瘍外科指導専門医
田崎 幸博

日本熱傷学会

専門医 田崎 幸博

日本創傷外科学会

専門医 田崎 幸博

日本泌尿器科学会

指導医 松本 博臣

専門医 松本 博臣

日本耳鼻咽喉科学会

専門医 麻生 裕明

日本眼科学会

専門医 板家 佳子

日本麻酔科学会

指導医 金色 正広

専門医 石田 昌一

日本医学放射線学会

専門医 神崎 修一、今福 義博

日本超音波医学会

指導医 神崎 修一

日本IVR学会

指導医 神崎 修一

肺がんCT検診認定機構

認定医 神崎 修一、井上 征雄

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

検診マンモグラフィ読影認定医

今福 義博

日本救急医学会

専門医 伊藤 重彦、木戸川 秀生、
井上 征雄、田口 健蔵

日本精神神経学会

専門医 白石 康子

日本皮膚科学会

専門医 内藤 玲子

日本産婦人科学会

専門医 今福 雅子

日本乳癌学会

認定医 岡本 好司

日本がん治療認定医機構

暫定教育医

岡本 好司

認定医 山吉 隆友、今福 雅子、星野 鉄兵

ICD制度協議会

インфекションコントロールドクター認定医

伊藤 重彦、岡本 好司、

木戸川 秀生、山吉 隆友、

田口 健蔵、星野 鉄兵

日本医療機器学会

認定MDIC

金色 正広

厚生労働省

麻酔科標榜医

金色 正広、石田 昌一

統括DMAT登録者

伊藤 重彦、井上 征雄、田口 健蔵

日本医師会

認定産業医

太崎 博美、田中 正哉、

小住 清志、小住 乃理子、

白石 康子、野口 純也、

金色 正広、上原 智仁

日本外傷学会

専門医 山吉 隆友

日本外科感染症学会

外科周術期感染管理教育医

伊藤 重彦、岡本 好司

外科周術期感染管理認定医

伊藤 重彦、岡本 好司

福岡県医師会

認定総合医

岡本 好司

8

編集後記

編集後記

遠い先のように思われた新病院移転まであと1年余となりました。

建設予定地の尾倉小学校跡では炎天下の中、工事が着々と進んでおります。

2016年は熊本震災が起き、当院からもDMAT隊が派遣されました。今年もまた朝倉地方の豪雨による水害が起こっており、ここ九州でも常に災害と向き合う状況が続いております。

毎年、発行が大幅に年を越してしまう八幡病院年報ですが、今回の2016版発行にあたっては「なんとか夏が終わる前に!」を合い言葉に編集委員一同頑張りました。結果、平年よりはだいぶ早く発行できたのではないかと考えております。

今後の皆様のご多幸とご健勝をお祈りいたします。

(年報編集委員長 木戸川 秀生)

広報委員会委員長	伊藤 重彦 (副院長)
年報編集委員長	木戸川秀生 (外 科)
年 報 編 集 委 員	富田 一郎 (小児科)
	松本 博臣 (泌尿器科)
	中村 祥子 (薬剤課)
	兼田 朋子 (看護部)
	織田真由美 (看護部)
	大岩 直樹 (庶務係)

